Japan Foundation for
Regional Art・Activities

平成30年度
公共ホール現代ダンス活性化事業
報　告　書

一般財団法人地域創造

はじめに

一般財団法人地域創造では、地域における創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりを目的として、地方公共団体等との緊密な連携の下に、人材育成、情報提供、調査研究、財政支援などの事業に取り組んでいます。

平成 17 年度から始まった「公共ホール現代ダンス活性化事業」は、公共ホールの利活用や地域の活性化を図ることを目的として実施するもので、全国公募で選ばれたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域の公共ホールに派遣し、ホールとの共同企画により地域交流プログラム（学校等でのアウトリーチ及び公募のワークショップ）や公演を実施するものです。平成 29 年度より事業を 3 つのプログラム（A プログラム（地域交流プログラム）、B プログラム（市民参加作品創作プログラム）、C プログラム（公演プログラム））に分け、実施するホールが今後のダンス事業のビジョンに基づいてプログラムを選択し、翌年度以降他のプログラムを継続的に実施することが可能になりました。

この事業は、コーディネーター（コンテンポラリーダンスの公演や地域交流プログラムの企画に詳しい専門家）による企画から実施までの支援、全体研修会の開催など、充実したサポート体制のもとに、安心してこの事業に取り組むことができる仕組みづくりを行っており、この事業をとおして公共ホールのスタッフの企画制作能力を高める機会としていただくことも狙いの一つとしています。

この報告書は、実施された全国 15 か所（A プログラム 11 か所、B プログラム 3 か所、C プログラム 1 か所）の各地での取り組みを取りまとめたものです。この中には、実施団体からの報告や担当コーディネーターのレポートを掲載し、事業に関係して気付いた点や企画制作のノウハウや事業を実施する過程において生じた様々な課題や問題点などをケーススタディとして記録するように努めています。

コンテンポラリーダンスがアーティストの数だけダンスがあると言われるように、この事業も地域の実情の違いなどから、事業を実施したホールによって事業へのアプローチが全く異なるなど、地域の数だけモデルがある事業だと言うことができます。

この報告書が、地域の公共ホールで自主事業を担当されている方の参考となり、一人でも多くの方にコンテンポラリーダンスの魅力をお伝えすることができれば幸いです。

終わりに、この事業を主体的、積極的に取り組んでいただいた実施団体、事業の実施にあたりサポートいただいたコーディネーター、事業の趣旨にご賛同いただき派遣をご快諾いただいたアーティスト、その他多くの関係者の皆さま方のご協力により、事業を終了することができましたことに対して、この場をお借りして厚くお礼申しあげます。

一般財団法人地域創造

目次

事業概要

平成 30 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要 …… 2
平成 30 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要 …… 6
事業の流れ …… 8

実施内容紹介（実施日程順）・コーディネーターレポート

【A プログラム】

ながす未来館（熊本県長洲町）…… 10
サントミューゼ　上田市交流文化芸術センター（長野県上田市）…… 16
酒田市民会館　希望ホール（山形県酒田市）…… 22
西宮市民会館アミティホール（兵庫県西宮市）…… 28
小牧市市民会館（愛知県小牧市）…… 34
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（愛知県豊橋市）…… 40
くにたち市民芸術小ホール（東京都国立市）…… 46
宗像ユリックス（福岡県宗像市）…… 52
半田市福祉文化会館　雁宿ホール（愛知県半田市）…… 58
豊岡市民プラザ（兵庫県豊岡市）…… 64
浦添市てだこホール（沖縄県浦添市）…… 70

【B プログラム】

神戸アートビレッジセンター（兵庫県神戸市）…… 78
徳島県郷土文化会館　あわぎんホール（徳島県）…… 86
川根本町文化会館（静岡県川根本町）…… 94

【C プログラム】

入間市産業文化センター（埼玉県入間市）…… 106

事業資料

公募ワークショップチラシ／当日パンフレット …… 114
平成 30 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱 …… 126
コーディネータープロフィール …… 131

事　業　概　要

平成 30 年度公共ホール現代ダンス活性化事業開催概要

1　趣　　旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2　実施内容

(1) 実施団体（都道府県順）

市町村名	実施団体名	主会場（実施ホール名）
【A プログラム（地域交流プログラム）】		
山形県酒田市	酒田市	酒田市民会館　希望ホール
東京都国立市	（公財）くにたち文化・スポーツ振興財団	くにたち市民芸術小ホール
長野県上田市	上田市	サントミューゼ 上田市交流文化芸術センター
愛知県豊橋市	（公財）豊橋文化振興財団	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
愛知県半田市	半田市	半田市福祉文化会館　雁宿ホール
愛知県小牧市	（一財）こまき市民文化財団	小牧市市民会館
兵庫県西宮市	（公財）西宮市文化振興財団	西宮市民会館アミティホール
兵庫県豊岡市	NPO 法人コミュニティアートセンタープラッツ	豊岡市民プラザ
福岡県宗像市	（公財）宗像ユリックス	宗像ユリックス
熊本県長洲町	ながす未来館指定管理者共同事業体 代表企業 （株）サンアメニティ	ながす未来館
沖縄県浦添市	浦添市てだこホール指定管理共同企業体 ティダ・コミュニケーションズ＆リレーションズ	浦添市てだこホール
【B プログラム（市民参加作品創作プログラム）】		
静岡県川根本町	川根本町	川根本町文化会館
兵庫県神戸市	（公財）神戸市民文化振興財団	神戸アートビレッジセンター
徳島県	（公財）徳島県文化振興財団	徳島県郷土文化会館　あわぎんホール
【C プログラム（公演プログラム）】		
埼玉県入間市	（公財）入間市振興公社	入間市産業文化センター

＊対象は地方公共団体、公益法人、指定管理者

(2) 開催時期

平成 30 年 6 月～平成 31 年 3 月

(3) 事業内容

登録アーティストを地域に派遣し、地域の公共ホールと共催で以下のいずれかのプログラムを実施。実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョンに基づいて選択し実施。

① A プログラム（地域交流プログラム）

学校や福祉施設等でのアウトリーチ及び公募によるワークショップ（4 ～ 5 回）

＊アウトリーチ（3 回以上）＊公募のワークショップ（1 回以上）

② B プログラム（市民参加作品創作プログラム）

市民参加で創作した作品の有料公演（1 回）及び公募によるワークショップ（1 回）

③ C プログラム（公演プログラム）

登録アーティストのレパートリー作品の有料公演（1 回）及び公募によるワークショップ（1 回）

(4) 研修会

①全体研修会

日　時：平成 29 年 7 月 31 日 (月) ～ 8 月 2 日 (水)

場　所：東京芸術劇場　＊地域創造フェスティバル 2017 と同時開催

内　容：事業の実施に必要な基礎的な考え方、企画・制作の進め方等についてのノウハウの提供及び登録アーティストによるプレゼンテーション

②現地下見（個別研修）

事業の実施に必要な打合せ及び実施会場の下見等を行うため、登録アーティスト及びコーディネーター等を現地に事前に派遣

(5) 費用負担

地域創造と実施団体が負担する主な経費区分

1）地域創造が負担する経費

①登録アーティスト等派遣経費

派遣対象者の出演料等、現地移動費を除く交通費、宿泊費、日当、損害保険料

※派遣対象者

【A プログラム】

登録アーティスト、アシスタント（ソロの場合 1 名）

【B プログラム】

登録アーティスト、クリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合 2 名まで、デュオの場合 1 名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ 1 名）

【C プログラム】

登録アーティスト、共演者（ソロの場合 2 名まで、デュオの場合 1 名）、テクニカルスタッフ等（公演準備のサポート役として必要と判断されるスタッフ 1 名）

②公演負担金（B プログラム及び C プログラム）

実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、対象経費の 2/3 以内で 50 万円を上限に実施団体に対して負担

2）開催地の地方公共団体等が負担する主な経費（実施するプログラムで異なる）

上記 1）以外の現地移動費、会場使用料、舞台製作費（舞台・照明・音響などに係る経費）、広報宣伝費など諸経費

(6) 事業実施に対する支援

①全体研修会の開催

②コーディネーターの派遣

(7) 主催・共催等

主催：開催地の地方公共団体等　　共催：一般財団法人地域創造

3　平成 30 年度コーディネーター

大澤　苑美（八戸市まちづくり文化推進室 主事兼学芸員）

小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

神前　沙織（NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network チーフ・コーディネーター、プランナー）

坂田　雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター / 株式会社 reto プロデューサー）

中冨　勝裕（（公財）横浜市芸術文化振興財団 横浜赤レンガ倉庫 1 号館 プロデューサー）

中西　麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち 事務局長）

宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

4　2018・2019 年度登録アーティスト（五十音順、ソロ・デュオ順）

©bozzo

●北尾亘

幼少より舞台芸術に携わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2009 年ダンスカンパニー［Baobab］を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。これまで 11 回の単独公演に加え若手ダンスフェスティバルを主催、国内外のフェスティバルに参加。個人として多数の演劇作品、TVCM・映画・ドラマに振付。ダンサー・俳優として近藤良平、中屋敷法仁、山本卓卓などの作品に出演、4 カ国 20 都市以上で舞台に立つ。 横浜ダンスコレクション 2018 コンペティション I ベストダンサー賞、ほか多数受賞。 尚美学園大学、桜美林大学非常勤講師。

©Teppei Hori

●鈴木ユキオ

世界 40 都市を超える地域で活動を展開し、しなやかで繊細に、且つ空間からはみだすような強靭な身体・ダンスは、多くの観客を魅了している。小学生出演ダンス作品の振付・演出や、障害のある方へのワークショップなど、身体と感覚を自由に開放し、個性や感性を刺激する表現を生み出す活動を幅広く展開している。2008 年トヨタコレオグラフィーアワードで「次代を担う振付家賞（グランプリ）」を始め受賞多数。2012 年フランス・パリ市立劇場「Danse Elargie」では 10 組のファイナリストに選ばれた。

© 松本和幸

●田畑真希

タバマ企画主宰。3 歳からクラシックバレエを始める。高校生の頃、トゥシューズを履いて踊ることに疑問を感じ、さらなる表現を追及するため桐朋学園短期大学演劇科に入学。演技、日舞、狂言、アクロバット等様々な表現を学ぶ。紆余曲折を経て再びダンスの世界へ。2007 年より振付家としての活動を始める。滑稽なまでに紡ぐ作風には定評があり、国内外で精力的に活動中。7 カ国 17 都市にて作品を上演し好評を得る。近年は様々な世代を対象としたワークショップを展開し、性別、年齢、経験などの差異を超えて、誰もが楽しみながら出来る身体表現の促進を目指す。横浜ダンスコレクション R2009 にて「未来に羽ばたく横浜賞」「マスダンザ賞」をダブル受賞。

●田村一行

1998 年大駱駝艦入艦、麿赤兒に師事。以降、大駱駝艦全作品に出演。2002 年、『雑踏のリベルタン』を発表。同作品により第 34 回舞踊批評家協会新人賞受賞。2008 年、文化庁新進芸術家海外留学制度によりフランスへ留学。地域の文化や風土を題材とした作品の創作にも意欲的に挑み、独自の作品を発表し続けている。小野寺修二、宮本亜門、白井晃、渡辺えり、笠井叡、ジョセフ・ナジの舞台など客演も多数。また、子供から高齢者まで幅広い対象者への舞踏ワークショップ・インリーチを各地で展開し、好評を得ている。

© 小林智之

●長井江里奈

舞台芸術集団「山猫団」主宰・演出家。「伊藤キム＋輝く未来」、「まことクラヴ」にてダンサーとして国内外の様々な劇場のみならず、ライブハウス、商店街、美術館、廃墟などありとあらゆる場所でパフォーマンスをしてきた経験を生かし、ソロアーティストとしても活動中。少女からアバズレまで、ライオンからロボットまで、ダンスから一人芝居まで、体を使ってできる事ならなんでも取り入れる。日本各地でワークショップなどの普及活動も積極的に行う。

© 金子愛帆

●中村蓉

早稲田大学在学時コンテンポラリーダンスを始める。ルーマニア・シビウ国際演劇祭、東アジア文化都市式典（韓国光州・横浜）など国内外で作品を上演。二期会オペラ『ジューリオ・チェーザレ』ロックバンド sumika「MAGIC」など MV の振付も担当。郷ひろみ「笑顔にカンパイ！」アブリル・ラヴィーン「Hello Kitty」MV にも出演。〈歌謡曲スイッチ〉と題し、八代亜紀「雨の慕情」など名曲の歌詞に登場する人物になり切って踊るダンスワークショップを各地で展開中。第 1 回セッションベスト賞（2012）、横浜ダンスコレクション EX 審査員賞・シビウ国際演劇祭賞（2013）第 5 回エルスール財団コンテンポラリーダンス部門新人賞（2016）など受賞。

©FUZZY

●東野祥子

ANTIBODIES Collective 振付家・ダンサー。10 歳からダンスをはじめる。2000 ～ 2014 年「Dance Company BABY-Q」を主宰。国内外の劇場やフェスティバルにて舞台作品を数々発表。ミュージシャンと即興セッションを多方面で展開する。トヨタコレオグラフィーアワード、横浜ソロ×デュオ〈Competition〉＋などで大賞を受賞。2015 年、京都に活動拠点を移し、「ANTIBODIES Collective」を音楽家のカジワラトシオと結成。多ジャンルのアーティストとともに大掛かりな舞台作品制作やパフォーマンス、インスタレーションなど全国並びに海外にて他数実践している。またダンサー育成の WS や学校へのアウトリーチなども精力的に展開し、地域の活性化に根ざした活動を実践している。

© 平野愛

●セレノグラフィカ [隅地茉歩＋阿比留修一]

関西を拠点に国内外、屋内外を問わず幅広く活動を展開する結成 22 年のダンスカンパニー。緻密な身体操作から繰り出されるその不思議で愉快なダンスは、多くの世代に受け入れられている。2005 年に隅地が TOYOTA CHOREOGRAPHY AWARD「次代を担う振付家賞（グランプリ）」を受賞。公演・WS・セミナーなど、ダンスと旺盛に関わり、全国各地を駆け巡りながら「身体と心に届くダンス」を伝える日々を送る。450 を超える教育機関へのアウトリーチも行い、あびちゃん・まほさんとして人気。

平成 30 年度公共ホール現代ダンス活性化事業全体研修会概要

1　期　　日

平成 29 年 7 月 31 日（月）～ 8 月 2 日（水）

＊地域創造フェスティバル 2017 と同時開催

2　会　　場

東京芸術劇場

3　目　　的

・事業の趣旨・役割を理解する。
・コンテンポラリーダンスのワークショップを体験し理解を深める。
・ダン活の企画づくりをするために必要な基礎知識を習得する。
・ディスカッション等を通じ、それぞれのホールがダン活を実施する際のミッションを明確にする。
・登録アーティストによるプレゼンテーションなどを通して出演アーティストの情報を得る。
・事前にホール内で考えた企画原案をもとに、コーディネーターと相談しながら企画を具体化する。

4　プログラム内容

7 月 31 日（月）

時間	会場：シンフォニースペース
14:00 ～ 14:15	開講式・オリエンテーション
着替え・休憩	
14:30 ～ 15:30	セッション①「ワークショップ」 講　師：アーティスト 森下真樹、酒井直之（アシスタント）
着替え・休憩	
15:50 ～ 19:00 （途中休憩あり）	セッション②「ダン活で取り組みたいこと＆ディスカッション」 講　師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、清水幸代、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中冨勝裕、中西麻友、宮久保真紀

8 月 1 日（火）

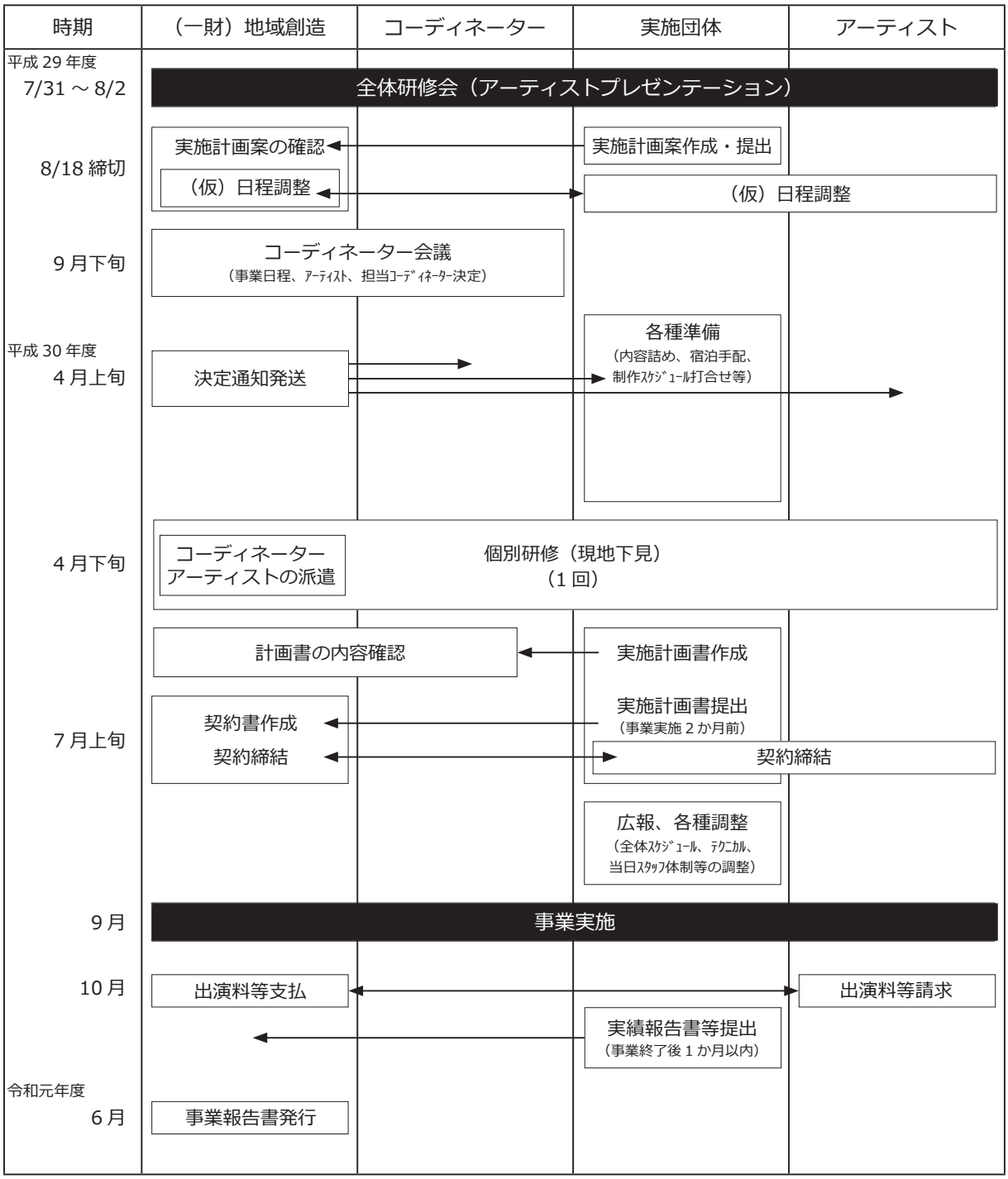
時間	会場：ギャラリー 2、シアターイースト、シアターウエスト
10:00 ～ 10:30	セッション③「事業概要説明」
10:30 ～ 12:00	セッション④「A プログラムディスカッション」 講　師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、清水幸代、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中冨勝裕、中西麻友、宮久保真紀
昼休憩・着替え	
13:00 ～ 14:40	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」＊ （登録アーティスト 4 組 5 名）
休　憩	
14:50 ～ 16:30	セッション⑤「アーティストプレゼンテーション」＊ （登録アーティスト 4 組 4 名）
移動 (着替え)・休憩	
16:50 ～ 18:20	セッション⑥「フィードバック」 講　師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、清水幸代、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中冨勝裕、中西麻友、宮久保真紀
移動	
18:35 ～ 20:05	交流会（情報交換会）

8 月 2 日（水）

時間	会場：シアターイースト
10:30 ～ 12:00	セッション⑦「ダン活のススメ」＊ 講　師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、平岡久美 事例紹介ホール担当者：福間一（島根県民会館） 井上恵理子（八尾市文化会館プリズムホール）
昼休憩	
13:00 ～ 15:30	セッション⑧「フィードバック～研修会を振り返って」 講　師：コーディネーター 佐東範一（進行）、志賀玲子、菊丸喜美子、花光潤子、平岡久美、清水幸代、大澤苑美、小岩秀太郎、神前沙織、坂田雄平、中冨勝裕、中西麻友、宮久保真紀
15:30 ～ 15:45	事務連絡

＊のセッションは、地域創造フェスティバル 2017 のプログラムとして公開

事業の流れ（9 月実施のケース）



実　施　内　容　紹　介

（実施日程順）

コーディネーターレポート

Aプログラム

（地域交流プログラム）

ながす未来館　実施データ

Aプログラム

実施団体	ながす未来館指定管理者共同事業体
実施ホール	ながす未来館
実施期間	平成30年6月19日（火）～6月22日（金）
アーティスト等	アーティスト：鈴木ユキオ　　アシスタント：安次嶺菜緒
コーディネーター	中西麻友

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 6月20日（水）10:50～12:40、長洲町立長洲中学校、1年1組、30名、体育館
② 6月20日（水）13:50～15:40、長洲町立長洲中学校、1年2組、31名、体育館
③ 6月21日（木）10:25～12:15、長洲町立腹栄中学校、1年1組、32名、体育館
④ 6月21日（木）13:35～15:25、長洲町立腹栄中学校、1年2組、32名、体育館

《ダン活枠外》6月21日（木）18:00～19:00、ジャズダンス教室、障がいのある子ども＋保護者、9名　ホール舞台上

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 6月20日（水）19:00～21:00、中学生以上、500円（高校生以下無料）、21名　ホール舞台上

スケジュール

	下見	
	5/1（火）	5/2（水）
9:00		
10:00		打合せ
11:00		↓
12:00		町内外視察
13:00		↓
14:00		
15:00	下見・打合せ	
16:00	長洲中学校下見	
17:00	腹栄中学校下見	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
6/19（火）	6/20（水）	6/21（木）	6/22（金）
		腹栄中学校 アウトリーチ①	
	長洲中学校 アウトリーチ①	↓	町内近隣視察
	↓	給食交流	↓
	給食交流	腹栄中学校 アウトリーチ②	フィードバック
	長洲中学校 アウトリーチ②	↓	↓
ホール下見 打合せ	↓		
↓			
	公募WS		
	↓		

アウトリーチ

町内２校の中学１年生を対象に、コンテンポラリーダンスの考え方をもとに、コミュニケーション能力を高めることを目的としたアウトリーチを実施しました。

【長洲町立　長洲中学校・腹栄中学校】

この春、中学校に上がったばかりの１年生を対象にアウトリーチを行いました。

入学してからまだ２か月ほどしかたっておらず、クラスメイトとのコミュニケーションもあまりできていない子供が多いことを想定し、今回のダン活が少しでも役に立てればと思い、この時期に事業を行いました。

また、特別支援学級の子供も一緒に参加することにより、クラスメイトとの交流や人前で発表することへの抵抗感などを少しでも和らげることができたのではないかと思います。

長洲中学校

長洲中学校

長洲中学校

長洲中学校

公募型ワークショップ

今回のワークショップでは、初めての方や中学生から 60 歳くらいまで幅広い年代の方が参加してくださり、面識のない方とどこまでコミュニケーションが取れるかがポイントでした。

内容は、アウトリーチの内容に加えて宇宙遊泳や風船をイメージした動きなど、普段とは違う筋肉を使った動きが印象的でした。特に宇宙遊泳の動きでは、ペアが別の方向に動かすまで一定のベクトル方向にずっと動かなければならないので、皆さん結構四苦八苦されていました。

ワークショップ終了後、「ジャンルは違うが、ダンスをやっているので体の動かし方や表現力など、とても勉強になった」「この経験を生かして、人とのコミュニケーションに活かしていきたい」など好評な様子で、参加してくださった方にとって有意義なものになったのではないかと思います。

プログラム詳細

6 月 20 日（水）／ 21 日（木） 長洲中学校／腹栄中学校

●自己紹介・パフォーマンス

鈴木ユキオさんからアウトリーチについて説明と自己紹介をされ、その後アシスタントの安次嶺菜緒さんと一緒にダンスを披露されました。子供たちが座っているところに入っていったり引っ付いたりし、子供たちの緊張もほぐれ、すごく興味を持っているようでした。

●準備運動

鈴木さんの動きに合わせて準備運動を行い、子どもたちも積極的に動き、楽しんでいました。

●アウトリーチ①　ペアワーク

高さや柔軟さを利用して相手の指を一定の距離を保ったまま目で追い、回ったり飛んだりし、お互いの考えを読み取る力を身に着けました。

●アウトリーチ②　グループワーク

6 つのグループに分かれ、リーダーが新聞紙を使ってメンバーを操る動きをしました。メンバーは紙の動きや形に合わせて楽しそうに身体を動かしているのが印象的でした。最後にグループ毎に発表してもらい、やはり人前での発表になると緊張してしまう子もいましたが、それでも一生懸命表現しようとする姿とグループの雰囲気を見て、お互いのコミュニケーションがうまく取れているように感じられました。

どちらの学校もクラスの雰囲気が良く、すでに打ち解けられているように思いました。今回のアウトリーチの経験を生かして、さらに交流を深めていってほしいと思います。

長洲町は町の端から端まで 20 分で行けるような小さな町ですが、それぞれの学校に地域性や校風があり、同じ学年でも違った表現の仕方があるので、そこが面白いところであると感じました。

担当者の報告・評価

ながす未来館　浦本紗衣

●この事業への応募動機

ながす未来館では、ホールを幅広い世代に「世代間交流ができる場所」「共有する空間となる場所」を目指し、様々な事業に取り組んでいます。

特に長洲町は高齢者の比率が高くなっており、次世代を担っていく子供たちへ様々なことを継承していかなければなりません。前回に引き続き、リージョナル事業やワークショップ、アウトリーチを経験させていただいたことで地域の一般の方だけではなく町内の行政・企業・学校・文化団体との繋がりをさらに広めていくことが目的です。そして、今回アウトリーチについては、中学校に上がったばかりである子供たちに新しいクラスメイトとのコミュニケーション能力の向上が目的です。

また、このような活動を継続していくことで、普段ホールに関わりがない人や存在を知らない人たちにも文化に触れていただき、身近なものとして興味を持ってもらうきっかけを作っていきたいと思い応募、参加いたしました。

●事業のねらいと企画のポイント

ネットワーク社会である今、人とのコミュニケーションはスマホがほとんどで人と直接話す機会が減ってきている現状を改善するために、「コミュニケーションスキルの向上」というテーマを今回の事業のねらいとしました。

●企画実施にあたり苦労した点

今回初めて企画を担当し、分からない・知らないことがほとんどで、地域創造の方や担当していただいたアーティストやコーディネーターの方からのフォローで助けられた部分が多々ありました。また、書類の作成も不慣れだったため、かなり時間がかかってしまいました。

●事業の成果と課題

コミュニケーションスキルを向上させる、という面ではある程度の成果が出たと思われます。しかし、ワークショップに参加していただいた方が、町外の方が多かったという点が一番の課題と考えます。もとより、地域住民とのつながりを重視してきたため、もう少し町内からの参加者が欲しいところでした。

●今後の事業展開や展望

特に力を入れている一つに「子供」への取り組みがあります。現在スマホやゲームが特に子供に浸透している反面、人とふれあう機会が減り、コミュニケーションがうまく出来ていない子供が増えているのは事実です。今回のようなコミュニケーションの能力を向上させられるような取り組みを続けられれば、話すことが苦手な子も臆することなく交流ができるのではないかと考えます。

アーティストの方もダン活を終えて、中学生向けのアウトリーチはとても貴重な体験だった、というお話をされていました。そういったことも含めて、この事業はお互いにとても意義のあるものになりました。

以上のことを踏まえて、今後のダン活事業がよりよいものになるよう、今回の経験を最大限に活かしていきたいと思います。

コーディネーターレポート

中西麻友

●この地域のダン活の特徴

中学校でのアウトリーチは、別々の小学校から進級する生徒たちがお互いを知るきかっけにと、一学期中の実施となった。

生徒たちは全体的にシャイな印象で、中学生らしい周囲への意識が、自由な身体の広がりを妨げているようにも見えた。しかし、アーティストは「自分の感覚で動く」「動かされる身体を意識する」など言葉も使いながら、ワークの内容や進め方を臨機応変にアレンジし、生徒たちがこれまで経験した、もしくは当たり前だと思っている身体への意識を少しずつ変えるように内容を組み立てていた。「コンテンポラリーダンスは新しい何かをつくっていくこと」など、アーティストの想いを丁寧に語りかけてもいた。自分自身の中で考えを深めていく中学生という時期を考慮すると、目に見えた反応以上に、何かが心の中に残っていく時間になったように思う。

公募ワークショップは、ホールやアーティストにゆかりのある方、初めてホールを訪れた方など、年齢も経験も様々な方の交流の場になった。バレエとは違う身体の使い方や、普段使っていない身体を意識すること、ゆっくり動くことの新鮮さなど、自分の身体に向き合い気づきの多い時間になったようだ。

また、ダン活とは別枠で、障害のある子どもたちの親子対象 WS も行った。公募 WS に参加する可能性もあったが、結果的には、一人ひとりのペースを尊重し、アーティストとの関わりも密になる別枠での実施は効果的だったと思う。「子どもたちは自由に踊ることができるのだ」と、保護者も驚くような見応えのある踊りが生まれた。次は障害のあるなしや、大人子どもも関係なく、誰もが分け隔てなく混じり合い作品創作に臨むことができたなら、と今後の期待も膨らむ出会いだった。

●課題とこれからに向けて

中学生を対象とするアウトリーチについて、今後の課題や可能性も見えたダン活だった。小学生とはまた違った成長の段階にいる中学生に、コンテンポラリーダンスとの出会いは何をもたらすのか。WS でも、自分が感じたまま身体が動いてしまうというより、周りを意識して個をどこまで出していいのか探っているような印象を受けた。一方で、回数を重ねればもっと個が出せるようになり、自由な身体も現れるような可能性も感じた。

整列や説明を聞く時の統率のとれた行動、全員で同じことをする時に発揮される集中力は、良くも悪くも学校という集団生活の中で彼らが身につけてしまう振る舞いなのだとしたら、そうではない在り方、価値観があることを知っておくこともまた、一つの経験としては貴重な時間であったと思いたい。インリーチを設けるか、公募 WS に教員も参加してくれていたなら、その辺りのことを対話する場も持てたのではないだろうか。

また、今回は叶わなかったが、ホール担当者からは保健室登校の生徒たちに関わる案や、普段ホールに関わりが少ないがアプローチしたい人たちのイメージも伝えられていたので、多様な地域の人たちとホールのつながりをつくる、今後の展開に期待したい。

今回出会った中学生の中に前回のダン活で WS を経験した子もおり、ホール職員に「今度は誰を連れてきたの？」と聞いてきたらしい。長洲町の子は、人生の中で2回も世界的に活躍する舞踏手やコンテンポラリーダンサーに出会っている。経験した全てを覚えていることは難しいかもしれないが、ダンスとの出会いは確実に彼らの心に残っていくだろう。町の人たちのことを常に考える温かいホール職員と、新しいダンスに出会った未来をつくる子どもたちが、これからの町をどのように育てていくのか楽しみである。

サントミューゼ　上田市交流文化芸術センター　実施データ

Aプログラム

実施団体	上田市
実施ホール	サントミューゼ　上田市交流文化芸術センター
実施期間	平成 30 年 6 月 20 日（水）～ 6 月 23 日（土）
アーティスト等	アーティスト：田畑真希　　アシスタント：中村理
コーディネーター	中冨勝裕

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 6 月 20 日（水） 10:55 ～ 12:25、上田市立長小学校、3・4 年生、48 名、体育館
② 6 月 21 日（木） 9:45 ～ 11:40、上田市立傍陽小学校、3・4 年生、23 名、体育館
③ 6 月 22 日（金） 10:55 ～ 12:30、上田市武石小学校、3・4 年生、47 名、体育館
④ 6 月 22 日（金） 14:00 ～ 16:00、長野大学、学生、14 名、7 号館多目的室

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 6 月 23 日（日） 14:00 ～ 16:00、小学 3 年生以上、無料、31 名、大スタジオ

スケジュール

	下見	
	3/28（水）	3/29（木）
9:00		
10:00	上田着	傍陽小学校
11:00	打合せ	↓
12:00		
13:00	長小学校	長野大学
14:00	↓	↓
15:00	武石小学校	
16:00	↓	上田発
17:00	打合せ	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
6/20（水）	6/21（木）	6/22（金）	6/23（土）
上田着	傍陽小学校 アウトリーチ		
	↓		打合せ
長小学校 アウトリーチ	↓	武石小学校 アウトリーチ	
給食交流		↓	
	振り返り		
振り返り		長野大学 アウトリーチ	公募ＷＳ
		↓	↓
		振り返り	振り返り
			上田発

アウトリーチ

児童や学生の感性や想像力を育むこと、また一流の芸術家との交流を通し、お互いの感じ方の違い等を知ることにより、想像力やコミュニケーション力の向上を目指した。

●小学校アウトリーチ

小学校は 3 校へアウトリーチ。過去に当館ダンス事業へ参加のあった小学校と今回初めての小学校の 3・4 学年を対象に実施し、計 118 名の児童が参加。児童が体育館へ集合し始めると、田畑真希さんアシスタントの中村理さん共に積極的に交流を開始。プログラムが始まり、田畑さんの深いお辞儀のような動作からの柔軟性を生かしたゆっくりとした動き。そうかと思えば突然児童の輪の中に入り走り出す 2 人に、思わず笑いや驚きを示しながらついていく子どもたち。各々自由なポーズをとったり、田畑さんの 100 と 0 の掛け声で、身体をグンと伸ばして空高く 100、床に素早く寝転がり 0 の動きをする。ペアになって指を使って相手を動かす動き、氷のように固まりそれを溶かしまた固まる動きでは、徐々に個性的な形容を創る児童たち。最後は全員が 2 つのグループに分かれ、ゆったりとした音楽に合わせて公演形式でオリジナルポーズを探しどんどん変化していく。曲の終わりにはアートのような独創的な形が形成された。

●大学アウトリーチ

昨年公立化した市立大学である長野大学での初めてのアウトリーチ。大学のダンスや和太鼓のサークルに所属する学生など男女 14 名が参加。全体的な流れは小学校でのそれに近いが、輪になって準備運動を行い内容へ移っていく。初めは様子をうかがいながらの学生も、徐々に動きが激しく、また表情も和やかであったり真剣であったりと、どんどんとのめり込んでいく様子が見られた。参加した生徒からは「（田畑さんの）ダンスが見たい。」といった声が上がるなど、コンテンポラリーダンスに対する興味が深まった時間であった。

長小学校

傍陽小学校

武石小学校

長野大学

公募型ワークショップ

当劇場の大スタジオを会場に、小学 3 年生以上を対象としたコンテンポラリーダンス WS。2 時間という限られた時間の中で、初めて会った市民同士が身体を使ってコミュニケーションをとり、コンテンポラリーダンスを体験した。

市民がプロのアーティストと出会うことで、表現活動の楽しさや素晴らしさを体験し、地域の文化活動を支える人材の育成を目指し実施。今回は 31 名の参加。そのうち約 2/3 は、当館の事業へ初めての参加であった。また、年齢層も 10 代参加者が全体の半数を占めるなど、当館の事業としても新しい波が見られた WS となった。参加者はそれぞれヒップホップやクラシックバレエ、ジャズダンス、中にはカポエイラなどを経験している方など多彩な色が見られた。WS が始まると、まずは参加者同士が顔と名前が一致するように、場内を自由に歩きながら胸元につけた名前を呼び合いハイタッチ。その歩くスピードも田畑さんが変化させコントロールする。また、不規則にペアを作り「二人で五本足！」など突然動作を指示し、動きを創っていく。呼吸を整えるように寝転んでリラックスの時間も挟む。音楽に合わせて身体を膨らませたり縮めたり、身体の先から先まで使って動く様子はすでにオリジナルダンスのように感じられた。後半、二人組を作り一人は目隠し。動かす人動かされる人に分かれ、軽く相手の身体に触れて自由に動かす。目隠しをしているため、動かされる側は敏感に身体で反応する。最後は大きく 2 グループに分かれて同じくどんどん人を動かしていく。身体に集中し、自然体で身体と向き合いながら伸び伸びとした創造的な造形を生み出していた。

年齢差を超え、またこれまでの自分の身体の使い方の形を超えた中に、自然と身体が反応し創られる創造力の空気を感じた。会場の中には、コンテンポラリーダンスを通じた表現活動を 100％楽しむという空気が生まれ、参加者からは「幸せな時間だった」という感想もあった。

プログラム詳細

7 月 23 日（土） 公募 WS（小学 3 年生以上）

●導入

名前を呼んでハイタッチ。歩く・走る・後ろ歩きなど会場を自由に動きながら笑顔で初対面の参加者同士がコミュニケーションをとる様子が印象的。

●ペアで何本足

初めは二人組で始まり、3 本足、5 本足など田畑さんの指示で自由な形を創っていく。個性的な何本足がいくつもできていた。

● 100%－ 0%

田畑さんの掛け声に合わせ、身体いっぱい大きく背伸びをする 100%と素早く床と一体になる 0%の繰り返し。慣れたところで 20%などの要素が加わりいろいろな形の何%が生まれる。震える笛の音を使った 100%－ 0%も実施。

●リラックス

ゆったりとした音楽を聴きながら、寝転んで膝を抱え小さくなったり大の字になり大きく深呼吸したり、また身体をゆすってほぐしたりと、身体の稼働をしやすくすると共にリラックスする時間を作った。

●ゴム人間

音楽に合わせて身体を膨らませたり縮めたり自分がゴムになったように自由に動く。グニャグニャ体をひねったり、時にはジャンプしたりと各々が思い思いのゴムを表現。

●手と身体を使って自由に相手を動かす

二人組を作り、片方が手を使って自由に相手を動かす。動かされる側は、なるべく身体だけを使って考え動かされること。動かす側は、おもちゃを手に入れたように好きなように相手を動かしていく。途中から動かされる側は目隠しをつける。見えていないといつ触れられるかわからず、触れられたところだけに集中できたとの声も聞かれた。さらに発展し、手以外の部分を使って相手を動かすよう指示。より複雑で芸術的な動きがみられるようになる。

●グループごとに成果を発表

最後は集大成。音楽に乗せて自由に動かす動かされる動きをグループごとに実演・鑑賞する。会場は、自然体で自由に動くことを楽しむ空気、またそれをひとつの芸術作品として真剣なまなざしで魅入る姿が印象的であった。

担当者の報告・評価

サントミューゼ　上田市交流文化芸術センター　馬場喜一

●この事業への応募動機

上田市では、施設の基本理念である『育成』と『交流』ならびに劇場での『創造と発信』をキーワードにした事業「アーティスト・イン・レジデンス事業」として、今までにセレノグラフィカ、鈴木ユキオ氏を招聘し事業に取り組んできた。この事業を通じて新たな市民ダンスユニットの誕生、ワークショップや市民参加型公演に於いては参加者が増加していることなど、ダンスに触れる機会の創出や表現者の育成に一定の成果が得られてきた。ついては、この活動を更に発展・継続したいと考え、平成 30 年度はAプログラムを開催し、新たなダンサーと一緒に活動を展開していきたいと考え応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

当館のダンス事業においては、2014 年の開館以降、自主事業の創造公演やワークショップ等の実施、またダン活事業の市民参加公演等を経験し継続してきたことにより、上田市におけるダンスへの風向きは変わりつつあると感じている。開館から 4 年余が経過し、これまでのダンス事業の種まきを経て、さらに新しいダンサーとの出会いにより、特に小中学生や大学生、また一般の若いダンス経験者へコンテンポラリーダンスの魅力を発信するために、アウトリーチ・一般公募ワークショップの実施がある A プログラムを取り組むことにした。特に、中学生世代はこれまでの小学校アウトリーチを経験してきた世代であるため、今後多く参加してもらいたい世代として注視した。

●企画実施にあたり苦労した点

アウトリーチの開催時期が年度当初であったため、学校との調整において、学校行事との調整に係るクラス担任との打合せが複数回必要になってしまったが、丁寧なコミュニケーションを取ることで、当館事業の理解と周知を深めることを意識した。また、当館では音楽事業のアウトリーチを全学校に対し年間通じて実施しているため、学校側の理解が得られ易かったため比較的スムーズな対応となった。

WS では、中学生世代へのアプローチについて、各中学校を訪問し企画趣旨を説明、募集チラシを手交したが、これまで事業参加が薄かった世代であったため参集が心配であった。結果的にこれまでよりも参加人数がかなり飛躍した。

●事業の成果と課題

公募 WS では、リピーター参加者ばかりではなく、新規参加の申込者が半数近くに上ったことは、これまでの事業継続とその発信で得られた一定の成果であると感じる。また、その内半数近くは 10 代からの参加であったことも特徴的な結果であった。また、参加者からはコンテンポラリーダンスに対する魅力を感じたとの内容の発言があったことから、当市におけるダンス文化の前進を感じることができた。

今後の課題さらなる目標としては、これまで継続して参加している市民と新たな参加者の継続参加とその融合を果たすこと。地域特徴でもある、「興味はあるが行動するまでに至らない方」が圏域に多く内在するため、参加側・鑑賞側問わずいかにこの方々を引き込むかということ。

個人的な反省としては、未成年層の参加者の引率者への対応について、WS 中や終了待ちの状態、また終了後アーティストとの交流により退室が遅れた場合など、ただ待たすのではなく、事業説明やその他館事業の案内または事業への理解向上なども並行して実施することも配慮できれば良かったと感じる場面があった。

●今後の事業展開や展望

今回の WS では新たな参加者を迎え、その方々にも新しいコンテンポラリーダンスの魅力を感じてもらえたと感じる。それぞれがこの経験を生かし今後の活動につなげてもらうこと、また当館事業への参加を継続してもらうと共に、レパートリー公演や創造公演の実施により、鑑賞者としての側面も醸成する。参加者として、また鑑賞者として様々なアーティストと接することで、色々な視点から得られる想像力や創造力、コミュニケーション力や他者理解の力が育まれていくことを期待したいと考えています。

コーディネーターレポート

中冨勝裕

●この地域のダン活の特徴

上田市では、これまで主催ダンス事業として、セレクノグフィカと鈴木ユキオと招聘して「アーティスト・イン・レジデンス」を実施。鈴木ユキオにおいては、平成29年度ダン活Bプログラムとレジデンス事業を同時に展開し、アーティストが上田という地域や市民と多くの時間を共有できる仕掛け、また市民性を理解した情報発信などを行い、観客、参加者、アーティストにとって満足度の高い事業となった。開館当初からしっかりとダンス事業の礎を築き上げ、市民がダンスに触れる機会、新たな表現者の育成に成果を上げているように感じた。

市民が多様な表現に出会うこと、毎年違うアーティストと協働を目的に平成30年度は、田畑真希とともに、Aプログラムを実施。これまでワークショップ事業では、参加者の対象年齢を小学校5年以上としていたが、今後のダンス事業の展開等を踏まえ、小学校3年生以上とした。

アウトリーチでは、実施時期が6月だったこともあり、調整時期が年度をまたぐなど学校との連絡が難しい状況もあったが、学校側との綿密な連絡と準備により、実施の際は非常にスムーズに進めることができた。これまでの音楽・ダンスのアウトリーチ事業で積み上げた経験がしっかりと結実していると感じた。子どもたちも元気いっぱい素直に身体を動かす表現を楽しむ姿が印象的で、子どもたち自身で感じるものを表現として生み出そうとする意識が伝わり、アーティストにとっても有意義な時間であった。また、先生が積極的に子どもたち以上にアーティストとのふれあい、表現を創ることを楽しむ場面もあり、身体で表現することがコミュニケーションにもなることを実感していた。担当者のしっかりとした説明による授業の導入が、子どもたちのアーティストへの関心度を上げた。また新たな展開として、今回のアウトリーチでは長野大学でも実施。太鼓サークル所属や普段K-POPのダンスなどを楽しむ学生14名が参加。緊張もほぐれると、身体の使い方など意識する参加者も出てきた。ワークを通して自分の身体、相手の身体や表情を意識することで生まれるコミュニケーションがこのアウトリーチの達成度を表していた。参加者を楽しませる田畑真希の持つ経験と手腕が発揮された。

公募ワークショップでは、当初予定していた参加者数を超えた申し込みがあり、また年齢層の幅の広さからサントミューゼのダンス事業への関心度の高さが伺えた。今回、普段行なっているワークショップ事業より参加年齢を下げたことによる心配などもあったが、参加した大人が子どもたちと一緒に身体で会話しようする姿勢、田畑真希が行うワークのリズムと雰囲気が、会場の集中度を高め、参加者自ら生み出される表現からダンスが立ち上がる瞬間を感じた。

●課題とこれからに向けて

常に参加者に対してサントミューゼという「劇場」、田畑真希という「アーティスト」、「ダンス」について、丁寧に説明して意識づけなど、事業の一つ一つしっかりとした目標設定、劇場の外へ発信する意識を持ち、幅広い視野を持って地域性・市民性を理解し、広報やアプローチしており、年度ごとに着実に成果を上げている。丁寧な取組み、新たな試みで「サントミューゼのダンス」を示すと同時にダンス興味層を超えた新しい観客を創り出す展開を期待したい。

酒田市民会館　希望ホール　実施データ

Aプログラム

実施団体	酒田市
実施ホール	酒田市民会館　希望ホール
実施期間	平成 30 年 10 月 3 日（水）～ 10 月 6 日（土）
アーティスト等	アーティスト：　田村一行　　アシスタント：塩谷智司
コーディネーター	小岩秀太郎

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 10 月 4 日（木） 16:30 ～ 18:30、山形県立酒田西高等学校、演劇部員、13 名、多目的教室
② 10 月 5 日（金）　9:15 ～ 10:15、酒田市立泉小学校、2 年生、60 名、体育館
③ 10 月 5 日（金） 10:40 ～ 12:10、酒田市立泉小学校、4 年生、60 名、体育館
④ 10 月 5 日（金） 16:30 ～ 18:30、山形県立酒田東高等学校、演劇部員、20 名、大教室
《ダン活枠外》 10 月 4 日（木） 13:25 ～ 15:10、山形県立酒田南高等学校、2 年生、38 名、会議室

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 10 月 6 日（土） 10:30 ～ 11:30、年長児から小学 4 年生までの親子、1 組 500 円、6 組 12 名、琢成学区コミュニティ防災センター
《ダン活枠外》 10 月 6 日（土） 13：00 ～ 16：00、小学 4 年生以上、500 円、13 名、総合文化センター

スケジュール

	下見	
	6/27（水）	6/28（木）
9:00		市内視察（本間美術館）
10:00		泉小学校下見
11:00		
12:00	移動	昼食
13:00	昼食	酒田西高下見
14:00	打ち合わせ	打ち合わせ
15:00	↓	市内視察（土門拳記念館）
16:00	↓	↓
17:00	酒田東高下見	移動
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
10/3（水）	10/4（木）	10/5（金）	10/6（土）
		泉小学校アウトリーチ①	
	市内視察（本間家旧本邸）	泉小学校アウトリーチ②	公募 WS
	市内視察（山居倉庫）	↓	↓
移動	昼食	給食交流	昼食
昼食			
打ち合わせ		市内視察（海向寺）	
↓			
	酒田西高演劇部アウトリーチ	酒田東高演劇部アウトリーチ	振り返り
↓	↓	↓	移動
交流会		交流会	

アウトリーチ

舞踏家・田村一行氏の舞踏を通じて、子どもたちに日常とは異なる身体の動かし方、感情の表現方法を感じてもらうとともに、身体表現を通し、個々の表現能力や創造力を高め、自己肯定感やコミュニケーション能力の向上を目指し、1人1人の生きる力を育むことを目的にしている。

【山形県立酒田西高等学校演劇部】

演劇と舞踏は身体表現という点で共通する点があると考え実施した。はじめは期待を持ちつつも緊張している様子であったが、心と体をほぐす動きを教えると、次第に表情も身体も柔らかくなっていき、生徒たちは楽しみながらも真剣な表情で自分の表現方法を探っていた。顧問はアプローチの仕方が全く違うと驚き、今後も部活動の中で継続して取り入れていきたいと話していた。

【酒田市立泉小学校】

担当教諭の子どもたちに色んな経験をさせたいという思いから実施に至った。2年生は、田村氏の言葉に素直に反応して思うままに元気に体を動かしていたが、4年生になると、言葉の意味を考えながら慎重に体を動かしていた。どちらも終始笑いがたえず、楽しく賑やかなアウトリーチとなった。終了後4年生と給食交流を行った。

【山形県立酒田東高等学校演劇部】

指先まで使った身体表現を学びたいとのことで実施。県大会が近いということもあり、皆真剣な表情。力を抜く体操を実践し、力を抜いた緩急のある動きの方が舞台上では大きく見えることなどを学ぶ。実際に舞踏の型を実践。終了後には、質問する生徒も多く、舞踏の表現方法を演劇に活かそうとする関心の高さが伺われた。

酒田西高校

泉小学校

泉小学校４年生

酒田東高校

公募型ワークショップ

【親子で体験する らくだ体操】

親は子どもに色々な体験をさせたい、または一緒に体験したいと思ってはいるものの、そういった機会が少ないのが現状である。そこで、身体ひとつで体験できる舞踏を通じて、親子で笑い、汗をかいて楽しんでもらいたいという思いから、親子で参加できるワークショップを実施した。

当日参加したのは 6 組 12 人の親子。親子でのコミュニケーションを大事にしながら、体をほぐす体操から始まり、自分が水風船になって水面に浮かんでいるようなイメージで体を揺すりあう。体から力を抜くという感覚に戸惑いながらも、互いに触れ合って興味深そうに確かめあっていた。

自分の身体の癖や特徴に気付かせたり、言葉がなくても互いの間や視線で動きをあわせることを遊びながら体感する。普段は意識していなかったことを改めて感じさせ、自分の身体と向き合う貴重な時間となったように思う。

親と子が互いに楽しんで体を動かしながら舞踏の世界を体験できるようなプログラム構成となっていて、就学前の子どもも最後まで飽きることなく楽しんでいた。参加者たちからは、楽しかった、体がほぐれて軽くなったという声が多くきかれた。実際に家でもやってみたという親子もおり、親子間のコミュニケーションを深めるきっかけになってくれていれば嬉しい。残念ながら参加者数は想定していたよりも少なかったが、次も参加したいと希望する参加者もおり、次に繋がる事業になったのではないかと感じる。

プログラム詳細

10 月 5 日（金） 酒田東高等学校　演劇部

●舞踏と演劇の共通点

どちらも身体表現という点で共通点があると考え、演劇部に声を掛けた。顧問からの要望としては、身体全体を使った大きな表現活動はしているが、指先まで使った繊細な表現方法ができていないので、その点を学びたいとのことであった。

●動くのではなく動かされる

まずは DVD で田村氏の活動を知ってもらった後、舞踏は日常の何気ない動きから生まれたものであることを説明。演劇においても単に言い回しを練習するだけではなく、自分以外の外的な要因で身体は動くのであり、動くのではなく動かされているということを意識しながら演じるよう助言した。

●身体と心をほぐす

身体をほぐすストレッチの後、力を抜く脱力体操を実践。身体の中の柔らかさが大事。力を入れて抜くといった緩急をつけた動きの方が無駄がなく、舞台上で大きく見える。力を抜いて頭をカラッポにすれば余計なことを考えなくなる。部員たちは、力を抜くという普段はあまりやることのない動きに戸惑いながらもその重要さを理解し少しずつ感覚を得ていった。

●イメージして身体を動かす

言葉をイメージして身体を動かす。寒さ、喜び、悲しみ、熱さ･･･ 様々な外的要因によって自分がどう動かされるかを実践。部員たちは各々が感じるままに身体全体で表現した。

●型を使って踊る

舞踏で使われる獣、キリストなどの型を実践。舞踏の動きを意識しながら身体を動かす。その後田村氏が型を使った踊りを披露。終了後は部員たちから多くの質問がなされ、関心の高さが伺われた。

●振り返り

顧問より。いつもと空気感が違い、刺激的であった。部員は感情の中身の表現が苦手なため、外からのもので身体を動かすのだということが具体的に分かり良かった。これからの部活動に活かしていきたいとのことであった。

担当者の報告・評価

酒田市民会館　希望ホール　中里由香

●この事業への応募動機

酒田市では昨年度に酒田市文化芸術推進計画を策定し、今年度から計画に基づき事業を実施している。計画のなかでは、本市がこれから文化芸術を活かしたまちづくりと人づくりに取り組んでいくことを目的とし、「次代を担う子どもたちを対象にした文化芸術事業の充実」を重点的視点のひとつとして捉え、子どもたちへの未来への投資として子ども達の育成を目的とした事業に力を入れて行っていくこととしている。本事業を活用し、子どもたち一人一人の可能性をダンスによって広げ、表現やコミュニケーション能力を高め、生きる力を育みたいと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

今年度は子どもたちの育成を重点においた事業展開を進めており、メインターゲットは子どもと決めていた。これまで小中学校を対象にしたアウトリーチ事業は多く行ってきたが、高校との接点は少なく、今後の事業展開のなかで係わりを望んでいたところであった。表現するという面で舞踏は演劇に通ずるものあることから高校演劇部に声をかけたところ、高校側でもプロからの指導の機会を望んでいたため期待感も大きく、本市にとってもこれをきっかけに高校との繋がりを作っていくきっかけとなればと期待している。

●企画実施にあたり苦労した点

本市では、ダンス事業に取り組んで 6 年目となるが舞踏は初めての取組みであり、市民に馴染みがあるとは言えない。そういった状況の中で、アウトリーチ先を探した。初めはダンスが持つ社会の課題解決の可能性を信じ、不登校の生徒が通う学校で実施する予定でいたが、本人の気持ちが向かず断念した。

また、親子ワークショップの募集は思うように人が集まらず難航した。ダンスや舞踏という言葉に抵抗感を示す人たちが多く、今までの事業に関わり合いのある人たちを中心に呼びかけをした。

●事業の成果と課題

アウトリーチとワークショップの良さ、素晴らしさを改めて感じた事業であった。田村氏の言葉や思いが徐々に子どもたちの身体に馴染んでいき、素直に楽しんでいる姿を見ることができた。アーティストに直に接して日常のなかではできない新しい体験をし、刺激を受け、自己を解放し、多様な考え方や表現の方法があることを感じてもらえたらと思う。そして、今回の事業がわずかでも彼らの記憶に残り、人生において何かの役に立ってくれたらと思う。

アウトリーチ・ワークショップは、経験値の高いアーティストだからこそ出来るものだと感じた。これからも多くのアーティストとともに多様な事業を実施し、多くの子どもたちにたくさん体験してもらいたいと思うが、費用の問題もあり、財源の確保が課題であると感じている。

また、ダンスはいまだに未経験者にとっては垣根の高いものであり、どんなに初心者OKとうたっても敬遠されてしまうことをワークショップの呼びかけの際に感じた。その垣根をどうやって取り払って 1 歩を踏み入れてもらうかがこれからの課題である。

●今後の事業展開や展望

本市でダンス事業に取り組んでから今年で 6 年目となる。これまでダンスを活用した様々な事業を実施し、多くの市民が係わり、ともに育ってきた。今後はこれまで培った人材やノウハウを活かしながら、酒田市文化芸術推進計画に基づき、人づくりとまちづくりに重点をおいた事業を継続していきたい。

コーディネーターレポート

小岩秀太郎

●この地域のダン活の特徴

今回は、大駱駝艦の田村一行氏およびアシスタントの塩谷智司氏による「舞踏」のインリーチ（ダン活外）、高校 3 校（うち 2 校演劇部、1 校はダン活外普通学級）、小学校 1 校（2 学年）へのアウトリーチ（体験）、一般公募ワークショップ（親子）、一般ワークショップ（ダン活外）を、10 月 3 日～ 6 日にかけて実施した。

酒田市はこれまで文化芸術振興基本法の制定に力を入れており、特にも今回担当となった酒田市教育委員会社会教育文化課が中心となって、数年に亘り様々なアーティストとともに、「地域資源」を知ってもらいながらアーティストの作品づくりに役立ててもらうという方針をとってきた。また、アーティストを酒田市に招聘して、公演はもちろんのことワークショップやアウトリーチを実施することで、新たな芸術文化との出会いを市（希望ホール）が積極的に提案し、かつ地域住民がその出会いと、自らの地域のアイデンティティを組み合わせながら、酒田市ならではの作品を創出する市民が増えることを目的とした方針が特徴的である。そういう点からも今回、学校でのアウトリーチにおいて、山形県内でも演劇強豪校である高校が「舞踏」という表現方法に触れたことで、生徒たちの表現の幅や考え方を広げることになったと感じられたし、また小学校アウトリーチや親子 WS においてはこれまで見たことのないタイプの人、世界的に活躍する表現に出会った衝撃が心に残り続けることで、将来的に創造の種や、そうした文化芸術と出会わせてくれた酒田へのリスペクトとなることが期待される。

●課題とこれからに向けて

希望ホールを管理するのが社会教育文化課という行政であることから、縦割社会であり、従来の枠組を変えたり、超えたり、個人の趣味趣向、主義主張、想いを押し通すことは容易でない。また、熱意ある担当者であっても数年で異動になってしまう可能性が高く、「芸術文化が地域を盛り立てる重要な資源である」ことを浸透させることもハードルが高い。しかしながら、市として基本法を制定し、文化芸術で酒田を活性化していく方針が定まっていることからも、まずは専門的ならずとも、少なくとも興味を持つ人材を育成することが急務である。そのためにも、まずは行政内におけるインリーチは必須である。今回の担当者も、全くダンスの知識がなく、むしろ過去に触れたダンスの印象が良くなかったことから、苦手意識があったようだが、今回の事業を通して、体験者の変化や、インリーチによる自らの知見や感動を広げたことで、印象が変わったようだった。

アウトリーチ先やワークショップ集客の広報面に関して、目的をきちんと伝えること、先入観を発信側がはずすことが肝要である。受け取り側の文化芸術の価値観がそれぞれ異なることを念頭にしたチラシづくりや、新しい層や若手の開拓のため、Web による発信もあわせて行いたい。

また子ども達はじめ次世代がその地域に住みながらにして、新たな文化に出会い、またアーティスト側が故郷を知りたいと言ってくる、そのことに誇りと知識を持つことが大切だと感じた。

酒田は「本間様には及びもせぬが、せめてなりたや殿様に」とうたわれたほどに、海のルートで都や大陸とも渡り合った北前船の大庄屋本間家、また主に東日本の人々に深く信仰されてきた出羽三山に抱えられながら、内陸の豊かな食や、山伏達による異文化の流入など、絶えず海・山から情報と文化がまざりあった土地だからこそ、伝統と革新が両立する町であっただろう。こうしたその地ならではの背景を取り入れること、そこから生み出される考え方や身体表現は、まさにかつて東北の農民の身体から世界に羽ばたく舞踏 BUTOH が生まれたことに重なり、その芽が東北・酒田にもあると期待する。

西宮市民会館アミティホール　実施データ

Aプログラム

実施団体	公益財団法人西宮市文化振興財団
実施ホール	西宮市民会館アミティホール
実施期間	平成30年10月17日（水）～10月20日（土）
アーティスト等	アーティスト：セレノグラフィカ　　アシスタント：－
コーディネーター	神前沙織

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 10月17日（水）15:30～18:00、善照学園、幼児クラス及び小学生、30名、旧船坂小学校体育館
② 10月18日（木）10:25～12:00、こども未来センター、あすなろ学級、16名（教員7名）、未来センター会議室
③ 10月18日（木）18:00～20:00、子育て総合センター、保育士・幼稚園教諭、10名、市民会館大会議室
④ 10月20日（土）14:15～18:30、西宮少年合唱団、団員、49名、市民会館大会議室

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 10月19日（金）19:00～21:00、中学生以上、1,000円、15名、市民会館大会議室

スケジュール

	下見	
	5/29（火）	5/30（水）
9:00		
10:00		善照学園 下見
11:00		↓
12:00		昼食
13:00	集合 全体MTG	打ち合わせ
14:00	こども未来センター 下見	子育て総合センター 打ち合わせ
15:00	↓	解散
16:00	市民会館下見 少年合唱団打ち合わせ	
17:00	解散	
18:00		
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
10/17（水）	10/18（木）	10/19（金）	10/20（土）
	集合 移動・準備		
	こども未来センター アウトリーチ		
	↓		
	振り返り		集合
	移動・昼食		準備
集合・移動 準備	市内視察		西宮少年合唱団 アウトリーチ
善照学園 アウトリーチ	↓		↓
↓	↓		↓
↓	準備	集合	↓
振り返り	保育士・幼稚園教諭 アウトリーチ	準備	↓
意見交換会	↓	公募WS	全体振り返り
		↓	解散
	交流会		

アウトリーチ

【①社会福祉法人 善照学園】

様々な家庭の事情により保護者と生活を共にすることが困難になった児童、幼児クラス（2 歳～ 5 歳）14 名、小学生クラス 16 名に向けて実施。「喧嘩する子ども達も出てくるかと心配したが、それぞれの優しさが見えた」「今まで見た事のないような笑顔と表情が見れた」と先生に仰って頂けたのは良かった。非常に手応えを感じる現場となった。

【②西宮市立こども未来センター　あすなろ学級】

何らかの理由により不登校となった中学生（一部小学生）16 名を対象に、先生方 7 名を交えて実施。特徴的に表情や動作が硬い子も少なくない中、途中でリタイアしてしまう生徒もいたが、その他の生徒には概ねリラックスして楽しんで貰えた印象。子供たちの表情もほぐれていくのが顕著にみえた。

【③セレノグラフィカ presents 保育士・幼稚園教諭のためのダンスワークショップ】

「西宮市子育て総合センター」の協力の下、市内の保育所、幼稚園へ向けて保育士・幼稚園教諭の方々へ参加希望を公募する形で実施。市内在勤在住の保育や幼児教育に関わる皆さん 10 名（プラス参加者のお子様 2 名）にお越し頂いた。「幼児教育の実際の現場で活用できる」と一定の評価を得る事ができた。

【④西宮少年合唱団】

当財団とは創設以来非常に関係の深い少年合唱団。入団 1・2 年目の B・C クラスと、3・4 年目の A クラス・アンサンブルクラスに実施。あまり経験した事が無いであろうダンスのワークショップを楽しんで貰えた様に見える。週に一度だけのレッスンでしか顔を合わせない仲間達と、歌のレッスン以外のアクティビティを分かち合う機会はなかなか少ない。こども達の記憶に残る様な貴重な時間を提供できたのではないだろうか。

善照学園

あすなろ学級

保育士・幼稚園教諭

西宮少年合唱団

公募型ワークショップ

【セレノグラフィカ presents 誰でも始められる1DAY ワークショップ】

昨年秋のダン活 B プログラムから本年夏のアミティダンスワークショップを実施する中で、これまで会館に足を運んでもらう事のなかった新しい参加者層を獲得できた。今回の公募型ワークショップも敢えて制限を設けず既存の参加者層を主な対象としながら広く一般に募集をかけたが、予想と期待に反して新規の参加希望が大半を占めた。内訳としては前述のワークショップからのリピーターが 2 名、新規が 7 名の計 9 名。加えて当日は財団の職員と市の文化振興課の職員計 5 名が参加し、総勢 14 名の参加者により実施した。尚、男女比は男 5：女 9 となった。

参加者の中にはダンスのワークショップに初めて参加するという 40 代～ 50 代の女性が多く、市内在住の方が館内のチラシや市政ニュースの記事を見て来られたというケースが殆んどだった。今回は大阪や神戸で開催されるダンス公演にも 2 件ほど折り込みを試みたが、そこからの反応は皆無。2 件とも運悪く台風の襲来により予定の公演回数が減ったという事も影響したかもしれない。それでも現状の広報手段としては、市政ニュースや普段の会館施設利用者への発信に依るところが大きいと再確認した。

ワークショップの内容自体は参加者の皆さんには非常に楽しんで頂けていたと思う。「難しいことを考えずに楽しく身体を動かせた」「身体と気持ちがほぐれてすっきりした」といった様な肯定的な意見が多数だった。また、普段はダンスのワークショップに参加する機会の少ない当財団や西宮市の職員の皆さんも輝いていた。まずは自分達の提供するものを楽しむ姿勢というのは、やはり大切であると感じた。

プログラム詳細

10月18日（木） 保育士・幼稚園教諭のためのダンスワークショップ

●「名前でばんざい！」～「パンパン８キラキラかごめ」

皆で円を作ってリズムに合わせて自分の名前を言いながらバンザイ。一回りしたら次は皆の好きな花を言いながら、最後は好きな寿司ネタでバンザイ。様々なバリエーションで楽しめる。

次は「キラキラ星」の音楽に合わせてかごめかごめ。円になって皆でステップを刻む。

●「おしりレース」～「歩くことからはじめよう！」

手を使わずに長座で座ったまま、お尻だけで前に後ろに進む。少しほぐしてから次は空間を歩いてみる。徐々にスペースを小さくして、人との距離感に気をつけながらぶつからないように歩く。次は広いスペースに戻って、音楽に乗せながら一斉に歩き出す。音楽が止まったらそのままの状態でポーズしてから、「赤い物にタッチ」「眼鏡をかけている人にタッチ」など、遊びながら様々なものにタッチしていく。

●誰かと一緒に踊ってみようシリーズ「＃１人差し指を追いかけて」～「＃２さわってぬけて」

＃1…ペアの相手の人差し指と自分の人差し指を触らないくらいの距離で合わせて、お互いの動きを感じながら追いかけていく。

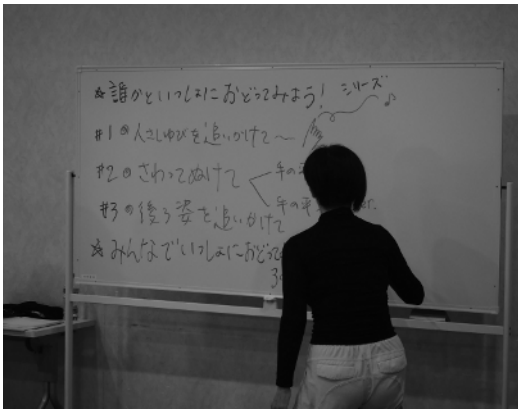
＃2…相手の身体の一部分に触れながらポーズ。触れられた方はその場を抜けながら、同じ様に相手の身体に一部分だけ触れながら別のポーズを作る。繰り返して音楽に乗せると自然にダンス作品生まれていく。

●「#3うしろすがたを追いかけて」～「みんなで一緒におどってみよう」

＃3…ペアを組んだ相手の背中を見ながら相手の動きの真似をする。真似をされている方は真似している相手の方へ向きを変える事で攻守交代、お互いに繰り返し新たな動きを発見する。最後は簡単な振りのついた踊りを皆で踊ってみる。

●振り返り

「ダンスの苦手な自分が、苦手なものを教える事はすごく大事。」ご参加の先生の言葉がとても印象に残った。



担当者の報告・評価

西宮市民会館アミティホール　田北篤史

●この事業への応募動機

当財団では本年から来年にかけて複数の芸術プログラムによるアウトリーチ事業を実施、または計画中である。計画の段階で、これまであまり財団が接する機会のなかった児童関連施設へのアウトリーチを実現したいという希望があり、地域交流プログラムを選択する条件としてマッチしていた。また、昨年のＢプログラムの実施で出会うことのできた参加者のコミュニティに対して、新たな公募型ワークショップを実施する事で継続的なアクションを試みる目的もあり、今回Ａプログラムの応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

間接的なもの含め、3歳以上小学生以下（子ども未来センターは主に中学生）の子供達を主たる対象とした。触れる、見る、感じるなどの身体を通じてのコミュニケーションの重要性を感じてもらう機会として普段の日常生活では得られない何かを、今回のダンスワークショップを通して感じて貰いたいというテーマがあった。

●企画実施にあたり苦労した点

西宮市では小中学校のアウトリーチ事業は市の文化振興課で担っている為、アウトリーチ先は自ずと一般的な学校以外の場所を選ばなければならず、まずは市の関連施設である「こども未来センター」、「子育て総合センター」を実施先として内定した。その後、諸事情により「子育て総合センター」の施設内での実施が不可となった為、会館の外に出て行うアウトリーチ先をもうひとつ探さなければならなくなった。外部でどのような場所があるか探したところ、市内に児童養護施設が存在する事に気づき、実施が可能かどうか「善照学園」に相談をもちかけた。先方はこういったアーティストを招いた形でのイベントは初めてという事だったが、こちらの主旨に賛同頂ける運びとなり、同施設での実施に至った。

また、「保育士・幼稚園教諭のためのワークショップ」については、募集チラシのリリース時期が超大型台風の襲来と重なった為か、公式の〆切までの参加希望者数は２名だった。担当者としてはやや途方に暮れていたところ、事業課長をはじめとした財団職員の身近な保育所等へ直接声をかけて貰い、最終的には10名の参加者にきて頂くことができたのは本当に良かった。

●事業の成果と課題

財団の事業ではこれまで外部の公的施設との連携が少なかった事もあり、率直に言って非常に良い機会だった。「社会包摂」の役割を担う機関としての文化振興財団にとっても、担当個人にとっても大事な一歩になったと思う。また、前述のように担当の力及ばずといったシチュエーションでも、他の職員がしっかりフォローしてくれる体制があったのは非常にありがたかった。私自身の行き届かないところを多々助けて貰い、チームワークを実感できたのは良かったし、頼もしさを感じた。そして何より、今回のアウトリーチ先のこども達の反応も総じて良いものだった。今後の財団と実施施設との関係において、大いに期待がもてる内容だったのではないだろうか。

●今後の事業展開や展望

「善照学園」や「こども未来センター」では施設の職員の皆さんや先生方にも大変好意的な反応を頂き、次年度以降も何らかの形で継続的な実施が見込まれる。今後具体的な話を先方と調整しながらすすめていきたい。市の文化振興課が実施している小中学校でのアウトリーチプログラムにはダンス部門への開催希望が極端に少ないという事だが、財団が市内の各所でダンスのワークショップを実施できれば、その効果の認知度を高められるかもしれない。今回のダン活を皮切りに、現場に選択肢を広げる事ができれば幸甚である。

コーディネーターレポート

神前沙織

●この地域のダン活の特徴

西宮市では平成 22・23 年度に甲東ホールでダン活・ダン活支援を実施しているが、当時の実施団体はホール運営が専門ではない指定管理者（二葉化学商会）であり、西宮市の担当者の働きにより成立したと伺っている。その後、担当者が異動になられてからは、西宮市でのダンスに関する話題を耳にする機会が減ったように感じていたが、平成 29 年度に西宮市文化振興財団がダン活に応募されて、これまでの印象がずいぶん変わった。

西宮市文化振興財団には、3 名の専門職員が在籍し、広報・事業部門でそれぞれの専門性を活かした事業展開をされている。ダン活の担当者である田北さんもそのうちのお一人で、前職（可児市）のホール事業運営の経験を活かし、明確な目的を持って今回のダン活のプログラムを組み立てられていた。

西宮市は人口 50 万弱の中核市である。西に神戸市、東の先に尼崎市・大阪市と個性的な大都市に挟まれ、大学も多数あり、関西で住みやすいまちとされている。全国的にも有名なのは、甲子園と県立芸術文化センターであろう。また、市政のなかでも文化と教育に着目したまちづくりと子育て環境に力を入れており、平成 27 年度から市の文化振興課が小中学校へのアウトリーチ事業を全市で展開されている。

そうした経緯から、平成 30 年度のダン活 A プログラムを行うにあたり、担当者報告書の目的にもある通り、これまで市の事業でダンスを届けられていない対象、特に幼児―小学生、また公募では出あいにくい環境の子どもたちに出会うべくアウトリーチ先を絞られた。この明確な戦略がたいへん素晴らしかったと思う。成果については田北さんの事業報告書をご覧いただきたい。

●課題とこれからに向けて

今回訪れたアウトリーチ先には、平成 31 年度も続けてダンスワークショップを実施される予定であると伺った。最初に水やりをした場所に継続的に関りを持つ事は、アウトリーチ先の参加者に対しダンスを届ける事の大切さと同時に、おそらくそれだけにとどまらない、新たな想像もしない展開につながる一歩になると思う。1 回で終わることと 2 回 3 回と続ける事とでは、同じ内容であってもその成果やそこで語れる事の深さに違いがあり、それが担当者にも財団そのものにも成長を促すカギとなる。継続についてダン活最終日には田北さんが決断されていたことを考えると、本当に頼もしい。

市の事業として実施されている小中学校へのアウトリーチ事業では、ダンスに手を挙げる学校が美術や音楽に比べるとかなり少ないという。今後はダン活で得たノウハウや人材ネットワークを活用し、ぜひ市の事業と連携を図っていかれることを期待したい。関西には学校でのワークショップの経験があり信頼して依頼できるダンスのアーティストが少なくないし、日帰りで様々なタイプのアーティストが訪れることができる恵まれた環境である。

また、3 名の専門職がおられることによる今後の中長期的な事業展開には期待するところが大きい。ホール運営や広報における専門性を有しておられる方が戦略的に事業を考え実現していける事、そうした思いを持った人材が数年で異動する事による負担を考えなくてよい体制が整っている事は、西宮市文化振興財団の事業を持続的に発展させる上で必ずや重要なカギになるであろう。

一般財団法人こまき市民文化財団　実施データ

Aプログラム

実施団体	一般財団法人こまき市民文化財団
実施ホール	小牧市市民会館
実施期間	平成 30 年 10 月 24 日（水）～ 10 月 27 日（土）
アーティスト等	アーティスト：東野祥子　　アシスタント：吉川千恵
コーディネーター	坂田雄平

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 10 月 25 日（木） 10:45 ～ 12:25、小牧市立陶小学校、6 年生、33 名、体育館
② 10 月 26 日（金） 8:45 ～ 10:25、小牧市立大城小学校、5 年 2 組、23 名、体育館
③ 10 月 26 日（金） 10:45 ～ 12:25、小牧市立大城小学校、5 年 1 組、23 名、体育館
④ 10 月 27 日（土） 10:00 ～ 11:30、ミュージカル劇団スパーク、劇団員、25 名、公民館講堂

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 10 月 26 日（金） 19:00 ～ 20:30、小学生以上、無料、13 名、市民会館リハーサル室 2

スケジュール

	下見	
	7/20（金）	7/21（土）
9:00		
10:00		劇団スパーク 打合せ
11:00		
12:00	移動・昼食 打合せ	昼食・市内視察
13:00	↓	↓
14:00	陶小学校打合せ	↓
15:00	大城小学校 打合せ	移動
16:00	会場下見	
17:00	事業全体打合せ	
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
10/24（水）	10/25（木）	10/26（金）	10/27（土）
		大城小学校 アウトリーチ①	
	陶小学校 アウトリーチ	大城小学校 アウトリーチ②	劇団スパーク アウトリーチ
	↓	↓	↓
	↓	↓	振り返り
移動・昼食	昼食		
打合せ 市内視察	市内視察		
↓	↓		
↓	打合せ		
	交流会		
インリーチ			
		公募 WS	
		↓	

アウトリーチ

小牧市にはプロのオーケストラ、中部フィルハーモニー交響楽団があり、小中学校の体育館において、芸術鑑賞会を長年にわたり実施している。だが今回のような少人数を対象としたアウトリーチ事業は実施したことがなく、「なるべくクラス単位で」という条件がネックとなり、学校に公募をしてみたものの、応募するには至らなかった。理由としては、1～2クラスしか受けられないなら不公平になるので参加できない、という意見が多数聞かれた。そのため少しでも不公平感の無い状況での実施を考え、学年が1～2クラス、1回30人前後で実施できる条件の学校に、そして学校以外では、表現力に広がりを持たせたいと考えていたアマチュアミュージカル劇団に決定した。

1学年1クラスの学校で、仲の良さが際立っていた陶小学校では、子どもたちは初めこそ緊張した面持ちだったが、次第にからだを自由に動かすことのできるこのような表現活動を心から楽しんでいるようであった。特別支援の児童を周りの児童が気を配りながら楽しむ様子も見て取れた。

1学年2クラスの大城小学校では、2コマ実施した。そのうちの一つのクラスでは、一人ついていけないような子が体育館の隅へ外れてしまい心配したが、その子は、最後にはみんなの真ん中で、表情も生き生きと本当に楽しそうに踊っていた。表現ができる喜びがほとばしるようで、感動すら覚えた。振り返りの時の意見では「ダンスはふりを覚えたり、みんなと揃えたりしなければならないと思っていたが、自由に踊れたことがとても楽しかった」との感想が述べられ、素晴らしい効果があったと実感することができた。

先生方においても、少人数でのこういった取り組みへの理解や、コンテンポラリーダンスに対する理解が進んだようであった。

陶小学校

陶小学校

陶小学校

ミュージカル劇団スパーク

公募型ワークショップ

小牧市において、初めてのコンテンポラリーダンス事業。タイトルも「こまきココカラ☆ダンス」として、始まりをイメージしたものとした。しかしながら、ダンスに興味のありそうなダンス部や、ダンス教室などにもチラシを配布するなどして周知したものの、参加者は 13 名にとどまった。少人数での開催ではあったものの、ワークショップを実施できたという事は、大きな一歩を踏み出せたと思う。

参加者の年齢については、子どもから高齢者まで幅広く、ダンスの経験についても初めての人から熟練者までと様々であった。ダンス初心者の人が、経験者の人と組んだ時には緊張する一面も垣間見られたが、それもはじめのうちで、自由に動く楽しさを味わうと、ダンス経験者から見れば、未経験者はとんでもない発想で動いているらしく、そこがお互いの刺激になっているようで大変興味深かった。自由に動く、動かされるという新しい体験はとても新鮮で、からだを解放する感覚に身をゆだねる心地よさが伝わってくるようであった。

このような表現があることをどのように周知して、体験してもらえるか、というのが今後の課題であるが、スタッフ自らその体験をすることで、斬新なアイデアも浮かんでくるのではないかと期待している。

プログラム詳細

10 月 26 日（金） 大城小学校

●期待と不安が入り混じった 5 年生の入場と、東野さんたちのパフォーマンスに見とれる顔

体育館ステージの幕をおろした状態で、音楽と共に、東野さんのダンスが始まり幕が開くと、子どもたちの目の色が変わったのが分かる。子どもたちは、頭で理解するというより、素直に「すごい、面白い、こんなの見たことない」と反応する。

●壇上での東野さん、吉川さんに合わせてストレッチ

二人一組で、からだを伸ばしたり、背中合わせで立ち上がったりと、程よい難しさで楽しそうにゲーム感覚で取り組み始める。体が温まると共に、場の空気も温まってきたが、一人、人の輪を外れてしまう子が。体調が悪いかと声をかけるも首を振る。「無理しなくていいからね」と声をかけそっとしておく。

●イメージして自由に動く

子どもたちは動物をイメージして動く東野さんを見て真似しながらも、自分なりの動きを作っている。だんだんオリジナルな動きが増えてくる。

全く何もなく、自由に動けと言われると難しいが「体の中にボールが入っている」というイメージを与えられることで、どんどん動ける。先ほどの子は、座っているものの、目は東野さんや吉川さんの動きを追っており、手も動いている。動きたがっていることがわかる。

●踊る！走る！

先生の言った言葉をイメージして、所狭しと動き回る、走り回る、からだを動かす。みんな表情も生き生きと、目も輝き楽しそう。他人の動きを感じ、自分の体をコントロールする。振りはついていないが、ダンスであり一人ひとり表現している。

気が付くと、先ほど離れていた子どもが、吉川先生と並んで、のびやかに笑顔で踊っている！空に向かって解き放たれたようだ。

●振り返り

始まる前、緊張した面持ちの子どもたちの表情はすっかり変わり、笑顔でいっぱい。「ダンスと聞いて、決められた振りでそろって踊らなくてはいけないと思っていた。でも今日は自由に動けてとても楽しかった。」という子どもの感想が心に残った。

担当者の報告・評価

一般財団法人こまき市民文化財団　佐藤美子

●この事業への応募動機

小牧市においては、過去にコンテンポラリーダンスの事業を実施したことがなく、アウトリーチやワークショップの経験も乏しかった。昨年設立したばかりの財団は、芸術文化事業の専門性を体得しなければならない状況に置かれている。とりわけダンスについての経験はほとんど無い状況にあるため、コンテンポラリーダンスの普及に努めることはもちろん、財団として短期間にアウトリーチやワークショップを企画・運営する力をつけなくてはならない。このような事情から、地域創造のダンス活性化事業の力をお借りして、スタッフのスキルアップも同時に図りたいとの思いで応募に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

一番の狙いは、このダン活事業により学校でのアウトリーチ事業の道筋をつけたいという事である。今までは小牧市にある中部フィルハーモニー交響楽団による音楽鑑賞会を、小中学校において継続して実施していたが、小人数で実施するアウトリーチ事業については行われていなかった。このような体験型のアウトリーチ事業の有効性を財団自らが理解することで、コンテンポラリーダンスの普及についてという目的に近づくことができると考えた。

企画のポイントとしては、はじめの一歩として、職員にとってもあまりハードルを高くせず、学校で実施しやすいもの、比較的わかりやすい内容とすることを心掛けた。学校以外のアウトリーチ先としては、ダンスや表現することに対して、興味がありそうなグループをイメージした。

●企画実施にあたり苦労した点

一番の苦労は、学校からの反応が皆無であったことである。体育の先生たちの研究会に参加させていただき、説明や勧誘を行うも、思うような反応が得られなかった。その原因は、初めてのことで担当の先生まで情報が届きにくかったこと、小人数が条件ということで、せめて学年すべてのクラスで実施できないのは不公平であると考える学校が多かったこと、さらにはそのような事業に割く時間のゆとりがない、というものだった。そのため、比較的小人数の学校をターゲットに、人脈のある人を見つけてピンポイントに交渉にあたり、やっとアウトリーチ先が決定したという、険しい道のりだった。

●事業の成果と課題

成果としては、初めての取り組みという事もあり、所管の市役所の職員も見学に来たりして、アウトリーチ及び、コンテンポラリーダンスというものを理解してもらったことがあげられる。さらには受け入れた学校側の評価が高く、やってよかった、継続してできたらよい等のご意見をいただいた。後日このような取り組みの評判が他の学校にも広がり、他のメニューでのアウトリーチの手ごたえも上々である。職員にとっても大変ではあるが、最初にこの事業でいろいろ体験できたことで、他のアウトリーチについても丁寧に実施できている。

課題であるが、今年度は学校へのアウトリーチが小学校だけであったため、今後は中学校、高校と広げていけるかどうか、あるいは福祉施設、企業等への広がりを作ることができるか、そして一番大切なのは職員がアウトリーチ事業の意義を忘れず、地道に継続していく力を持ち続けられるか、なのだと思う。

●今後の事業展開や展望

次年度はダン活のCプログラムを実施することとなるが、その中での公募型ワークショップの実施について、今回の経験を生かして実施するとともに、プログラムにはないが、アウトリーチの実施も検討したい。

実施３年目においては市民参加公演となるが、それまで参加してくれた人たちを巻き込んだ事業として実施していければと考える。

コーディネーターレポート

坂田雄平

●この地域のダン活の特徴

小牧・長久手の戦いの舞台ともなった小牧山をシンボルとする小牧市。名古屋市の北側に位置し、名古屋近郊都市のベットタウンとしての側面と、東名高速道路、名神高速道路、中央自動車道の 3 大ハイウェイの結節点（陸上交通の要）であることを活かした内陸工業都市としての側面を持つ。1 日の人口流出入が激しく「昼と夜で街にいる人の多くが異なる」ことが特徴の街だ。この背景は同市での文化・芸術の事業を考えるうえでも重要な視点となる。（一財）こまき市民文化財団は、平成 29 年に設立されたまだ新しい財団だ。新たな財団として明確なミッションとビジョンを掲げられた組織で、中核を担うスタッフの意識も高い。今回は、そんな文化財団が挑む小牧市ではじめてのダンスのアウトリーチとなった。

アウトリーチは小学校と、市民参加劇を契機に立ちあがったミュージカル劇団を対象に開催された。小牧市には同市を本拠地とする「中部フィルハーモニー交響楽団」があり、長年にわたって小学校や中学校の体育館を会場とした芸術鑑賞事業が行われてきた。鑑賞型の音楽の授業が数多く行われきた一方で、少人数を対象としたワークショップ型の授業はほとんど行われてこなかった。そういった意味で、クラス単位でダンスのアウトリーチが開催できたことは、新たな一歩となったのではないだろうか。

実施校を決めるまでは難航したとのことだったが、下見や実施は大変スムーズなものだった。小牧市は、人口約 15 万人のうち約 1 万人が外国人ということもあり、アウトリーチ先の学校にも多くの外国籍の児童が通う。下見でその状況などを伺い、使用する日本語について難易度の高い言葉がないかなど、事前に東野祥子さんから学校に確認してもらうことなどが行われた。当日はどの児童も問題なく参加することができた。言語の有無や体育の不得手にかかわらず、参加の機会が保証されたコンテンポラリーダンスの時間は、個性を認めあえる機会としても実施校からも評価が高かった。

今回はプログラムの合間に財団職員を対象にしたインリーチを開催するほか、市職員や財団職員が学校アウトリーチを見学する機会を設けるなど、今後に向けた種まきが丁寧に行われていた。学校関係者からの高評価も相まって、コンポラリーダンス事業としても、アウトリーチ事業としても、非常に良いキックオフとなったのではないだろうか。

●課題とこれからに向けて

今回のキックオフをどのような形で繋げていくかが今後の課題となるだろう。現場ではとても素晴らしい内容が行われているが、それを多くの人に伝えることはなかなか難しい。

実施校の先生方からの口コミも大きな支えとなると思うが、インリーチを受けた財団職員ひとりひとりがスポークスマンとして、コンテンポラリーダンスの魅力を伝えていただけると嬉しい。（インリーチをみて、それが可能なポテンシャルを持ったスタッフばかり！だと感じました。）

さて、次年度以降開催されるダン活 B・C プログラムについては、今回の公募ワークショップの参加者数から鑑みると、おそらく人集めに苦戦する可能性が高い。小牧市の場合は、大都市近郊であり且つ人口の流入が出昼夜逆転するという街の特性をどのように捉え、誰を参加者として募るのか、どの層にターゲットに集客を行うのかを想定した企画づくりがポイントとなりそうだ。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT　実施データ

A プログラム

実施団体	公益財団法人豊橋文化振興財団
実施ホール	穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
実施期間	平成 30 年 11 月 20 日（火）～ 11 月 23 日（金・祝）
アーティスト等	アーティスト：田村一行　　アシスタント：藤本梓
コーディネーター	坂田雄平

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 11 月 21 日（水）13:00 ～ 15:00、FM とよはし、職員、8 名、ティーズ

② 11 月 21 日（水）19:00 ～ 20:30、豊橋創造大学短期大学部、幼児教育・保育科 1 年生、8 名、劇場アートスペース

③ 11 月 22 日（木）18:30 ～ 20:00、豊橋信用金庫、職員、18 名、研修会館

《ダン活枠外》 11 月 20 日（火）13:00 ～ 13:20、公共劇場舞台技術者連絡会中地区分科会、職員、18 名、劇場アートスペース

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 11 月 23 日（金）10:00 ～ 12:00、60 歳以上、無料、14 名、こども未来館ここにこ

② 11 月 23 日（金）14:00 ～ 16:00、6 歳以上～小学生以下、無料、11 名、こども未来館ここにこ

スケジュール

	下見	
	9/11（火）	9/12（火）
9:00		
10:00		会場下見
11:00		
12:00	豊橋着・昼食	昼食
13:00	移動	打合せ
14:00	豊橋信用金庫 打合せ	
15:00	移動	
16:00	こども未来館 ここにこ　下見	
17:00	チェックイン	
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
11/20（火）	11/21（水）	11/22（木）	11/23（金・祝）
			集合
		集合・移動 妖怪リサーチ	公募 WS ①
到着		嵩山蛇穴	↓
	集合・移動	昼食	昼食
公技連ＷＳ	FM とよはし アウトリーチ	石巻山	
打合せ	↓		公募 WS ②
	撤収・移動		↓
チェックイン			撤収・移動 振り返り
		移動	↓
交流会		豊橋信用金庫 アウトリーチ	解散
	豊橋創造大学短期大学部 アウトリーチ	↓	
	↓	撤収・移動	
	撤収		

アウトリーチ

当劇場では平成 23 年度から、豊橋市の受託事業として市内の小・中学校・特別支援学校に向けてアウトリーチを実施している。平成 29 年度は計 40 校に出向き、のべ 3655 名の小・中学生に向けてワークショップを行った。本事業ではいつも出向いている小・中学校は対象外とし、これまでアプローチをしたことが無かった地元企業に向けたアウトリーチを行うことを目標とした。結果、FMとよはし、豊橋信用金庫の企業 2 社と、豊橋創造大学1年生に向けてアウトリーチを実施することが出来た。

アウトリーチワークショップの前半は簡単なストレッチから始まり、四つん這いになり背中を動かす運動、寝っころがり脱力する「寝にょろ」運動で体をリラックスさせた後、頭、肩、腕などが糸に吊られたように上下したり、鳥が体の中を暴れまわり口から抜けていくなど、徐々に体全体を使った動きに発展していった。その際、舞踏は脱力した状態がベースにあり、自分で動くのではなく、（重力やピンポン玉や鳥に）動かされているという事を丁寧に、参加者の体を通して浸透させていった。後半は大駱駝艦が特集された番組や、土方巽さんの映像を見せながら、舞踏が生まれた経緯、舞踏が生まれたことによって踊りの価値がどのように変化したのかを他の芸術作品を例に挙げながら紹介。天賦典式の理念「この世に生を受けたことこそ大いなる才能」を解説しつつ、最後に自分の形をした空洞を空気中に体感する活動をして終了。アウトリーチ先によっては大駱駝艦で定番の振り付けを体験し、それが使われた短い踊りを鑑賞した。

最初は「舞踏」「ダンス」と聞いて身構えていた参加者もいたが、前半の活動で心も体もリラックスした状態になっていた。ゆえに後半の活動も抵抗なく、集中して受けていた印象を受けた。田村さんは言葉を大切にしながら丁寧に進めるので、今回のように自らワークショップに応募した人ばかりではないアウトリーチ、特に大人向けのワークショップにとても向いていると改めて感じた。今回のアウトリーチを1回開催しただけでコンテンポラリーダンスが浸透したとは思わないが、舞踏に少しでも触れた人が増えたことと、田村さんのファンができたことは今後の活動に大いに活かせるスタートになった。

FM とよはし

FM とよはし

豊橋創造大学短期大学部

豊橋信用金庫

公募型ワークショップ

公募ワークショップは 60 歳以上のシニア向けワークショップと、6 歳以上～小学生以下を対象とした子ども向けワークショップの 2 種類を実施した。企画当初は幅広い年齢に向けたワークショップを予定していたが、ちょうど同時期に当劇場でダンスレジデンス事業やダンス公演を実施しており、一般向けのダンスワークショップが溢れていた為、対象を絞り差別化を測った。実施内容はアウトリーチで行った内容に加えて、その場で 100 回足踏みをして自分の体の癖を知ること、シニアワークショップでは自分の形をした空洞を体感する活動をさらに深め、子ども向けワークショップでは絵を描いたり、振り付けを行い、最後に保護者に向けて短い発表を行った。

シニアに特化したワークショップは2016年のピーピング・トム以来2回目、また参加費が無料であったこともあり、普段当劇場のワークショップに参加しない方の申込が多かった。最高齢は78歳。体に不調を訴える参加者もいて緊張したが、ゆるやかなペースでじっくり取り組むやり方でワークショップが進み、参加者の満足度も非常に高いものとなった。舞踏の特性なのか、参加者の味が引き出され、湖の水に動かされたり、氷になって溶かされたり、風に吹かれる動きが一つひとつ作品のようであった。特にこれまでの人生を背中に背負いながらすり足で部屋を横断する動きは、彼らの生きてきた時間が目に見えるようで、ただ横断しているだけなのに迫力に感動した。今回時間が無くできなかったが、次回は是非作品作りまでを含めたワークショップを実施したい。

子ども向けワークショップは他に比べて終始パワーに溢れた時間となった。途中子ども達の集中が切れかかった場面があったものの、後半の振り付けの時間から集中力を取り戻し、最後の発表まで駆け抜けることができた。保護者の見学は可としており、見ている親もいたが、見学者がいなくなった時間から子ども達の集中力が一気に高まったタイミングがあった。やはり参加する子どもたちが集中するには保護者の見学を極力短時間にした方が良いことが分かった。また、参加者の妹で 5 才の子が当日飛び入り参加した。兄が 2 人参加していたこともあり、問題なく、むしろ一番夢中で参加していたのが印象的であった。子ども向けの企画は送迎で兄弟が一緒にいることが多いので、内容にもよるが、アーティストが良ければ兄弟も参加できる柔軟性を忘れないようにしたい。

プログラム詳細

11 月 22 日（木） 豊橋信用金庫

●挨拶～ストレッチ

劇場と田村さんからご挨拶。どんな踊りを想像しているか参加者に問いかける。そこで父親の歩行器を使って歩く様、母親の台所に立つ背中なども「踊り」である事を提示。参加者の笑いを取りつつ、踊りの幅広さを伝えリラックスさせる。ストレッチはアキレス腱、首、肩甲骨、肩と順番にストレッチをしていく。その際、自分の力でやらない事、力を抜く体操である事を強調。

●皮袋になって力を抜く

自分が皮袋になったかのように横たわり、脱力する。田村さんと藤本さんが順番に参加者の足を持って体を揺すって回る。皮袋の中の水がちゃぷちゃぷ揺れるように、溶けるように。次に 2 人一組でお互いを揺すってみる。

●ピンポン玉と糸に動かされる

四つん這いになり背中を動かす体操。お腹の下で風船が膨らんだり、背中でピンポン玉が暴れたり、自分で動くのではなく、体が動かされることを意識。次に立ち上がり、頭や左ひじ、右人差し指が糸に吊られるような動き。田村さんは常々力を抜くことで本来の力を引き出されると声を掛けながら進める。

●力（りき）みと脱力

星のように全身を開きながら力み、素早く脱力しながらうずくまる動きを 5 回繰り返す。うずくまる事に力を入れると逆に遅く、疲れてしまう例を見せながら、脱力する大切さを解説。最初はバラバラだった参加者も、繰り返すごとに揃っていく。アウトリーチ先の中で唯一「踊りは止まる事でみせる。つまり息を合わせると揃ってみえる。意識してみましょう」と踊りの見せ方について言及していた。

●映像を見る

大駱駝艦を特集した番組の一部と、土方巽の踊りを見せる。舞踏が生まれる前後の踊りについてや、デュシャンの『泉』などを見せて、表現の幅について紹介。「やっていけない、を気にしていると自由な発想はできない (田村)」

●自分という空洞を感じる

回りの空気を触覚、味覚、嗅覚、視覚の順番で感じていく。やがて空気がゼリーに変わり包まれ、動かされる。

●振付の体験・踊りを観る

「キリスト」から「獣」になる振りを体験。最後に 2 人の踊りを鑑賞した。

担当者の報告・評価

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT　大橋玲

●この事業への応募動機

当劇場では年間を通して数多くのワークショップやアウトリーチを実施しているが、ワークショップ参加者の顔ぶれは同じになりつつあり、またアウトリーチ先も学校関係以外の開拓が出来ていない状態であった。そこでコーディネーターという専門的な外部の視点が入る本事業を活用し、改めて豊橋という街やそこに住んでいる人たちの特徴を捉え、気持ちを新たにアウトリーチ先を模索したいと考えた。そして、次のBプログラムに繋がる、もう一歩地域に踏み込んだ場所を開拓していきたいと考え応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

コンテンポラリーダンスの魅力や理解を深め、ダンスに対する敷居をより低くするため、市民の中でもこれまでアプローチしてこなかった地元企業を対象としたアウトリーチを行い、コンテンポラリーダンスに親しみのある市民を増やすきっかけを作る事をねらいとした。企業への交渉は初めてだったので、これまで取引したことのある、または交流のある地元企業を対象とし、実現可能な対象者を探った。

公募ワークショップでは対象者を絞って実施。他の事業との差別化を図った。特にシニア向けは 60 歳以上に限定することにより、普段参加しないシニア世代への後押しになればと企画した。

●企画実施にあたり苦労した点

事前に全体研修会でアーティストのワークショップを受けることはできるが、アーティスト決定後に交流をする機会を設けることが出来なかったので、企業に向けての説得材料が少なく苦労した。研修会だけではとても舞踏の特徴を捉えきれず、田村さんの信念や大切にしている事をもっと聞き出す時間を設けるべきだったと反省した。

そして世間的に催事が多い時期と重なっており、アウトリーチ先の決定と日程調整がかなりギリギリになってしまい、関係者の皆様に迷惑をかけてしまった。

●事業の成果と課題

アウトリーチはそれぞれお互いのことを知るいい機会になった。豊橋信用金庫では担当の土屋さんへ実施後挨拶に行った際、打合せの時よりも打ち解けて話が出来、信用金庫内で今後実施出来そうな企画などを言い合える仲になれた。例えば、社員の家族に向けた親子向けの企画をこれまで行ったことがないため、実施してみたいと意欲的な意見を貰うことができた。FMとよはしでは、ワークショップで行った動きが社内でブームになっていると担当の渡辺さんが後日教えてくれた。豊橋創造大学からはアウトリーチ後に行われた発表会に招待してもらい、その際他の先生にも紹介していただき、さらに人脈を広げることが出来たのは良かった。

公募ワークショップは定員を各 20 名にしていたが、結果的に少人数であったことにより参加者全員に目が行きわたり、丁寧な時間を提供できた。シニアワークショップでは終わった後会場で参加者がまったりと交流していたのが印象的だった。それだけワークショップの空間にリラックス効果があり、心を開くことができたのが分かった。私が理想としているワークショップの形が少し見えたように感じた。

また、アウトリーチの間の空き時間を活用し、豊橋の新しい魅力を発見できたのは非常に良かった。今後豊橋で実施できそうな企画の可能性を存分に話し合えることが出来た。

課題は何としても今回できた交流を途切れさせない事。そして次回はアウトリーチのコーディネートをよりスムーズに実施できるように努める事である。

●今後の事業展開や展望

ここまで培ってきた知識と、作った繋がり、発見した豊橋の魅力を活かして 2 年後に申請予定のBプログラムの構想を練っていきたい。参加する対象もいつもの顔ぶれだけではなく、シニア世代や障がいを持つ方など、幅広い方に情報を届け、参加して貰えるよう、じわじわと対象者を広めていきたいと考えている。

コーディネーターレポート

坂田雄平

●この地域のダン活の特徴

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT（以下 PLAT）は、豊橋市のみならず東三河エリアの芸術文化振興を目的とする芸術文化交流施設だ。年間を通じて多彩な公演や事業が行われている。PLAT は昨年度よりダン活に参加し、C プログラム（作品上演）を経て、今年度は A プログラム（アウトリーチ等）の実施となった。PLAT は開館以来、学校でのアウトリーチを多数実施するほか、大学と連携しワークショップファシリテーターの育成にも携わるなど教育現場での事業経験も豊富だ。こうした背景もあって、このダン活ではひとつの挑戦として「企業」に焦点を当てたアウトリーチが試みられた。

今回は、FM とよはし、豊橋信用金庫、豊橋創造大学短期大学部の幼児教育・保育科 1 年生を対象としたアウトリーチを実施。FM とよはしは同社が所在するビル、豊橋信用金庫は同社の研修施設で、ともに職員を対象に行われた。田村一行さんが舞踏を通じて伝える「あるがまま」を受け入れ、そして「動かされる」という視点は、自分たちの仕事に置き換えても新たな発見のある内容だった。舞踏の持つ身体的文化資本の獲得が、より日常生活や職環境を豊かにする契機となることが予感させられる時間となった。豊橋創造大学短期大学部の学生を対象としたアウトリーチは田村一行さんが、保育と舞踏に関する対談を行なった直後であったこともあって、教員や学生らの高い関心のもと実施となった。

アウトリーチは多くの場合、ホール以外の団体と協働で事業を開催する。近年は企業を対象としたアウトリーチや連携事業が、いくつかの劇場で取り組まれているが、その実施の難しさは、目的のすり合わせにある。ダンス振興や公演の集客のみを事業の目的とするならば企業との協働は難しい。教育機関であれば、学校ごとに配慮する事情はあるものの「人を育てる」という大前提を目的とすることが可能だ。しかし企業や特定の領域の対象とする場合は、それぞれに実施の目的や社会的な意義を共有する作業からはじめる。今回も多くの打ち合わせや調整を重ねての実施となった。コンテクストの異なる業界と協議することは、担当者にも多様な言葉での説明が求められる。今回は実現まで時間を要したが、芸術の力を信じることができる担当者だからこそ、粘り強く実現へと繋げられたのではないだろうか。日常的に様々な事業に取り組み、アーティストの力を強く信じることのできる館ならではのダン活だった。

●課題とこれからに向けて

今回のように「企業」などを対象とするときはいくつか留意すべきことがある。それは企業側にとっても整理しなければならないことがあるということだ。例えば「なぜ、ホールと組むのか（社会的な意義）」「なにを狙いにダンスをするのか（目的）」「社内での企画の位置付け（承認）」「社員の集め方やプログラムの説明の方法（手法）」などがある。そのほかにも、この時間を職務の一環とするのかしないのかなど、考えなければならないことが多々あることを忘れてはならない。

また企画に関わることだが、企業や多様な団体との協働においては、必ずしもワークショップスタイルのアウトリーチがベストとは限らない。今後さらなる連携を図る場合は、アウトリーチ＝ワークショップという固定観念を外して、柔軟な企画づくりも求められることだろう。

くにたち市民芸術小ホール　実施データ

Aプログラム

実施団体	公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団
実施ホール	くにたち市民芸術小ホール
実施期間	平成 30 年 12 月 5 日（水）～ 12 月 8 日（土）
アーティスト等	アーティスト：東野祥子　　アシスタント：吉川千恵
コーディネーター	宮久保真紀

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 12 月 6 日（木）13:00 ～ 14:30、適応指導教室さくら、中学生と教職員、11 名、くにたち総合体育館
② 12 月 7 日（金）13:35 ～ 15:25、国立市立第三中学校、A組（特別支援学級1～3年生）、8 名、教室
③ 12 月 8 日（土）14:00 ～ 16:30、一橋大学大学院、社会学研究科・社会学部「平和と和解の研究センター」学生と教員、27 名、研究会議室

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 12 月 6 日（木）19:30 ～ 21:30、中学生以上、18 名、ホール
② 12 月 7 日（金）19:30 ～ 21:30、中学生以上、10 名、ホール
※参加料　1,500 円（2 回連続）
《ダン活枠外》12 月 8 日（土）10:00 ～ 11:30、中学生以上 + こども（3歳以上）、1,000 円、6 組、ホール

スケジュール

	下見	
	6/28（木）	6/29（金）
9:00		ホール顔合 インリーチ準備
10:00		インリーチ
11:00		↓
12:00		着替え、昼食
13:00	谷保駅集合 第三中学校打合せ	↓
14:00		体育館下見
15:00	適応指導教室 さくら打合せ	ホール下見 舞台スタッフ打合せ
16:00	事業全体打合せ	WS、制作物 打合せ
17:00	↓	
18:00	一橋大学 打合せ	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
12/5（水）	12/6（木）	12/7（金）	12/8（土）
			集合 ＷＳ準備
			親子ＷＳ ※ダン活枠外
	集合	谷保駅集合 移動	↓
	準備	第三中学校 アウトリーチ	
	適応指導教室 アウトリーチ	↓	移動
集合	↓	↓	一橋大学 アウトリーチ
テクニカル 全体打合せ	振り返り	↓	↓
↓	WS 準備	移動	↓
交流会	↓	WS 準備	交流会 一橋大学佐野書院
	↓	↓	↓
	公募ＷＳ①	公募ＷＳ②	振り返り 懇親会
	↓	↓	
	↓	↓	

アウトリーチ

【アウトリーチ先の選定について】1）受け入れ先が抱える課題解決の糸口をダンスによって見出す　2）参加者が自身の身体で実践することで、まったく新しい視点や気付きを生み出す可能性を知ってもらう　3）他人との距離感を感じつつ、個としてあることの良さを知ってもらう　ことを目指し、受け入れ先を検討した。

【適応指導教室さくら（中学生）】不登校生徒が通う教室で、型にはまらず自分を表現する手立てを体験してほしかった。アーティストはオープニングダンスで期待感を湧かせ、「真似ダンス」で自信をつけさせ、ぐいぐいダンスの世界に引き込んでいった。生徒たちは身体ほぐしから表現につながる動きまで楽しげに行っていた。先生方もダンスの効用を実感されたようで来年もぜひ、との言葉をいただいた。

【国立第三中学校A組（特支）】それぞれの状況・課題を抱える生徒たちに、成長のきっかけを一つでも多く・・・と奔走する先生方にぜひダンスを役立ててほしかった。適切なコミュニケーションが苦手、自分をコントロールできない、ずっと縮こまっている・・・などの特徴とともに難しい年頃の男子生徒のみのクラスであったが、約 2 時間のプログラムに全員ついてきてくれた。ケンカしていた同士が 2 人組で動いたり、思いもよらない豊かな表情で活動していたことに先生が感激されていた。

【一橋大学】研究を通じ社会課題解決に取り組む学生たちに、一見かけ離れた存在であるダンスが何らかの方策になりうる可能性を知ってほしかった。身体の存在を再意識することで、考え方や発想に自分の枠があると気付いたり、コミュニケーションツールとして捉えたり、と発見があったようだ。誰にでも踊れる楽しさも知ってもらえた。活動後振り返りの時間をつくり、一人ずつ感想を述べてもらった。参加者募集および懇親会準備に学生たちの運営協力があり、一緒に事業を盛り上げることができた。

適応指導教室さくら

第三中学校

一橋大学

一橋大学

公募型ワークショップ

【企画意図】現代ダンスに少なからず興味を持っていそうな人、逆に興味を持ってこなかった人どちらも現代ダンスを楽しむことができることを知ってもらい、今後のダンス活動を行う土壌づくりがしたかった。今回の参加者から、来年度のＢプロ市民参加作品出演者が出現することも狙った。一方、観覧も出演も難しいと思われる子育て世代の保護者に対し、多忙さに追われる毎日に少しでも芸術に触れるひとときを味わってほしいと考え、「ダン活外」で1回ワークショップを設けた。

【一般向けWS】連続した2日間の平日夜に実施。募集の際には、チラシや情報を市内外のダンス・演劇に興味を持つ層に届けることを意識した。結果的には市議やダンス・演劇経験者から未経験者までの18名が参加した。冒頭からみな積極的に動き、いつの間にか「表現」することに取り組んでいた。2日目は人数が10名に減ったものの内容がより深化し、東野さんいわく「プロでも難しい」ところまで行きつくことになった。具体的には5人一組のうち、3名が舞台で演技し、自然に一人が抜け代わりに一人が入り、そのまま演技を続ける･･･というもので、ホールならではの照明も使い、まるで作品を観ているかのようなレベルに達していた。

【親子向けWS（ダン活枠外）】保護者（中学生以上）とこども（3歳以上）を一組とし、こどもが複数の場合は保護者が別につけば見学可能、とした。参加は6組と少なかったが、舞台面が狭く感じるほどよく動いた。4歳の子が3歳の子の身体を振り付けていたことに驚いた。また東野さんが語るストーリーに合せて踊る場面では皆楽しそうで、現代ダンスの深さをおのずと知っていただけたと思う。

プログラム詳細

12 月 8 日（木） 国立市立第三中学校　A 組

●踊りながら登場！給食をともにいただく

4 時間目、体育館での体育授業の最後に、「いきなり」東野さんと吉川さんが踊りながら登場。驚いて一度外に出てしまった生徒もいたがすぐに戻り、全員に対してアーティストの自己紹介～導入を行った。その後、みんなで四角くテーブルを並べ給食をいただきながら、アーティストはそれぞれの名前や個性を掴みとっていった。

●身体をほぐすことから始める

ストレッチで身体をほぐす。二人一組になって、お互いを信頼しながら進めていく。先生が「昨日までネット上でケンカをしていた二人なのに・・・」と感慨深げにつぶやく。その目線の先にはあれこれ言い合いながらも楽しそうな姿が。

●まずは踊ってみる

東野さんが説明しながら動く。「手に持つ箱が重い、スライディング、おじいさんになってライオンになって・・・」を真似していると、いつしかそれはダンスになっている。2 組に分けて、お互いに観賞しあう。

●他者を動かす

2 人一組、一人がもう一人にポーズをつける。手のひらを互いに合わせて、一方がリードして動く。手のひらを相手の眼に合わせてコントロールする。また、小さな輪を作って隣ではない人同士で手を繋ぎ、それをほぐしながら大きな輪にしていくワークでは、時折集中力を切らし活動から離れてしまいがちな生徒が積極的にリーダーシップをとっている姿があった。

●自由に、自分なりに動く

東野さんから「狂った時計、溶ける、宇宙船の中・・・」と「お題」が次々と出され、それぞれに表現をしていく。疲れは見え始めていたが、やり切ってくれた。

●振り返って

ただでさえ難しい中学生、しかも全員男子という状況下、東野さんは様々なワークを次々に投入することで彼らを引っ張っていた。途中照れ隠しなのか、窓際に座り込む生徒もいたが、約 2 時間を乗り切った。それぞれの強い個性、集団活動やコミュニケーションが不得手な生徒たちがどこまで取り組めるか心配されていた先生は、翌日写真をご覧になり「こんな表情をして踊っていたなんて・・・」と安堵されていた。真剣なまなざしを持ち、終始笑顔でいられる生徒たちの一面が浮き彫りになった活動であった。

担当者の報告・評価

くにたち市民芸術小ホール　斉藤かおり・竹内恵美子

●この事業への応募動機

当ホールに現代ダンスは良く似合うのでは、と考えていた。ひとつには 336 席のサイズ感、客席がすべて階段上で見やすいこと、舞台面が 9 分割でき一部を下げたり客席をつくることができる機構から。もうひとつには、現代ダンスが芸術的価値の真髄である「創造性」と、人と人をつなげたり身体を通じて自身や他者を見つめなおすきっかけとなる「社会性」を併せ持ち、地域のホールが取り組むことで大きな成果をあげられるジャンルと思ったからである。昨年 C プロではアーティスト創作作品を上演し、現代ダンスへ取り組む決意表明を行った。続く今年度 A プロでは、ワークショップに加えアウトリーチで上記「社会性」の検証を行いつつ、ダンス普及の道を探りたいと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

現代ダンスの鑑賞者となるとともに現代ダンスを活かしていける人々に出会いたいと考えた。アウトリーチとワークショップ双方を活かし、できるかぎり広い範囲の人々へ波及していくことを期待しそれぞれの対象を設定した。同時に、来年度 B プロへつなげる取り組みを意識した。市内ではまだまだ普及していると言い難い現代ダンスへの取り組みと、様々な環境で生活する人々へのアプローチにはそれぞれハードルが少なからずあるという根底があるが、それを壊しつつ新しいものを築きあげたいという思いがあった。

そのためにまず、現代ダンスへの理解をより広めていけるように市の職員や子どもに関わる仕事をする人を中心にインリーチを下見時に行い、今後の事業展開を行いやすくする素地づくりに努めた。

アウトリーチでは、昨年落語家派遣を行いつながりができた国立第三中学校 A 組、かねてより気になっていた不登校児童・生徒が通う特別支援教室さくら、今後様々な面で協力体制をつくっていきたい一橋大学の 3 か所を選択。前 2 箇所では課題解決の一策としてダンスを提示したかった。一橋大では、社会に潜む課題解決に挑もうとする学生にダンス、芸術の新たな効用を見出してほしかった。

ワークショップでは、「誰でも踊れる現代ダンス」であることを体験してほしかった。そのためダンス経験の有無を問わず参加募集をした。また、公演や通常のワークショップ等では対象者としてこぼれがちな子育て中の人も何かの形で接点を持ちたく、ダン活外で別途設定した。

●企画実施にあたり苦労した点

親子向けワークショップは応募者が少なかった。現代ダンスそのものになじみがないこと、子ども向けではなくおとな向けであることが伝えきれなかったかもしれない。ただ、市外からの参加 3 組はいずれもネットで子どもと参加できる活動を探してやってきており、需要はあると思った。

●事業の成果と課題

アウトリーチ先の学校 2 校からは、「来年もぜひ」との言葉をいただいた。何らかの形で継続させたい。一橋大学へは、B プロ企画でかかわっていただくことを考えている。ワークショップについては、参加者が様子を心得、B プロにつなげていける予感がある。ホールでの実施で本番のイメージが持てたのではないか。

課題としてはまず B プロに向けて、過去 2 年間のダン活の実績をどれだけ活かしきることができるか、その仕掛けをきちんと考える事。そして「芸術性」と「社会性」をともに追求することである。

今回のダン活の〆として、一橋大学の佐野書院で懇親会を行うことができ、第三中学校の先生も加わる中、4 日間の写真を投影しながら交流できたことは有意義であった。

●今後の事業展開や展望

アウトリーチおよびワークショップに参加した人たちがそれぞれの体験と思いを周囲の人々に伝えてくれることを願っている。今回の参加者を当ホールの共鳴者として事あるごとに声をかけ、点を線に、面にしてダンス事業応援団となっていきたい。またダン活での経験が強みとなり、ダンス事業の展開の可能性が見えてきている。誰でも楽しめる、新しい自分に出会える、コミュニティーの創成にも役立つ・・・などの特性を活かしつつ、当ホール事業の様々な目的に活用できる柱として育てていきたい。

コーディネーターレポート

宮久保真紀

●この地域のダン活の特徴

アーティスト：東野祥子（前年度：C プロ　田村一行／次年度：B プロ　東野祥子）

アウトリーチ ①適応指導教室の中学生　②中学校の特別支援学級クラス　③一橋大学大学院生

ワークショップ　①中学生以上対象　2 日連続 WS　②親子向け（ダン活枠外）

国立市は人口 7.5 万人、市立中学校 3 校、市立小学校 8 校。他に私学が数校。今回のアウトリーチ先にもなった一橋大学などの存在で文教エリアとしても有名で、且つ高級住宅地の印象も強い街である。劇場のあるエリアは、JR 中央線国立駅からバスで 10 分程度、世間の「くにたち」のイメージを創っているエリアからは少し離れているように見えるが、国立市の歴史を見ると発展のスタートは劇場付近のエリアとのことで、市役所も劇場の隣にあり、市の核の場所であるともいえる。劇場の前には広い公園があり、ロビーには毎日放課後の小中学生たちの集いの場になっていて賑やかだ。

今回の A プロでは、劇場担当の斉藤さんが築き上げたネットワークの中から、適応指導教室の中学生向け、市内中学校の特別支援学級向け、文化人類学を専門とする大学生対象の内容の違う 3 件のアウトリーチと市民向けの 2 種のワークショップが実現できた。

中学生向けのアウトリーチ先は 2 件共、様々な問題を抱える生徒たちに向けたクラスであった。一つ目の適応指導教室は当日にならないと参加人数が確定できず、さらに参加者数が少なかったのが残念であったが、室長の感想ではどの子も一緒に踊ることで体と共に心がほぐれてきたと感じてくれたようだ。もう一つの特別支援学級の場合は、全員男子生徒で 3 学年が一つのクラスという環境で、気持ちが途切れがちで、集中して指示を聞くことが難しい場面もあり、多くのアウトリーチを行っている東野さんにとっても難しい事例だったようだ。しかし同席していた者から見ても、短い時間の中で、生徒たち一人ひとりの成長を肌で感じ、スポーツではない身体表現が心へ及ぼす影響は必ずあったと確信している。

一橋大学の参加者は文化と政策や紛争と和解などの研究をしている大学生と大学院生がメインで、教員や留学生も加えての総勢 20 名。ダンスやスポーツの経験者も見受けられ、大変積極的に参加してくれた。自主的に演劇部の学生が運営周りを引き受けてくれた為、多くの学生が参加してくれたことにつながったように思う。アウトリーチ終盤では、参加者全員から感想を聞く時間を設けた。頭で考えたことと身体の動きがつながっているようでつながっていないことの面白さや、言語より濃密なコミュニケーションである身体表現への驚きなど、深く考察された内容で、日頃ダンスに携わる身としても新鮮な言葉の数々であった。

さて、もう一つの事業について記す。「表現の自由を勝ち取れ！」（中学生以上向け）と「こどものいるおとなのためのダンスワークショップ」（親子向け／ダン活枠外）と名付けられた二つのワークショップ。メッセージ性の強いタイトルに惹きつけられた参加者たちは、モチベーションも高く、既に公演への出演が決まっている人たちとの創作のように感じる、芸術性の高いものになった。劇場のテクニカルチームも万全の構えで、来年度の B プロの創作に向けての第一歩になった。

●課題とこれからに向けて

来年度が同じアーティストで開催する B プロの為、今回関わりを持てたワークショップ参加者やアウトリーチ先の学生たちにアプローチできることは利点である。対象者はあくまでも国立市民中心ではあるが、都内という地の利も活かし、近隣エリアからの参加も見込める。長く都内に住む一人として、芸小ホールの存在は今回のダン活事業があるまで訪れたことがなかったが、大変良い環境・サイズの劇場はもっと活用されるべきだ。市民以外も申し込み・利用可能ということもあり、この事業を通して、今後ダンス公演を行いたいアーティストにも強く発信してほしいと願う。

宗像ユリックス　実施データ

Aプログラム

実施団体	公益財団法人宗像ユリックス
実施ホール	宗像ユリックス
実施期間	平成30年12月6日（水）～12月9日（日）
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈　　アシスタント：北園優
コーディネーター	中西麻友

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 12月6日（木）14:10～15:45、宗像市立玄海東小学校、3・4年生、38名、体育館
② 12月7日（金）　8:45～10:20、宗像市立河東西小学校、4年1組、37名、体育館
③ 12月7日（金）10:40～12:15、宗像市立河東西小学校、4年2組、39名、体育館
④ 12月8日（土）11:00～14:00、国立大学法人福岡教育大学、ダンス部、19名、小体育館

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 12月9日（日）13:30～15:30、小学生以上、500円　ペア800円、15名、ハーモニーホール舞台

スケジュール

	下見	
	8/9（木）	8/10（金）
9:00		
10:00		河東西小学校 下見
11:00		
12:00		
13:00	玄海東小学校 下見	
14:00		福岡教育大学 下見
15:00	会場下見	
16:00	インリーチ準備	打合せ
17:00		
18:00	インリーチ	
19:00		
20:00	交流会	
21:00		
22:00		

実施期間			
12/6（木）	12/7（金）	12/8（土）	12/9（日）
	河東西小学校 アウトリーチ①		
	担当教員との 振り返り		
	河東西小学校 アウトリーチ②	福岡教育大学 アウトリーチ	
	給食交流	↓	
	担当教員との 振り返り	↓	公募WS
玄海東小学校 アウトリーチ	市内視察		↓
↓	↓	会館施設見学	↓
担当教員との 振り返り	会館施設見学	公募WS打合せ	全体振り返り
	↓	↓	↓
交流会	交流会	↓	アーティスト帰京
		交流会	

アウトリーチ

市内を 2 つの地区（漁業関係者が多い地区・転居者が多い新興住宅地）に分け、各地区（学校）の子ども達の反応の違いや学校の受入れ体制の違いをリサーチ。また非言語コミュニケーションの有効性や芸術性などダンスが持つ教育的側面を体感してもらうため、市内にある教育系大学で教育者を目指す学生に向けたアウトリーチを実施。

【宗像市立玄海東小学校】当初は 4 年生対象として提案したところ、企画内容を受けて 3 年生児童へも体験させたいという学校側の要望で 3、4 年生合同の実施となった。「彫刻になってみる」という時間では盛り上がり、子ども達から「もう 1 回やりたい！」とリクエストが。終了後、子ども達から「また先生と踊りたい」という言葉もあり、体を使って表現する楽しさを感じてもらう事が出来た。

【宗像市立河東西小学校】4 学年は全 2 クラス。1 組では長井さんを真似てステージに登壇し、クラスメイトに動きの指示をする児童が登場。長井さんも「初体験」の驚きの場面があった。好きなポーズをするプログラム中、どうして良いのか解らず座ったままの児童がいた際、一旦全員を集め「わからなければ座ったままで良い。それもダンスだと思う。」という長井さんの言葉に児童はとても驚いていたが、最後には全員が納得していた。2 組でも少しふざけたり、笑いをとったりする動きをしていた児童も「自分らしい動き」「本当に自分がやりたい動きをする」という話をした時、真剣な表情で話しを聴き、その後のワークでは自分自身のダンスを考えるような動きになった。各クラス共で 2、3 人クラスの輪から少し離れたところで様子を伺うように見ていた児童がいたが、徐々に輪の中に近づき最後は全員参加でグループ発表を実施。担当の先生からは「1 年間伝え続けた『自分らしく』という言葉を理解・納得できるような内容だった」、「日頃じゃ見られない子どもの良い所が見られた」「実施して本当によかった」など高い評価を得た。

【国立大学法人福岡教育大学】柔軟体操、視線や身体の使い方など経験者向けのプログラムを実施。直接的な技術指導ではなかったにも拘らず、「ダンスの踊り方が変わった」「スランプから抜け出せた」という感想の他、「何かを感じ取ってもらえるダンスをしたい」「相手の気持ちを汲む」「話たことの無い相手とも自由に踊れて気持ち良かった」など内面の変化を感じた感想も多くあった。

玄海東小学校

河東西小学校

河東西小学校

福岡教育大学

公募型ワークショップ

【ユリックスダンス講座 vol.1】

8 月の下見の際に開催したインリーチ参加者の「普段の自分を忘れて楽しく踊れた」という感想をヒントに、家庭や社会、学校での肩書や役割など【日常の自分】を開放する、「優しく自由なダンス」を目指した。小学生以上という制限のみで対象は絞り込まず未経験者・経験者を問わず募集。最終的に小学 1 年生から中学 3 年生までの学生が 7 人、3･40 代が 8 人の合計 15 人が参加。2 名のダンス経験者の他、夫婦が 1 組、姉妹が 2 組、親子が 2 組と、様々な肩書と役割を持った人々で構成された。

講座全体スケジュールは舞台上でワークショップをしたあと、客席でのパフォーマンスも行い、最後は舞台上で 1 人 1 人発表をして終了するというものだった。ホールの舞台上という事もあり少し緊張した空気で講座がスタート。アーティストの自己紹介ダンスのあとは、動きをまねるプログラム、全身を判子にして床や空間にスタンプしていくプログラムを行い少しずつ緊張がほぐれているように見えた。しかし全員で輪になり身体を使って自己紹介する際、再び緊張してしまったようで全員の動きが硬くなってしまった。そこで急遽予定を変更し、客席パフォーマンスと発表時間をカット。ピアノ演奏に合わせて止まる・自由に動く、2 人 1 組で相手の身体の一部に触れて止まるなどのプログラムに変更。姉妹や親子などペアで参加していた人が多かったため、しばらくは離れず並んでワークをしていたが、動きが多くなるにつれて自然と離れていった。最後はアーティストも混ざり、これまでのプログラムを織り交ぜ舞台上を自由に踊り終了した。

参加者からは「普段接することのないダンスを楽しめた」「いろんなダンスが出来た」「生のピアノ演奏で気持ちよく踊れた」というプログラムの感想と共に「みんなと踊れて楽しかった」「みんなと表現するのは楽しかった」「他の学校の子とお友達になれた」といった参加者同士の交流に対する意見もあった。ダンスを通して初対面の、世代や性別の異なる者同士でも深いコミュニケーションが図れた事が伺えた。

プログラム詳細

12 月 7 日（木） 玄海東小学校 3・4 年生

●動きをまねる

長井さんの動きを左右対称にして真似する。難易度が高くなるにつれ子ども達は夢中で真似る。途中で担任の先生の動きを真似る無茶ぶりをするが、先生も乗ってコミカルに動いてくださり、子ども達はより夢中になっていった。

●早い動き選手権とゆっくり動き選手権

長井さんの合図にあわせて、素早くうつ伏せ・起立を繰り返す。うつ伏せになったら死体になったつもりで動かない。次はどれだけゆっくりとうつ伏せになれるかを競う。1 回目はまったく動かなかったり、すぐにうつ伏せになり騒いだりする子がいたが、素敵な動きをみせた子を呼んで、皆で鑑賞してみる。また長井さんがお手本を見せて何に見えたか質問すると、「アイス」「打たれた人」などの言葉が出る。ゆっくり動く時は自分がどんな状況かをイメージすると動きやすいとアドバイス。2 回目では全員がゆっくり指先や足の先までゆっくりと動かせるようになった。

●種とお花

種からオリジナルの花を咲かせてみる。小さな形（種）を作って 20 秒かけてお花に変化させる。両手両足を大きく広げる子や身体をひねって表現する子など様々な自分の花を咲かせていた。

●彫刻になる

3 秒で好きな形で固まる。はじめは座ったままだったが、子ども達は自発的にどんどん動き始める。個々で固まる子や友達と組んで固まる子、体育館の道具を利用してストーリー性のある形で固まる子など、子どもたちの独創的な動きが見られた。

●お題に合わせてチームで形をつくる

5 ～ 6 人でグループを作りお題に合わせた形を 15 秒で作る。「美術館」「自動車」「福岡県」「1つ」「巨大な鳥」「ふにゃふにゃの国」といった様々なお題に子ども達は果敢に挑戦。最後の「宇宙に出発」はグループごとにステージで発表。他のグループの形を楽しそうに鑑賞していた。

担当者の報告・評価

宗像ユリックス　宮崎穂波

●この事業への応募動機

これまで宗像ユリックスは音楽事業を中心とした企画・制作を行ってきた。普及・啓発事業の一環であるアウトリーチは「いきいき出前コンサート」と称し、市内全幼稚園・保育園・小学校・中学校で実施。そのほか福祉施設などへもピアニストやジャズバンドといったプロの演奏家を派遣している。宗像ユリックスが目指す文化振興に対しての理解が地域や教育機関へ少しずつ浸透するなかで、音楽以外の新たなジャンルを提案し、より強い連携体制の構築を図りたいとの思いから応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

現在、宗像ユリックスは子ども向け事業を強化している。ダンスワークショップはこれまでにない、濃密なコミュニケーションと感動体験を子ども達に届けられると考え、市内の小学校へのアウトリーチを企画。また継続実施を視野に入れているため、実施する地区毎の受け入れ体制や体験時の子ども達の反応の違いをリサーチする事も目的とした。

また、教育機関へのアウトリーチは現場教員の理解と信頼関係が必須である事は、多くの音楽アウトリーチを実施してきた経験から得られていた為、将来の理解者、ファシリテーター的存在になりえる教育系大学でのアウトリーチも企画。次年度以降の基盤・参考となる事業展開を目指した。

●企画実施にあたり苦労した点

まず当初の計画やねらいに沿った事業展開にならなかった点が挙げられる。市内を大きく 3 つの地区（漁業関係者が多い地区・農業関係者が多い・転居者が多い新興住宅地）に分類し、各地区の小学校へのアウトリーチを企画したが、農業関係者が多い地区の小学校から企画への理解を得られず受入れを断られ 2 校での開催となった。教育系大学へのアウトリーチは、ダンスが授業の必須となる中等課程を中心に、体育専攻の学生向けにダンスの魅力やダンスがもたらす非言語コミュニケーションの有効性などを体験してもらう目的で提案したが、スケジュールの問題からダンス部員向けへと変更になった。

次に、公募ワークショップ集客の点が挙げられる。宗像ユリックス初のダンス事業となったが、これまで音楽や古典芸能の講座などを実施した経験があり、20 数名は集まるのではと思っていたが、予想以上に集客に苦労した。

●事業の成果と課題

ねらいの 1 つであった、地区（学校）ごとの子ども達の反応や受入れ体制の違いをリサーチする点は、同年齢であっても地区（学校）によって児童の反応が大きく異なる、また地区によって交渉方法の検討が必要など、今後のダンス事業において重要な結果を得られた。また小学校では 2 コマ 90 分という短い時間のなかで、単に楽しむ事だけではなく、普段の学校生活では垣間見られない子ども達の表現を引き出せた事は予想以上の成果だったといえる。教育系大学でのワークショップは、専攻に関わらず指導者を志す彼女たちが、ダンスがもたらす内面への変化やコミュニケーションの重要性などを実感していた事は成果の一つと言える。

最大の課題は事業内容をいかに解りやすく受け入れ側（学校）、参加者に伝えるかという点。特に教育関係者からは成果や効果を求められるため、ダンスワークショップがもたらす子ども達の変化を上手く伝えられなかった事は経験の浅さと知識不足の結果であると思う。研修やインリーチで体験したワークショップでの自身の気持ちの変化や影響、他の参加者の感想などを丁寧に取り入れた「活きた言葉」の必要性を強く感じた。

●今後の事業展開や展望

「ダン活」は 3 年継続で実施する予定であるが、年に 1 度の実施ではダンス事業として継続・普及していく事は難しいと感じる。「ダン活」事業の間にもアーティストを招聘し市内小学校へのアウトリーチなど、年間を通じてダンス事業を展開し裾野を広げていきたい。平行して地元アーティストのスキルアップといった育成にも力を入れたい。将来的には地元アーティストでのアウトリーチ実施し、予算面をクリアにすると共に地域活性化につなげたい。

コーディネーターレポート

中西麻友

●この地域のダン活の特徴

ホールにとって初めてのダンスのアウトリーチ事業だったが、担当者はもちろん、それ以外のホール職員も、インリーチを始めワークショップの同行や見学など積極的に参加して、ホール全体でダンス事業の実際や意義を共有しようという意気込みが感じられた。そして、担当者自身が感じた音楽や演劇とは異なるダンスの魅力をもとに、「混乱から生まれる交流」というテーマが掲げられた。

小学校でのアウトリーチは、音楽アウトリーチで培ったネットワークがあるにも関わらず、候補の学校のうち1校は断られてしまい、教員にとって未知なるダンスへの抵抗も明らかになった。しかし、実施した学校の先生からは「本当に実施して良かった」という感想が聞かれた。

アーティストは、ワークショップの中では子どもたちが動かないことや分からないことも含め、彼らの反応をそのまま受け止め、みんなが同じではなく、一人ずつ違っていても良い、その人にしかできないダンスのあり方を伝えていた。そのことが、「日頃活動的ではない子や、斜に構えてしまう子、支援が必要なことがある子たちも、生き生きと自分を表現する姿が見られた」という先生たちの感想につながったと思う。

また、担任教員は終始ワークショップに参加し、子どもたちの変化やダンスの面白さを体感してくれていた。ダンスを通して、普段の学校とは異なるアプローチで、子どもたちの普段見られない一面や、可能性を引き出せることを共有できたことは、今後市内の学校現場に、ダンス事業への理解を広める大きな糧になるだろう。

そして、福岡教育大学ダンス部へのアウトリーチも実りある時間となった。学生たちが普段取り組んでいるダンスとは違っていただろうが、振付通りに踊るだけじゃないダンスがあることや、カウントではなく自分や相手の呼吸で動くこと、誰かと一緒に踊る楽しさに気づいた、などの感想が述べられた。一人ひとりに新たなダンスの発見があったことが感じられたので、彼女たちが大学卒業後、教員になって子どもたちの前に立つ時に、今回の気づきを活かしてくれることを期待したい。

公募ワークショップは、インリーチを経てホール担当者自身が感じたダンスの魅力や面白さをもとに対象や内容を検討し、最後には舞台上での発表も予定していた。しかし、参加者の当日の反応を見てアーティストが発表は必要ではないと判断し、ワークの内容を絞って時間をかけて丁寧に取り組むことにした。その結果、初めてダンスのワークショップに参加した方々も次第に緊張がほどけて、身体を使って誰かと関わることや自分を表現することを楽しみ、参加者同士の交流も穏やかに広まっていた。

●課題とこれからに向けて

アウトリーチ先へのアプローチや公募ワークショップの集客に当たっては、地域の方々のダンスへの馴染みのなさや抵抗感が明らかになったとも言える。しかし、実際にワークショップを体験した子どもたちや先生、大学生、一般の方々からは、ダンスの良さを実感したという感想が多く聞かれ、そこに今後ダンス事業を根付かせていく際に必要になる言葉も残されていたように思う。

日常生活の中では頭や言葉で考えることが多くなりがちだが、ダンスとの出会いの中には、まず身体で感じて、混乱をも楽しむことで生まれる、表現の豊かさや、温かな交流がある。今後も、人の可能性や魅力を引き出すダンスの力で、地域社会を豊かにするような事業を展開されることを期待したい。

半田市福祉文化会館　雁宿ホール　実施データ

実施団体	半田市
実施ホール	半田市福祉文化会館　雁宿ホール
実施期間	平成 30 年 12 月 7 日（金）～ 12 月 10 日（月）
アーティスト等	アーティスト：田畑真希　　アシスタント：安岡あこ
コーディネーター	神前沙織

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 12 月 7 日（金）16:00 ～ 18:00、愛知県立半田高等学校、ダンス部、24 名、社会科室
② 12 月 8 日（土）14:00 ～ 15:00、HN ひまわり、通所者、21 名、会館社会適応訓練室・集会室
③ 12 月 9 日（日）12:00 ～ 13:00、半田国際交流協会、日本語教室参加者、19 名、会館教養娯楽室 1

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 12 月 8 日（土）10:00 ～ 11:30、親子（小学生以下）、無料、8 組 24 名、会館第 3 練習室
② 12 月 9 日（日）14:30 ～ 16:30、小学生以上、無料、13 名、会館教養娯楽室 1

スケジュール

	下見	
	8/6（月）	8/7（火）
9:00		移動
10:00		半田高校 ダンス部見学
11:00	打合せ	移動・打合せ
12:00	親子 WS 打合せ	
13:00		インリーチ
14:00	国際交流協会 打合せ	↓
15:00		移動
16:00	ひまわり 打合せ	半田高校 打合せ
17:00		移動
18:00	打合せ	打合せ
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
12/7（金）	12/8（土）	12/9（日）	12/10（月）
	公募 WS ① （親子）		地域資源視察等
	↓	日本語教室 見学・PR	↓
		日本語教室 アウトリーチ	↓
		準備	
打合せ	HN ひまわり アウトリーチ	公募 WS ② （一般）	
移動		↓	
半田高校ダンス部 アウトリーチ	打合せ	↓	
打合せ		全体振り返り	
↓			

アウトリーチ

【アウトリーチ先の選定】

本事業でのアウトリーチ先の選定にあたっては、会館内に事業所を置く他分野の団体にダンスに関心を持つきっかけをつくること、これからの担い手となる若者向けに表現力の幅を広げてもらいたいという 2 つの思いから、会館内にある①障がい者福祉サービス事業所（HN ひまわり）、②半田国際交流協会（外国人のための日本語教室）と③愛知県立半田高等学校ダンス部を選んだ。

【取組内容】

① HN ひまわりでは、土曜日通所者の活動の一環として実施した。②日本語教室については、日本語教室の時間内では実施が難しいとのことで、活動時間後に実施した。③半田高等学校については、ダンス部の部活動として実施した。

【参加者の様子等】

①ひまわりでは、最初は円になってイスに座った形でのワークから始まった。簡単なストレッチの後、田畑さんが徐々に参加者ひとりひとりとふれあいながら、踊っていくと、最初はなんとなく戸惑っていた参加者も、円の中心で田畑さんと笑顔で踊っていた。参加したスタッフからは、「施設の活動では、あまり積極的でない方が、普段見せない表情で楽しそうに踊っていたことに驚いた。」という声をいただいた。②日本語教室については、「プログラム詳細」を参照。③半田高等学校については、高校生たちが田畑さんを囲み、わいわいする雰囲気の中から始まり、集中する場面でもつい笑ってしまうこともあったが、素直に取り組んでいた。普段自分たちがやっているダンスと異なるアプローチに戸惑いながらも「楽しかった。」「自分のダンスに活かしたい。」と話してくれた。

半田高校

HN ひまわり

HN ひまわり

日本語教室

公募型ワークショップ

ワークショップについては、①親子と②一般向けの 2 つを実施した。

①親子については、特に発達に不安のある子どもや障がいのある子どもをもった親子を対象に家族間のコミュニケーションツールとして、ダンスで広がる可能性を知ってもらうことを目的とし開催した。児童発達支援センターつくし学園に通う子どもとその兄弟で活動する親子サークルを中心に参加いただいた。参加した保護者からは、「いつもすぐにどこかへ行ってしまったりするが、今回のワークショップでは子どもが自分のタイミングで入れて楽しんでいたし、それを見て私もとてもうれしかった。」「お兄ちゃんお姉ちゃんが率先して動くことで、弟妹たちも自然と動いていた。」などの感想をいただいた。ワークショップ終了後もアーティストと一緒に熱心に踊り続けている子もいた。

②一般向けについては、広い世代に参加してもらい、現代ダンスへの関心層を広げることを目的に実施した。参加者は小学生～ 70 代までの方々が集まり、ダンス経験もある方、無い方と様々だった。参加者アンケートでは、「バレエとは違い、自分の心をダンスで好きなように表現することがとても楽しかった。改めてダンスの楽しさを感じることができた。」「自分だけでなく他の人の身体、温かさや呼吸などに触れ、感じることができたので心も温かくなったし、解放された。人との距離を縮める効果もありますね。」「正解がない動きだから、どんな動き方をしてもひとつひとつが動くアートに見えた。人って素晴らしいと感じた。人間に生まれてよかった。」などの感想をいただいた。参加者それぞれがワークショップで感じたものを素直に心に落としてくれたことが感じられた。

プログラム詳細

12 月 9 日（日） 半田国際交流協会　日本語教室参加者

● PR

日本語教室でのアウトリーチは、自分の中で一番不安があった。日本語教室時間中の開催ができなかったため、参加者が集まるのかどうかも不透明であった。事前申し込みも受け付けていたが、申し込みがあったのは 7 名。そのため、アウトリーチ当日の日本語教室の休憩時間にアーティストにデモンストレーションをしていただくことにした。田畑さんの勢いのある自己紹介とまわりを巻き込み踊るダンスで教室が楽しい雰囲気となった。教室終了時間には、生徒さんを待ち構え、アウトリーチ会場へと誘導した。PR の成果あってスタッフを含め 26 名に参加していただけた。

●輪になって自己紹介

輪になって順に自己紹介を名前と出身国を紹介していった。田畑さんがその国での「こんにちは」は何ていうの？と促し、自己紹介のあとにみんなでその国のあいさつをする流れとなった。出身国はベトナムの方が一番多く、他は中国、フィリピン、ブラジル、ミャンマーなど。

●足マッサージとストレッチ

になって隣の人の足をマッサージしたり、隣の人の上にあおむけになったり等、ふれあうことで少しずつ空気がほどけていく感じだった。

●ハイタッチ＆体の一部でハイタッチ

歩きながら目があった人とハイタッチ。続けて、足、おしり、頭などの身体の様々な部分でハイタッチをした。

●ペアワーク

ペアワークでは人差し指と人差し指をつけて、動くワークを行った。日本語教室では、レベル別にグループを分けて勉強をしていることもあり、互いに話をしたこともない方も多いとのことであったが、言葉がわからなくても指と指をつけて目と目で会話をすることで、自然と顔を見合わせて笑顔が出ていた。

言葉でのコミュニケーションが難しくても、目と目や身体と身体で互いに相手を聴こうとすること、伝えようとすることでできるコミュニケーションの形を感じ取ることができた。次回の日本語教室で、このワークショップでつながった方々から言葉のコミュニケーションが生まれるとうれしい。

担当者の報告・評価

半田市福祉文化会館　雁宿ホール　蜷川愛

●この事業への応募動機

平成 27 年度に本館で初めてダンスのワークショップを開催して以来、ダンスの表現の自由さや、誰しもがダンスを踊ることができるという可能性を知ってもらうことが重要だと感じ、何かダンス事業はできないかと考えながら、都度できる事業を実施してきた。予算面でも継続することが難しいと感じていたところ、地域創造のダン活の枠組みが変わり、ほぼ持ち出しなしでできるＡプログラムができたことを知り、応募することにした。応募にあたり、行政の他の分野が抱える課題にもアプローチできるのではないかと考え、普段、ダンスを踊る機会が少ないと考えられる方々へのアウトリーチやワークショップをこの事業を利用して行いたいと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

「誰もがダンスを踊り、創ることができる」こと、「表現は自由である」ことを様々な分野に関わる方々に広く伝えたい。それを知っていただくことで、芸術や文化を身近に感じていただくとともにもっと関心を持ってもらうこと、そして芸術や文化が持つ可能性はたくさんあるということを他の分野に従事する方にも知ってもらい、舞台を鑑賞したり、文化・芸術に関わったり興味を持つ方の裾野を広げたいと考え企画した。

アウトリーチについては、普段、ダンスを踊る機会が少ないと考えられる方々へ向けて実施したいという思いがあり、当会館内にある団体と交流するきっかけにもなると考えアウトリーチ先を選定した。また、これからの担い手となる若者向けに自由な発想の現代ダンスに触れることで表現力の幅を広げてもらいたいという思いから、市内の高校の中で唯一ダンス部のある高校をアウトリーチ先に選んだ。公募ワークショップについては、幅広い方にダンスの魅力や可能性を知っていただくこと、発達の不安のある子どもを持つ方々にもこの魅力を伝えたいという思いで企画した。

●企画実施にあたり苦労した点

日本語教室におけるアウトリーチにご理解をいただくことに苦労した。ダンスの魅力について、など私の出来る限りの熱意で説明したものの、受け入れていただくまでに時間がかかった。下見の際の打合せで、アーティストの田畑さんとコーディネーターの神前さんが説得力のある説明でフォローしていただいたおかげで、なんとか受け入れていただけたと思う。また、インリーチを実施した際、スタッフの方から、最後に「本当にダンスが嫌いで今日も本当に出たくなかったけど、やってみたらおもしろかった。」と言っていただき、実際に体感していただくことは話をする以上に効果があると思った。

●事業の成果と課題

あまり交流のなかった会館内の団体とやり取りをする中で交流できるきっかけになったと思う。「毎月やってほしい」や「次やるならこういう感じで」というような今後の話が（できるかどうかは別として）スタッフから出たのはとてもうれしかった。これはスタッフ側がダンスの可能性を肌で感じたからではないかと思う。後は、私たちがどのように事業を継続していくか、また、どのようにさらに広めていくかを考え実施していく必要がある。

●今後の事業展開や展望

アウトリーチ継続の要望もあり、担当としても継続する必要性を感じている。来年度は今年度との関わりを少しでも持たせながらＢプログラムを実施していきたい。アウトリーチ継続・拡大の道筋はまだまだであるが、どのような形であれば可能かを模索していく。

コーディネーターレポート

神前沙織

●この地域のダン活の特徴

愛知県知多半島の付け根の部分に位置する半田市は、人口 12 万弱のまちであり、雁宿ホールはその中心的な文化会館であると同時に、中央公民館と福祉センターの機能も併せ持つ複合施設である。

始まりは事業担当の蜷川さんが、静岡で行われていたダンスの事業コーディネーター育成プログラム（主催：静岡市民文化会館、企画コーディネート：JCDN）に参加され、そこでゲストで来られていた北村成美さんのワークショップを受けてダンスに引き込まれ、コミュニティダンスの可能性に背中を押された事と伺っている。その後、数年かけて内部を説得し準備をして、平成 30 年度のダン活に応募された。

愛知県ではいくつかの市でダン活が実施されており、また中心部の県芸術劇場ではダンス専門のディレクターが常に新鮮なダンス事業を企画しトリエンナーレも人気が高い。半田市はそうした中心部に電車で 30 分で移動できることから、中心部とは違う事業の可能性を以前から模索されていたところ、地域と劇場をつなぐコミュニティダンスに出会われた。実際にその後すぐに、北村成美さんを招いてワークショップを開いたところ、愛知県内様々な場所から参加者が集まったそうだ。

半田市にはミツカン本社があり、鉄鋼や自動車の製造業なども多数あることから、外国人人口も少なくない。

平成 30 年度 A プログラムでは、複合施設の強みを活かし、館内に併設する障がい者福祉サービス事業所「ひまわり」の利用者、半田国際交流協会の日本語教室に通う外国人を対象にした。他に半田高校ダンス部にも赴いた。また、公募ワークショップは、障害をもつ親子のダンスサークルであるホーステイルズさんの協力のもと、障がいをもつ子どもと親が兄弟と一緒に参加できる親子のワークショップと、一般向けの二種類を行った。4 日間にアウトリーチ 3 つ、公募 2 つと盛りだくさんな内容であったが、印象に残っているのは障がいのある子どもから大人、外国人まで、様々な方と雁宿ホールの中で出会いワークショップが行える環境だ。劇場と公民館と福祉センターの機能を併せ持つ雁宿ホールならではの事業展開が垣間見えた A プログラムとなった。

●課題とこれからに向けて

親子ダンスワークショップは、公募枠として実施したが、実際にはホーステイルズの声掛けにより集まった方々で定員になり、もともとホーステイルズに声をかけたときに希望としてあがっていた「子どもたちが外のコミュニティに触れる機会にしたい」という点はかなわなかった。この点は次に活かせればよいと思う。

高校ダンス部と日本語教室のアウトリーチは、最終的に受け入れてもらい、ワークショップを実施する事ができたし、踊っている参加者の様子は楽しそうで、この場を創れたことは良かったが、この次にどういう関りを持ち、事業として展開していけるかが課題であると感じた。特に日本語教室は、窓口になった半田国際交流協会と日本語教室の生徒との間がゆるやかなつながりのため、生徒である外国人の方に情報が届くまでの道のりが遠く感じられた。今後は、直接外国人の方に働きかける方法を模索しても良いと思う。

ホーステイルズとひまわりからは、事業後に担当者に温かい感想が数々届き、ダンスの可能性を実感させる結果となった。この両者は、平成 31 年度の B プログラムにも重要な参加者としてつなげていかれる予定である。

職場のチームワークも素晴らしく、熱意ある担当者のおかげで確実にダンスの芽が育ってきている。この芽がどんどん育ち、ゆくゆくは半田市で他地域のコーディネーター向けの研修プログラムが実施できるくらいに成長してほしい。その可能性を感じる地域のための公共ホールである。

豊岡市民プラザ　実施データ

Aプログラム

実施団体	NPO 法人コミュニティアートセンタープラッツ
実施ホール	豊岡市民プラザ
実施期間	平成 31 年 1 月 16 日（水）～ 1 月 19 日（土）
アーティスト等	アーティスト：鈴木ユキオ　　アシスタント：竹内英明
コーディネーター	坂田雄平

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 1 月 17 日（木）　9:40 ～ 11:30、豊岡市立三方小学校、5 年生、23 名、体育館

② 1 月 17 日（木）13:10 ～ 15:00、豊岡市立但東中学校、2 年生、32 名、体育館

③ 1 月 18 日（金）10:45 ～ 12:20、豊岡市立資母小学校、1 ～ 3 年生、26 名、体育館

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 1 月 18 日（金）19:00 ～ 21:30、高校生以上、無料、20 名、ほっとステージ

スケジュール

	下見	
	11/8（木）	11/9（金）
9:00		ホテルお迎え
10:00		エクスカーション
11:00		昼食
12:00		但東中学校へ
13:00		但東中打合せ
14:00	集合・打合せ	但東中発
15:00	三方小学校へ	資母小打合せ
16:00	三方小打合せ	資母小発
17:00	帰着	但馬空港着
18:00	チェックイン	出発
19:00	インリーチ	
20:00	↓	
21:00	ホールアウト	
22:00	夕食	

実施期間			
1/16（水）	1/17（木）	1/18（金）	1/19（土）
	三方小学校 アウトリーチ		
	↓	資母小学校 アウトリーチ	フィードバック
	↓	↓	↓
	移動	給食交流	豊岡発
集合・打合せ	但東中学校 アウトリーチ	移動	
↓	↓		
↓	移動		
チェックイン	フィードバック		
夕食		準備	
		公募 WS	
		↓	
		↓	

アウトリーチ

【アウトリーチ先の選定と理由】

豊岡市民プラザでは、2006 年度のダン活第1期終了後、幾度かコンテンポラリーダンスWSを学校へと届けてきた。その WS を機に新たにダンスクラブが発足し、自分たちで振り付けたダンスを発表するなど表現活動の活性化が見られたが、近年は小学校でのダンス WS アウトリーチを開催することができていなかった。今般ダン活事業により WS を開催するチャンスを得て、「児童それぞれがもつ個性を尊重し、表現する楽しさを知ってもらえるダンス WS を広めていきたい」という思いから、今回のアウトリーチ先は小学校を選定した。募集をかけたところ、応募小学校校長先生より、「こういった取り組みなら、ぜひ近くの中学校でも開催をしてほしい」との希望があり、その校長先生が以前に勤務しておられた中学校での WS も実現した。

【取り組んだ内容】

小学校 5 年生、小学校 1.2.3 年生合同クラス、中学校 2 年生を対象としたアウトリーチ。今回のアウトリーチ先では、先生方と事前にお話をした際に共通してお聞きしたのは、「そもそも、ダンスに触れる経験が他地域に比べて圧倒的に少ない。プロのダンサーの方に来ていただいて教えてもらえるという機会は本当に貴重」という声だった。その事を大切にし、コンテンポラリーダンスで自分を自由に表現する楽しさを知ってもらえる時間になるよう注力した。

【参加者の反応】

各クラス共に、「ダンスワークショップと聞いて、すごく緊張していたけれど、やってみればすごく楽しく参加できた」と、普段の授業ではあまり注目をされない児童も分け隔てなく楽しめた様子だった。WS 終了後、先生より「児童が、やったことを他学年に先生になって教えてました」という声が寄せられた。

三方小学校

但東中学校

資母小学校

資母小学校

公募型ワークショップ

【概要】

公募型ワークショップは、創造活動に興味のある高校生以上の市民を中心に呼びかけ、現代ダンス体験ワークショップを実施した。豊岡市では近年、「豊岡市文化芸術振興計画」を策定し、城崎国際アートセンターの開館や劇作家・平田オリザ氏が主宰する青年団の移転、そして 2021 年には国公立としては日本発の演劇が学べる県立専門職大学の開学予定など、芸術文化の環境は大きな変化を迎えている。多様な事業が展開され、世界で活躍するアーティストが作品発表やワークショップを通し市民と交流する場も増えてきた。「コンテンポラリーダンス」というワードも少しずつではあるが市民に浸透してきている中で、現代ダンスを地域に根付いた文化へ発展させるため、「現代ダンス体験ワークショップ」という形で開催した。

【参加者の様子】

「テレビでコンテンポラリーダンスの特集を見てやってみたくなった」という方、市民プラザで実施している参加型事業に参加したことのある方が中心に集まった。「演劇はやったことがあるけど、ダンスは初めて」という人が多く、初めは緊張した様子も伺えたが、ゆっくりとしたストレッチや相手の指を顔で追いかけてみる、といった鈴木さんのタスクから知らず知らずのうちに身体を自由に動かす楽しさを実感していたようであった。自閉傾向のみられる高校生の方も親子で今回参加しておられたが、お二人ともワークショップの最後には大きな声を出してダンスを全身で楽しんでおられ、「こんなに楽しいなら次の機会があったら絶対やりたい！」というお声もいただいた。「自分は自分でいいんだ」と思える、ダンスのもつ力を改めて目の当たりにした瞬間に立ち会えた、貴重な時間であった。

プログラム詳細

1 月 17 日（木） 豊岡市立但東中学校　2 年生

●プロのダンサーとの出会い

県南部にくらべ、芸術に触れる機会の少ない当市の子どもたち。ダンス WS ときいて緊張した面持ちだったが、鈴木さんのステージ上でのソロダンスや檀上から降りてのアシスタントダンサーの竹内さんとの共演を見たり、生徒とコンタクトを取りながらの導入に、皆目を輝かせていた。

●ストレッチ

まずはストレッチから開始した。普段のストレッチと違うのは、天から吊られている感じで伸びてみる、指先で文字を書いてみる等、イメージが伴う動きである事。自分なりの表現をすることの楽しさが段階を踏むごとに伝わっていった様子だった。

●ペアになって指追い

身体がほぐれたところで、ペアになる。どちらかリーダーを決め、リーダーの指の動きを一定の距離を保ったまま追ってみる、というワークでは、早さを変えてみたり、指をひねってみたり、寝転んでみたり…と夢中になって挑戦していた。至近距離でやっていたワークを離れてやってみたりと次第に空間を大きく使う形へと変遷していく。前半チーム後半チーム別れて互いの良かった動きを見つけあった。

●新聞紙を使って踊ってみる

まずは、鈴木さんが新聞紙を使っての動きの模倣をレクチャー。リーダーが新聞を持ち、新聞の四つ角を手足に例えて動いてみる、というもの。動きを全員で一度やってみて、グループに分かれる。新聞紙を波立たせる動きでも、小刻みに動かしたり、全体をはためかせてみたりと表現は様々。リーダーの動きの解釈の仕方も生徒それぞれで自由にダンスを楽しんでいた。

最後のグループ毎の発表の時間には、自然に音楽に合わせて踊っていた。他のグループの発表には手拍子を送るなど、全力でダンスを楽しんだ様子だった。

担当者の報告・評価

豊岡市民プラザ　居相歩美

●この事業への応募動機

市の芸術文化政策が大きな過渡期を迎える中、豊岡市民プラザでは市民に舞台芸術を体感してもらう様々な事業を展開しているが、子どもたちが舞台芸術に触れる機会は県南部に比べてまだまだ少ない。演劇や音楽でのアウトリーチは市内小学校全てで実施されているが、ダンスの取り組みはまだ行き届いているとは言い難く、世界的に活躍するアーティストのアウトリーチの機会は、大変希少なものである。子どもたちにダンスの持つ自由な表現を体験し、自己肯定感を伸ばしてほしいと願い、応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

世界的なアーティストが市内に滞在するようになり、地域交流プログラムとして劇場での試演会・ワークショップの機会を通じて、「コンテンポラリーダンス」というワードが少しずつ市民に知られるようになってきた。ダン活2年目となる本年は、次世代を担う子どもたちが新たな世界・価値観に触れることで自己表現力を豊かにし、文化の自己決定能力が高まることをねらいとした。また、ダンスに触れる機会の少ない方々に、「ダンスは誰にでも踊れる」という楽しさを体験してもらう事、新しい価値観に触れることで表現活動を深める事を企画のポイントとした。

●企画実施にあたり苦労した点

今回実施にあたり苦労した点は、受け入れ先が少ない、という点だ。アウトリーチを受け入れるスケジュールの余裕が現場にない、という現状を今回Ａプログラムを実施して切実に感じられた。

学校へアウトリーチの募集をおこなうにあたり、教育委員会をはじめ市教育機関との連携は必要不可欠だが、現在、芸術文化担当課・生涯学習課、そして市内各劇場がそれぞれにアウトリーチを企画、教育委員会を通じて募集をかけており、年間を通してのスケジュールをはじめ、関係各所との連携が取れていなかった。今回ご応募いただいた学校は、アウトリーチに対して前向きな意識を持っておられる先生ばかりであり、「コンテンポラリーダンスは知っている」「知らないけど、きっと子どもたちにとって良い」とアーティストと劇場を信頼していただいての実現となった。

また、工夫した点として、劇場へ来る機会の少ない子どもたちへと直接届けるアウトリーチにあたり大切にした事は、音響効果。プロのダンサーの踊りを観ることもダンスを踊ることも初めて、という子どもも多い中でダンスの力を最大限に体験してもらうには、鈴木さんのパフォーマンスを音響でサポートすることは大切だと判断し、広い体育館で、最適の効果を出せる、スピーカー２台、簡易卓の機材を持込使用した。

●事業の成果と課題

中学校へのダンスアウトリーチを実施できたことは市民プラザにとって初めてであり、大きな成果と言える。ワークショップ時の動きや突発的な事態の際の対応など、コーディネーターからアドバイスいただいた事も大きな学びとなった。

今回、教員・文化事業関係者向けのインリーチも実施したが、教員の方のスケジュールが合わなかった。研修会や会議などの場で、コンテンポラリーダンスを体験していただける機会が必要であると感じた。また、市全体でのアウトリーチ事業のビジョンの共有が大きな課題であると見えてきた。文化政策における新しい組織体制が形づくられる中で、私たち劇場が果たすべきミッションを再度見つめ直す必要がある。

●今後の事業展開や展望

現代ダンスを地域に根差した文化へ発展させるために、ワークショップの継続的な実施が求められる。来年度はＣプログラムを予定しており、今までとは違う、新たなアプローチでより多くの客層、人材発掘に努めたい。

コーディネーターレポート

坂田雄平

●この地域のダン活の特徴

豊岡市民プラザのある豊岡市の文化行政は大きな過渡期にある。多彩な市民参加事業で全国的な注目を集める豊岡市民プラザのほかにも、2014 年には日本最大級のアーティスト・イン・レジデンス施設として城崎アートセンター（KIAC）が開館し、2018 年には豊岡市文化芸術振興計画が策定された。2019 年には平田オリザ氏が主宰する青年団が移転し 2021 年には市民プラザの徒歩圏内に全国初の演劇を本格的に学べる国公立大「国際観光芸術専門職大学（仮称）」の設立が予定されるなど、話題に事欠かない。人口 8 万人規模の町とは思えないほど多くのアーティストが日々行き交う。また市内全ての小学校で、演劇や音楽のアウトリーチが行われているのも特徴だ。

A プログラムでは、小学校 2 箇所と中学校 1 箇所でのアウトリーチが行われた。豊岡市民プラザがダン活に参加するのは今回が 2 度目となる。ダン活立ち上げ当初の 2006 年に参加、その後もコンテンポラリーダンスのワークショップ等を行ってきたが、小学校でのダンスアウトリーチは約 8 年ぶりの実施となった。市内でみると KIAC に滞在するアーティストによるアウトリーチなどもおこなわれているが、演劇や音楽のアウトリーチと比較すると件数は決して多くない。また中学校ではダンスが必修となり、多様なダンス講師が学校を訪れるものの、鈴木ユキオさんのような方が赴く機会は少ないことから、再びコンテンポラリーダンスのアーティストを派遣することとなった。市民プラザにとっても初の試みとなった中学校アウトリーチは、これまでの技術の習得を求めるダンスの授業とは全く異なるプログラムが展開された。どんな生徒も参加ができる時間は、ダンスの授業に新たな可能性を提示できたのではないかと思う。

公募ワークショップでは、市民参加事業の参加者（演劇ファクトリーのメンバーなど）が多く参加した。同時にこれまでの事業では参加しなかった市民も見受けられた。市民参加事業は継続すればするほど参加者は固定化しがちだが、こうした新たな取り組みを通じて、新たな参加者がホールを訪れる機会をつくることも大切だ。参加者のなかに、紅白歌合戦を見て参加したという方がいたが、コンテンポラリーダンスの広がり方も様々だ。今回のダン活では中学校や市民がコンテンポラリーダンスと出会うための「新たな入口」がみえたことが大きな特徴となったのではないだろうか。

●課題とこれからに向けて

豊岡市文化芸術振興計画のもと多様な取り組みが計画され、観光からアートセンターや移住定住まで担う豊岡市大交流課等も注目されているが、市内の各施設や役割分担や事業調整についてはこれからという印象を持った。学校アウトリーチひとつを取り上げても、アーティスト派遣を行う施設や部局は様々だ。そうなると受け入れる学校の手間も少なくない。現場の負担を減らすための、中間調整を行う施策なども必要となってくることだろう。今回、下見に合わせてインリーチが開催された。文化事業に関わる行政職員からホールのテクニカルスタッフまでが参加し内容は充実したが、当初予定されていた教職員等はスケジュールが合わず参加がなかったのは少し残念だった。こうした取り組みも全体的な計画や周知のもと行われることで、より効果的な開催ができるのではないだろうか。これからの豊岡は多彩な文化の担い手がいる街となることだろう。ダンス事業についても、その強みを活かした形で広がってほしいと心から願う。

浦添市てだこホール　実施データ

Aプログラム

実施団体	浦添市てだこホール指定管理共同企業体　ティダ・コミュニケーションズ＆リレーションズ
実施ホール	浦添市てだこホール
実施期間	平成31年2月14日（木）～2月17日（日）
アーティスト等	アーティスト：北尾亘　　アシスタント：岡本優
コーディネーター	神前沙織

■アウトリーチ（実施日時、学校名等、対象、参加人数、会場）

① 2月15日（金）　8:40～10:20、浦添市立宮城小学校、3年1・2組、71名、体育館
② 2月15日（金）10:40～12:20、浦添市立宮城小学校、3年3・4組、72名、体育館
③ 2月16日（土）10:00～11:35、レジリエンススポーツセンター、通所者、44名、てだこホール市民交流室
④ 2月16日（土）14:00～15:35、浦添市かりゆしセンター、利用者、20名、集会室
《ダン活枠外》2月15日（金）17:30～19:30、沖縄県立首里高校ダンス部、28名　てだこホール市民交流室

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 2月17日（日）14:00～16:30、高校生以上（ダンス・舞踊経験者）、1,000円、13名、てだこホール市民交流室
《ダン活枠外》2月17日（日）10:30～12:00、どなたでも、無料、28名＋保護者家族、てだこホール市民交流室

スケジュール

	下見	
	11/27（火）	11/28（水）
9:00		
10:00		市内視察
11:00		
12:00		
13:00		レジリエンス打合せ
14:00	那覇着	
15:00	全体打合せ	かりゆしセンター打合せ
16:00	ホール下見	
17:00	宮城小学校下見＆打合せ	
18:00		
19:00	かりゆしセンター下見	
20:00		那覇発
21:00		
22:00		

実施期間			
2/14（木）	2/15（金）	2/16（土）	2/17（日）
	宮城小学校アウトリーチ①		
	↓	レジリエンススポーツセンターアウトリーチ	だれでもWS ※ダン活枠外
	宮城小学校アウトリーチ②	↓	↓
	↓ 給食	振り返り	アンケート
	振り返り		
	市内視察	かりゆしセンターアウトリーチ	公募WS
那覇着	↓	↓	↓
全体打合せ		振り返り	アンケート
	首里高校WS ※ダン活枠外	市内視察	フィードバック
	↓		
	↓		
			那覇発

アウトリーチ

「コンテンポラリーダンスがどの年代に、どのような影響・効果を与えるのか」 実際にこの目で確かめたい。これが今回のアウトリーチの目的である。というわけでできるだけバラツキのある対象にアプローチし、小学校、児童発達支援事業所、高齢者健康増進施設の 3 か所に決定した。

宮城小学校では「コンテンポラリーとの幸福な出会い」、レジリエンスでは「ココロの開放」、かりゆしセンターでは「若返り」をキーワードにプログラムの構成を依頼したが、それぞれで北尾さんの巧みなアプローチとカラダを動かすことから得る開放感から、笑顔のあふれるアウトリーチとなった。「ダンス」を全面に打ち出すのではなく、日常の動作の連続がいつのまにかダンスになっている、この体験がすべての年代を無理なくダンスの世界に誘い、プチトリップ感を演出することができた。以下は振り返りの中で出てきた言葉や反応。

【宮城小学校】

身体の動かし方が新鮮だった。非日常からくる緊張感と開放感が同時に訪れた。意外と周りを見て動いていて感心した。マイペースな子や特支の子も前に出る勢い。先生曰く、「プール授業のあとのやり切った感」

【レジリエンス】

初対面・ダンス　子供たちにとって緊張の条件がそろっていたが、シンプルな動きをみんなで創り上げていった感じが出ていた。楽しさを実感することが強いモチベーションに繋がって、顔見知りでない子供同士でコミュニケーションが生まれていた。「ココロがひらく」のを実感できた。

【かりゆしセンター】

参加者曰く、「筋肉ちょきん体操や操体法などを経験したが、それらのいいとこどりをしていたようでとてもカラダが軽くなった。いいストレッチだと思っていたら、いつの間にやらダンスをしていたんだね。」

宮城小学校

宮城小学校

かりゆしセンター

かりゆしセンター

公募型ワークショップ

沖縄は意外とダンス人口が多い。いわゆるストリートダンスやフラダンスは当ホールでも発表会が催される。ホールの敷地内でもダンスの練習をしている若者を毎日のように見かけている。そんな若い世代に、コンテンポラリーの世界を垣間見てもらいたい、というのが初めの発想。自分の好きなジャンルだけではなく、軽々とジャンルの壁を飛び超える受講者を想像していた。

しかし、フタを開けてみれば、いわゆる「先生」と呼ばれる方々が多く集まった。これは沖縄ではコンテンポラリーダンスのワークショップ自体が珍しく、渇望していた「先生」方が「やっとホールでやってくれますか」とお集まりになった結果だと思われる。若者へのアプローチは今後の課題にしていきたい・・・。

ワークショップの内容は講師：北尾さんのレパートリー「笑う額縁」の一部をユニゾンで踊るというもの。と書いてしまえば短いが、2 時半のワークショップで 1 時間半をストレッチにあてた。体ほぐしから始まって、ゲーム要素を取り入れたボディコミュニケーションや他の参加者と自然にふれあうワークなどに時間が費やされ、参加者のカラダとココロを一つにする作業が丁寧に行なわれた印象だった。ユニゾンコーナーはその一体感と和気あいあいとした空気感で満たされつつも、参加者のダンサーとしての本質をのぞかせるような真剣勝負が繰り広げられた。「先生」方のカラダとココロを刺激するハイレベルなワークショップとなった。

以下はアンケートより抜粋。

・講師との距離が近く楽しかった。　・難しくて楽しかった。　・形だけでなく表現することが大変だった。
・講師とアシスタントの演技に感動しました。コンテとはこういうことなのですね・・・。
・ぜひダンス公演も見てみたいし、一緒に作品を作るワークショップもお願いします。

プログラム詳細

2 月 16 日（土）レジリエンススポーツセンター　通所者

●自己紹介（講師・アシスタント）

日頃の活動を紹介し、アウトリーチの内容を伝える。

●体に触れるワーク（ペア活動を含む）

ゆっくりと自身のカラダ全身に触れながら意識を向ける。普段自分の体の細部まで意識しにくい発達障害の児童は、改めて自分の手で触ることで細部を動かしやすくなることを応用した準備運動。こすったりタッチしたり、音を出したり、動物の真似をして周囲との距離を測っていった。さらに発展させて同じくらいの体格の児童同士でペアを組み、お互いのカラダに優しくふれあうようなストレッチを行った。この活動により初対面同士であっても打ち解けあっていく様子がうかがえた。

●「ハイタッチ」、「ボディタッチダンス」

音楽の高揚感とリズム感を扱いながら体を動かす楽しさをゲーム性を持って体験する。カウントしながらハイタッチ、目で合図してハイタッチなど、会場内をいっぱい使い、シャッフルしながら数珠つなぎになって一つの大きな輪を作っていった。参加者同士の親密さが増し、共有感が生まれた。「ボディタッチダンス」では自身のカラダで音を奏で、徐々にダンス的振付に進化させ踊る楽しさに触れていった。

●日常動作ダンス

朝起きてからの日常動作をタネとし、ダンスに進化させる過程をもって新たなダンス表現に触れる。それぞれの表現の主体性の大切さを伝えるために、ストーリーはあるものの、動作や表現の仕方、踊る尺は自身で考える仕様になっており、正解のない自分自身のオリジナルダンスがその場で生まれていった。

●洗面台盆踊りダンス

日常動作ダンスの発展形として、顔を洗う、歯を磨く、うがいをするなどの洗面台で繰り広げられる動作を盆踊にアレンジし、全員で輪になって踊った。

担当者の報告・評価

浦添市てだこホール　山口将紀

●この事業への応募動機

当ホールの自主事業はどうしても音楽事業が主体となりがちであり、ジャンルの拡大が課題となっていた。近年、演劇や琉球芸能などのジャンルにも挑戦していたが、ダンスだけはどのように取り上げるのか、だれを呼ぶのか、いきなり公演だけを持ってきてもなかなか結果に結びつけるのは難しいのではないかなど取り組むには課題が多かった。また「ダンス」というだけでハードルが上がったような錯覚に陥っていたのも事実である。そんなダンス制作初心者のスタッフが無理なく足を踏み入れられるのは「ダン活」だけであった。ホールとしてもダンス関係者とのネットワークを構築したいという思いもあり、Ａプログラムの実施に至った。

●事業のねらいと企画のポイント

アウトリーチやワークショップは参加者にとっては非日常であり、刺激的であることは当然である。終わった後の達成感や高揚感だけではない「何か」をダンスのチカラでどのように残すことができるのか、それを目の当たりにしたい、というのが今回のねらい。そのためにアウトリーチは対象を年代、属性ともバラツキを持たせた。また「ダンス」という言葉自体がハードルを高くしてしまう可能性があるため、各アウトリーチ先ごとに前述したキーワードを設定し、そこへ行きつくと知らないうちにダンスを踊っていた。という状態を体感できる仕組み作りに注力した。講師にも各アウトリーチ先のねらいを明確に伝え、プログラムの作成を依頼した。

●企画実施にあたり苦労した点

スタッフの課題として、ダンス公演の制作ノウハウを吸収することに主眼を置いた。そのためアウトリーチ先の選定には時間をかけないようにつとめ、普段からつながりのある対象を選定したが、ダンスで何をする、どうなる、の説明が今一つ伝わらなかったのではないかと心配した。受け入れる側も提供するホールもダンスについて初めての経験であり、フワフワした状態での船出であった。これはコーディネーターと講師の現地下見の際に様々なやり取りの中で解決されていったが、下見の中でのコーディネーターの説明があって初めてアウトリーチ先の理解につながったのではないかと思う。また、小学校でのアウトリーチは平等な教育機会の提供を求められるので、1コマあたりの人数が70名を超えてしまった、この点では講師に負担をかけてしまったと思われる。

●事業の成果と課題

担当者としてすべてのアウトリーチに参加し踊ったことで「カラダがよろこび　ココロがひらく」体験を身をもって実感することができた。ダンスで体を動かすことで心身ともに軽くなり、周囲との関係構築に積極的になる様子が学校や支援事業所では見られた。同一児童にアウトリーチを継続していくことで更なる好影響を与えることができるのではないかと思われる。またアウトリーチ先やダンス関係者とのネットワークという点ではダンスの楽しさを理解するたくさんの賛同者を得ることができた。すそ野を広げる活動と理解者を次のステージへ誘うことが必要となってくる。

●今後の事業展開や展望

ダンス事業の継続と発展。今回のＡプロでコンテンポラリーダンスのある程度の需要を見いだすことができた。県内ではまだまだ公演の少ないコンテンポラリーダンス、言葉で理解してもらうより体験してもらった方が楽しさ、面白さを実感できることは今回のアウトリーチで確認できた。今後はアウトリーチとワークショップを継続開催しつつ、創作および公演活動にも発展させていきたい。舞台に立つ側の養成とともに、コンテンポラリーダンスの啓蒙活動にも力を入れ、「ダンス」のハードルを下げ、客席に座る観客の育成にも取り組んでいきたい。

コーディネーターレポート

神前沙織

●この地域のダン活の特徴

浦添市は沖縄県本島、中心部である那覇から車で 15 分～ 20 分ほど北に位置する。沖縄県ではコンテンポラリーダンスの公演を観られる機会がほとんどない。また、コンテンポラリーダンスの公演を行おうとしたときに、ハードとソフト両面において、受け入れ先として想定される公共ホールが数少なく、てだこホールは那覇からのアクセスの面でも、一番に候補にあがる劇場である。

これまで音楽を中心に事業をされてきたが、ジャンル拡大を検討されていたところに、ダン活の仕組みが担当者のニーズに一致し、応募された。初めての実施ということで、担当者自身がダンスの可能性を確かめたいという意欲から、年齢や対象をできるだけばらつくようにと、小学校、高齢者福祉施設、障がい者のスポーツ支援団体、等を対象にアウトリーチを実施。更に、老若男女が参加できる公募ワークショップのほかに、自主企画としてダンス経験者向けのワークショップも企画実施された。

また、担当者報告書にもあるように、各アウトリーチや公募を行う際に、対象に寄り添うキーワードを作り、できるだけダンスに抵抗を持たれないよう工夫をされた。

蓋を開いてみていちばん驚いたのは、一般向けの公募ワークショップである。手作りの公募チラシは「老若男女」「経験不問」という文字が大きく目に付く、市民講座風のチラシ。個人的な経験から「参加者が集まるのだろうか」と、とても心配していたのが大きなお世話で、30 人の定員がすぐにいっぱいになった。この手ごたえにはホール担当者もびっくりされていた。振り返りで、どのような広報を行ったのか伺ったところ、各小学校への配布、広報誌への掲載、ホール利用団体への配布等、一般的な方法であり、担当者によると「習い事ではない文化的なイベントやワークショップへの需要が増えているのではないか」とのこと。

確かに、沖縄の子どもは小学校で必ずエイサーを習うし、家族が多く盆などの行事で踊る事も普通にある。ストリートダンスの需要はとにかく多いしバレエを習う子供も多い。だから踊りそのものに対する抵抗はない場合が多いが、習うのではなく、かつ家族や年齢を超えて経験に関わらず楽しめる新しい踊りとなると、他にはない。そのニーズに気づき手ごたえを得た事はホールとして大きな収穫であったと思う。

●課題とこれからに向けて

一方で、「新しいものへの興味と同時に冷めやすいところもあり、1 回で満足したらもう次は来ないという事もある。」と沖縄県出身の方がおっしゃっていた。課題としては、需要に答えていく事と同時に、それを持続しつつ、地域ぐるみでホールを育てていく事かもしれない。てだこホールには「すべての人が笑顔になれる時間・空間を創造する」という素晴らしい理念があり、実際に地域の方にとても愛されている。名前（「てだこ」は、他にもそば屋さんなどで愛称として使用されている）もそうだし、保育園の遊戯発表会を小ホールのテクニカル付きで行えるなど、地域住民が親しみを持ちやすい工夫もいろいろとされている。沖縄の方は移住者も含めて、出あったらすぐに兄弟になれるような温かい雰囲気があり、その心地よい空気とともに運営されているホールに、私自身も親しみを感じ、また帰りたいと思う場所であった。これから、てだこホールといえばコンテンポラリーダンスがある、と思われるくらい力をつけていってほしい。

B プログラム

（市民参加作品創作プログラム）

神戸アートビレッジセンター　実施データ

実施団体	公益財団法人神戸市民文化振興財団
実施ホール	神戸アートビレッジセンター
実施期間	平成 30 年 9 月 22 日（土）～ 9 月 24 日（月・祝） 平成 30 年 11 月 20 日（火）～ 11 月 25 日（日）
アーティスト等	アーティスト：長井江里奈 クリエーションのためのアシスタント（共演者）：北園優、鈴木綾香 テクニカルスタッフ等：ニシハラ☆ノリオ（舞台美術）
コーディネーター	小岩秀太郎

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 9 月 22 日（土）15:00 ～ 17:30、高校生以上（経験不問）、無料、15 名、リハーサル室 2

■公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■『第一回 新開地カブキモノ大興行』
■ 11 月 25 日（日）13:00 ～大行列（パレード）、13:30 ～劇場公演
■ 山猫団（長井江里奈、北園優、鈴木綾香、ニシハラ☆ノリオ、北澤岳雄）／三田村管打団？（武田裕里子、亀井奈穂子、澤井まり、平岡新、森本アリ、安川マナミ、清造理英子、塩田遙、窪田弘悠、光田臣、日根野太之）／ワークショップ参加者 13 名
■ 500 円（小学生以下無料）
■ 神戸アートビレッジセンター　KAVC ホール
■ 109 名

スケジュール

	下見	
	7/19（木）	7/20（金）
9:00		
10:00		街歩き、地域関係者など訪問
11:00		↓
12:00		↓
13:00	KAVC 着	↓
14:00	打ち合わせ	↓
15:00	商店街下見	↓
16:00	スタッフ顔合わせ ホール下見	打ち合わせ
17:00	打ち合わせ	↓
18:00		終了・移動
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①		
9/22（土）	9/23（日）	9/24（月・祝）
	撮影準備	アーティスト稽古
	チラシ写真撮影	↓
	↓	↓
KAVC 着		↓
打ち合わせ	準備	↓
公募 WS	クリエーション①	↓
↓	↓	
↓	↓	打ち合わせ
交流会	アーティスト稽古	終了・移動
	↓	
打ち合わせ	↓	

	実施期間②					
	11/20（火）	11/21（水）	11/22（木）	11/23（金・祝）	11/24（土）	11/25（日）
9:00		美術仕込み	照明・美術仕込	音響仕込み		準備
10:00		アーティスト稽古	アーティスト稽古	アーティスト稽古	クリエーション⑥	↓
11:00		↓	↓	↓	↓	↓
12:00		↓	↓	衣装合わせ		移動
13:00	KAVC 着	↓	↓	パレードルート下見 クリエーション⑤	ゲネプロ	公演
14:00	打ち合わせ	↓	↓	↓	↓	↓
15:00	アーティスト稽古	↓	↓	↓	フィードバック	バラシ
16:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓
17:00				↓	↓	↓
18:00	クリエーション②	クリエーション③	クリエーション④	明かり作り		打ち上げ
19:00	↓	↓	↓	アーティスト稽古	テクニカル作業	終了・移動
20:00	↓	↓	スタッフ見せ	↓	↓	
21:00				↓	↓	
22:00						

公募型ワークショップ

『1日体験！山猫団と踊ろう』と題し、高校生以上の方を対象に行った経験不問の公募ワークショップ。ダン活Bプログラムを通して、神戸アートビレッジセンター（KAVC）が達成したい目標であった「KAVCがまちと一緒に踊る／“神戸・新開地の活性化”に寄与する」の導入として、新開地地域を行き来する普段劇場に足を運ばない層をターゲットに参加者（出演者）募集を行った。ターゲット層に通りの悪そうな「ワークショップ」という言葉は使わず「体験講座」等と表現したり、募集チラシもスポーツ新聞を思わせるようなデザインにすることで間口を広げることを狙った。

募集の結果、15名の参加者が集まった。ターゲット層からの参加は1名で、他は神戸市内を中心に、演劇・ダンスなどの表現活動に興味がある人がほとんどを占めた。しかし、この1名が私たちにとってとても大きな意味を持ち、募集の期間、街に出て道端で昼間から飲んでいる人に地道に勧誘を続けた結果が、かろうじて実ったのだといえる。また、他の参加者についても、18才～83才・男女比もほぼ半々という非常に幅広い層からご参加いただけたことも特筆に値すると思う。参加者は1、2名を除き全くのダンス未経験者だったにも関わらず、はじめの「自己紹介」のコーナーで、非常に個性的なパフォーマンスを見せ、アーティストを驚かせていたのが大変印象的だった。

KAVCの1Fには全面ガラス張りのオープンなスペースがあり、商店街に面しているため、イベント等が行われていると館外から中を覗く人も多い。その特性を活かして、公募WSの最後に簡単なショーイングを行った。音楽は公演での共演が決まっていた三田村管打団？の“キネンジロー”。ワークショップのみでなくショーイングもと、アーティストには無理を承知でのお願いだったが、そこまでしてショーイングを行いたかったのは、まずは参加者の方に11月の公演を見据えて、人前で踊る経験をまずしてほしかったこと、そして新開地という街に向けて「KAVCはまちと一緒に踊りたい！」というメッセージを公募WSの時点でも送りたかったため。2時間半しかないWSの中で、全く未経験の参加者をナビゲートし、ショーイングまで実現させてくれたアーティストの力を改めて感じさせられた。

クリエーションの様子

●共演者との初顔合わせと作品の“種”探し

公募ワークショップの翌日に、公演出演希望者に集まっていただき、1回目のクリエーション。この日は、共演するミュージシャンの三田村管打団？と一般参加者の初顔合わせでした。生演奏で、前日のショーイングで披露した“キネンジロー”を踊ったり、参加者の身体や動きを見ながら、シーンの種になるアイデアをどんどん試していきました。クリエーションの時間をともにする中で、参加者それぞれの人となりが直接アーティストの感性を刺激して、作品のイメージやシーンのアイデアに繋がっていく様がとても印象的でした。

● “共に作品を創る”その空気感

作品内のシーン候補や三田村管打団？の楽曲をポストイットに書きだし、作品の構成を練る場面も見られました。思えば初日から、山猫団、三田村管打団？、一般参加者が互いの立場を越えて対等に作品について考え、意見を出し合う空気がすでに芽生えていたように思います。この空気感が、公演終了までの間ずっと通底し、最終的に今回の作品に大きく影響したように感じています。

● 11月 クリエーション再開

11月に入り、本番約1週間前にクリエーション再開。その間、メールや手紙のやり取りがあったとはいえ、アーティストと一般参加者のみなさんが顔を合わせるのは約2ヶ月ぶり。さらに公募ワークショップには不参加だった参加者も数名。改めて自己紹介から始めました。一般参加者のみなさんの自己紹介が素晴らしく、それがそのままシーンの一つになったほど、みなさんからだもこころも“開いた”状態でクリエーションに臨んでくれました。

●感覚を取り戻す

2ヶ月の間があいたこともあり、まずは感覚を取り戻すところから。準備運動が終わったら、今回の公演のポイントになる“キネンジロー”の振り付けをおさらい。徐々にみなさんの動きも良くなり、身体が思い出していくのが見て取れました。

●「彫像台」

9月のクリエーション時から少しずつ稽古していた“彫像台”と呼ばれるシーンの稽古風景。一人ずつBOXの上に立ち、音楽がなっている間はゆっくり体を動かし、音楽が鳴りやんだら止まる、というシンプルなルール。シンプルだからこそ見えてくる、それぞれの持つ身体本来の美しさが際立ちます。山猫団・長井さんが当初から仰っていた「その人がもともと持っている魅力を引き出したい」という言葉を象徴するようなシーン。見ていると本当に美しく、それぞれの佇まいからその人の人生が垣間見えるように思いました。

●「誕生」

山猫団のミュージシャン・北園優さんが歌う、中島みゆきの名曲『誕生』に乗せて、ラストシーンの稽古風景。小道具に扇子を使い、長井さんの指導で振りを身体に染み込ませます。パレードから始まるこの公演のラスト、そして皆さんのここまでの歩みを締めくくるにふさわしい、素晴らしいラストシーンになりました。

●新開地商店街をみんなで歩く

本番2日前、クリエーションの前にパレードのルートとなる新開地商店街を、共演者の三田村管打団？、舞台監督はじめスタッフの皆さんも含め、みんなで歩きました。街ゆく人々の様子や、自分がパフォーマンスを行う場所の様子、パチンコ屋の前は自転車が多いから道幅が狭いね、この大きな交差点は信号が青になったら一気に渡ってしまおう…等々、本番を見据えて入念に下見をする面々。明後日の本番に向けて、一気に実感が湧いてくるような時間になりました。

公演

山猫団×三田村管打団？×新開地舞踊歌劇団『第一回 新開地カブキモノ大興行』

© 新田さやか

© 新田さやか

ダン活アーティスト・長井江里奈さん率いる“山猫団”と、神戸を拠点に活動するバンド“三田村管打団？”に、公募で集まった一般参加者 13 名で結成された“新開地舞踊歌劇団”のみつどもえでおおくりした公演。パフォーマンスをしながらのパレード“大行列”と、劇場内で行う公演から成る。“大行列”は、新開地の北端、湊川公園から商店街を南下し、最南端で折り返して神戸アートビレッジセンターに乗り込んでゆく。観客は湊川公園に集まり、パレードについていく形でパフォーマンスを鑑賞した。劇場内でも固定客席は設置せず、常設舞台を撤去し、フルフラットにした会場の周囲を囲むような形で観客に鑑賞していただいた。アクティングエリアと観覧エリアを明確に分けなかったのは「特別な能力を持っている人が舞台に上がっているのではなく、誰しもが持っている“裸”の魅力が引き出されている」状態が見えるように、という長井さんの想いから。また、ホールに上がっていく階段に設置されたアーチ、劇場内のセンター頭上に設置された巨大な“つぼみ”、天井から吊るされた無数の“ことば”など、山猫団・美術家のニシハラ☆ノリオさん、北澤岳雄さんの美術も欠かせない要素として公演を彩った。三田村管打団？と山猫団・北園優さんが織りなす音楽、山猫団ダンサーの鈴木綾香さんのソロシーンなど終始目が離せない公演で、特にラストシーン「誕生」の間奏で頭上の“つぼみ”が花ひらくシーンは特に圧巻だった。舞台の表・裏を問わず、まさに関係者全員が一丸となって創った作品になったように思う。

●来場者アンケートより（感想）

- 子供のころの新開地を思いだしました。楽しかったです。ありがとう（40 代女性）
- やはり“ナマ”はいい！今日のような感じのイベントが続いてほしい（50 代男性）
- パレードの延長の形だと思っていたので、思わぬ総合芸術であることでまずびっくりしました。KAVC の形を全面に生かした生命エネルギーを感じる 1 時間で、本当に感動しました。（30 代男性）
- 三田村さんのサウンドすごいです。吹奏楽でも JAZZ でもクラシックでもないジャンルのバリアフリーでよかったです。（50 代男性）
- 行列はちょこちょこ止まってたのしい（50 代女性）
- 予想のつかないことばかりで、わくわくしましたー！お客さんと演者の境目がわからないくらい、みんなを、街を、まきこんでのパフォーマンス、感動しました。こういうの待ってた KAVC で！（30 代女性）
- 三者の組み合わせがよかったです。パレードで KAVC のまわりをまわれたのもよかった（30 代女性）
- 普段全然観ないのですが、地元の方ががんばっていると知ったのでみにきてみました。とてもパワフルですごかったです！！人間の力を感じました。お仕事などもある中、こんな作品をつくりあげられたパワーを尊敬します！（40 代女性）
- ねりあるきがわくわくしました！新開地ならではの参加者もとてもよかったです（20 代女性）
- 手をあわせたダンスは、色々な身体・心の動きの表現なのが、自分の中でおきかえて楽しめました。（50 代女性）

担当者の報告・評価

神戸アートビレッジセンター　竹下士敦

●この事業への応募動機

神戸アートビレッジセンターは、神戸の下町／旧市街である新開地地域に「若手芸術家の育成」と「新開地地域の活性化」を目的として設立された。他分野に渡り、コンテンポラリーアートをメインに扱う神戸では数少ない施設として、新しい表現を常に取り入れてきたが、それ故に地域との温度差を埋められずにここまで歩んできたように思う。演劇・ダンス事業担当を任されて以来、「新開地地域の活性化」というミッションにどう取り組んだら良いか、悩むものの実行には至らない日々が続いた。2017 年度より指定管理者が切り替わった事に伴って、DANCE BOX 代表の大谷燠氏が館長に就任し、ダン活に応募すべしと聞かされた時に、この問題を解決するための第一歩を踏み出すもっとも良い機会なのではないかと思えたことが、最大の動機になったように思う。

●事業のねらいと企画のポイント

ダンスに慣れ親しんだ人や神戸アートビレッジセンターによく来られる人ではなく、地域にあたりまえにいるおじちゃん・おばちゃんたちなど、近いけれど遠い人たちと一緒に作品を創ること。また、コンテンポラリーダンスの枠組みにありながら、難しく考えさせずに、身体を動かすことを通じてその良さを感じてもらうことを狙いとした。そして、このような事業を通じて、神戸アートビレッジセンターと新開地がかつてなく混ざり合い、そこでしか起こりえない催し・そこでしか生まれない作品が立ち上がるアートセンターになることがより大きな狙いになる。

まず、そのような人たちに参加してもらうために公募 WS の募集段階から「コンテンポラリーダンス」や「ワークショップ」などの言葉をできるだけ使わず「体験講座」や「行列に加わりたい人募集！」など、構えさせない表現をすることをコーディネーターの小岩さんよりご助言いただいたのが、振り返れば大きなポイントだったように思う。チラシのデザイン等も含め、そのような表現を徹底していくことで、明らかに普段のダンスワークショップ参加者とは違う層が幅広く集まってきたように思う。

パレード＋公演という催しを希望したのは、劇場の外と中をつなげるような催しにしたかったから。地域を歩く普段劇場に来ない層を劇場に連れ込みたいと思ったためだ。結果的に商店街の方はじめ、地域の方とコミュニケーションをとるきっかけにもなったので、大変良かったと思う。

●企画実施にあたり苦労した点

最も苦労したのは、真のターゲット層であった“昼間から道端で飲んでいるような新開地のおじさん”の勧誘だったと思う。結果的に1名参加していただき、本番終えるまでなんとか一緒に歩めたので良かったが、そこまでの道のりは簡単ではなかったように思う。そこに至るまでの毎日のやりとり、今日はやると言っていたのに、次の日にはやらないと言われるあの感じには苦労させられた。ただ、諦めずコミュニケーションを取り続け、結果的に一緒にやれたことが何より大きな収穫になったように思う。また、劇場外で行うパレードがあったため、商店街の会長さんたちへの事前の説明、チラシを持って一軒一軒挨拶回りを行うなど、かつてないほど足を使って事前の準備を行ったのは大変だった。その分得られた収穫も多く、本企画を越えて地域の人が私たちに何を求めているのか、どう感じているのかを伺い知ることのできる貴重な機会になった。劇場の外に一歩出ることの重要さを痛感させられた。

●事業の成果と課題

今回の B プログラムは、あくまでも我々が持つ課題の解決への第一歩だと思っている。そして、それは最高の第一歩だったと思っている。ここから神戸アートビレッジセンターがより地域と協働していくために、真に地域の役に立ち、さらに先鋭的な表現が生まれる場所になるために、コンテンポラリーダンスをはじめとするパフォーミングアーツを活用していきたいと思う。

一般参加者の“新開地舞踊歌劇団”のメンバーは、終わった後もよく神戸アートビレッジセンターに顔を出してくれる。昼食を共にしたり、たまに商店街で一緒に飲むこともある。長井さん率いる山猫団が生んでくれたこのつながりを大切にして、次の一歩につなげていければと思う。

地域住民の代表である新開地商店街の皆さんからも、終わった後大変な好評をいただいた。会長さんからは「また来年もやってくれ」というお言葉をいただき、本当にありがたかった。今後もコミュニケーションを取ることを忘れずに、劇場と地域の間を風通しの良いものにしていきたい。

最後に、今回は1名だったが、“新開地のおじさん”たちがもっと参画できるような機会と、「やってみてもええで」と言ってもらえるような関係づくりを続けていきたいと思っている。

●今後の事業展開や展望

次年度の A プログラムでは、ターゲットを少し変えて地域中学校へのアウトリーチなどに取り組みたい。中学校で行われている創作ダンスの授業などの実情を知った上で、アーティストの力を借りて学校と地域の劇場が協力し相乗効果を生めるような関係づくりの第一歩としたい。さらに、今年度の B プログラムで生まれた関係性も使って、学校・地域・劇場が一体となるような動きにできたらと思う。そしてその動きが外から見えるようにアピールしていくことも大切だと思っている。例えば、アーティスト・新開地舞踊歌劇団・地域住民・中学生がみんなでパレードするようなことが実現できれば、根付いていくのではないかと思う。3ヶ年のダン活を経た時に「前よりずいぶん神戸アートビレッジセンターが近くなった気がする」と言ってもらえるように歩みを進めていければと思う。

コーディネーターレポート

小岩秀太郎

●この地域のダン活の特徴

神戸アートビレッジセンター（KAVC）が立地する「新開地」地域は、神戸港で働く大勢の人々が集う街として“東の浅草、西の新開地”と称され、映画館や劇場など文化施設が林立し賑わっていた。様々な職種や人種が往来する清濁併せ持つ地域には多様な「文化」が生まれ育つもので、新開地もその通りであったが、職にあぶれた路上生活者らをはじめいつしか“危険”“汚い”街というマイナスイメージが張り付いてしまう。そんな街から改めて文化・芸術を発信し創出し活性化させていこうと取り組むのが KAVC である。しかし、そう簡単に市民や路上の人々の意識は変わらない。そこで、KAVC スタッフは「KAVC から外に出て、その取り組みや意義、意思を伝える」ことを目的に、ダン活を活用した。

今回は、ダンスのみならず舞台や美術、音楽、衣装に至るまで様々な人を巻き込みながら制作する集団「山猫団」主宰の長井江里奈氏を招聘し、公募ワークショップと市民参加型公演の B プロを実施したが、KAVC 側の要望により「街の練り歩き」が提案された。普段 KAVC のホール内で繰り広げられて芸術文化活動がどのようなものかを市民に対し提示すること、そして賑々しい街歩き＝パレードを行うことで、買い物客や商店街の人々に向け、新開地の面白さや活力を伝えることになりうると考えたからである。そのためにはまず下見が重要であった。このことで、KAVC スタッフが商店街の重鎮のもとへ足繁く通い、趣旨を説明し、協力を仰いだ。このことから商店街に対して「顔の見える KAVC」を印象付けることができたのではないだろうか。あわせて、商店街の店にもチラシやポスターの設置を依頼する告知戦略も実施し、結果的に「新開地」全体を巻き込むイベントとすることができたように思う。

市民参加者の募集およびチラシやポスターの広報においては、新開地では市民権を得ていないだろう「ダンス」や「ワークショップ」というワードは頻用せず、「踊り」や「体験講座」という言葉で表現し、参加への垣根を低くすることを心がけた。　さらに、9 月に開催した体験ワークショップから 11 月のクリエーションと本番に向けて、長井氏による参加者への手紙を送るなど、参加者のやる気を継続させるための試みも行った。

様々な人種が集い、住む新開地だからこそ、今回は「叶えたい夢」をテーマに市民参加者を募った。将来の夢、叶わなかった夢、持ち続けている夢、そして夢に近づくために必要なそれぞれの天性の才能を、身体を使った表現の中から長井が引き出し、「人間博覧会」と称した作品として発表した。才や能や身体というのは、いかなる人にも生まれながらに与えられているもので、それらを寄せ集めていった時、魅力ある街ができあがる展望のもと、プログラムは展開され、無事公演は無事欠席者もなく成功裏に終わった。

●課題とこれからに向けて

当初の目的であった、地域住民、特に新開地を代表するような路上にたむろする人々を巻き込むことはやはり容易ではなかった。しかしながら、「KAVC」が催しているものを、街中でパレードやチラシ配りなどで宣伝できたこと、パレードでそのまま多くの方が KAVC に入場したことは大きな成果だ。しかしながら、広報は派手な展開をしていたように見える割に、本番前日までの予約者が極端に少なかったことに不安は覚える。また、商店街の重鎮における催行の理解を取り付けることはできたが、実際本事業を実施したことによる効果が、商店街に伝わったかどうかが重要である。商店街側はあくまでも場所貸しという受動的な形ではなく、街を良くするために必要な文化芸術の一つにダンスという形があることを、再度確認していただく必要があろう。

そのためにも、今回参加した市民がどのような属性で、どのような考えを持って新開地に関わったのか、これから新開地で継続的な関わり、アクションをしていきたいかを、商店街側に伝えるべきかと思う。

このことに関しては、終演後（公演中からも）「新開地歌劇舞踊団」の立ち上げと、経常的に KAVC を利用した稽古や KAVC 発信の参加者（舞踊団）への連絡系統の整備などを行なっていくことで、新開地における「舞踊団」のブランディングを推し進めることも検討したい。

今回は KAVC スタッフの皆さんの知恵と工夫と努力と熱意が光り、テクニカルスタッフ、参加者、広報、そして山猫団、三田村管打団？が一丸となったプログラムであった。関西のいいところはやはり人との距離感の詰め方、人との密なやりとりを厭わないことと思う。そこは個人の技量によるところもあるが、重要である。

長井氏は今回が初めての B プログラムであり、進め方や表現のアウトプット方法に苦心されていたようだ。芸術的な美しさと個性的な美しさを一つの作品にまとめるのは難しいだろうし、時間も限られているが、長井氏も熱心に参加者一人一人とコミュニケーションをとって、脱落者を出さなかったことは素晴らしいことだった。

徳島県郷土文化会館　あわぎんホール　実施データ

実施団体	公益財団法人徳島県文化振興財団
実施ホール	徳島県郷土文化会館　あわぎんホール
実施期間	平成 30 年 11 月 24 日（土）～ 11 月 25 日（日） 平成 31 年 2 月 26 日（火）～ 3 月 3 日（月）
アーティスト等	アーティスト：セレノグラフィカ クリエーションのためのアシスタント（共演者）：武井琴 テクニカルスタッフ等：岩村原太
コーディネーター	宮久保真紀

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 11 月 25 日（日）10:00 ～ 12:30、一般（どなたでも）、300 円、25 名、小ホール

■公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■ コンテンポ太夫新作『枯れたる木にも花が咲く』ー壺坂観音霊験記よりー
■ 3 月 3 日（日）14:00 開演（13:30 開場）
■ セレノグラフィカ（隅地茉歩＋阿比留修一）、武井琴、鶴澤友輔（義太夫）ワークショップ参加者 18 名
■ 一般 1,000 円　学生 500 円
■ 徳島県郷土文化会館　あわぎんホール　1 階ホール
■ 120 名

スケジュール

徳島県徳島市／徳島県郷土文化会館　あわぎんホール

	下見	
	8/20（月）	8/21（火）
9:00		
10:00		舞台下見
11:00		↓
12:00		
13:00		
14:00		打合せ
15:00	会館入り	↓
16:00	打合せ	↓
17:00	↓	帰途
18:00	↓	
19:00	交流会	
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間①	
11/24（土）	11/25（日）
	会館入り
	公募 WS
	↓
	↓
	打合せ
会館入り	↓
打合せ・稽古	↓
↓	
↓	
↓	
交流会	

	実施期間②						
	2/26（火）	2/27（水）	2/28（木）	3/1（金）	3/2（土）	3/3（日）	3/4（月）
9:00							
10:00		アーティスト稽古	アーティスト稽古	アーティスト稽古	アーティストリハ	ゲネプロ	振り返り
11:00		↓	↓	↓	↓	↓	↓
12:00		↓	↓	↓			↓
13:00	会館到着				リハーサル	開場	
14:00	打合せ アーティスト稽古	クリエーション①（昼の部）	クリエーション②（昼の部）	クリエーション③（昼の部）	↓	開演	帰途
15:00	アーティスト稽古	↓	↓	↓	↓	↓	
16:00	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
17:00	↓				↓	打ち上げ（全員）	
18:00	オリエンテーション	クリエーション①（夜の部）	クリエーション②（夜の部）	クリエーション③（夜の部）	↓		
19:00	↓	↓	↓	↓	↓	打ち上げ	
20:00	↓	↓	↓	↓	↓		
21:00	↓	↓	↓	↓			
22:00							

公募型ワークショップ

身体を使って自由に表現しながらコミュニケーションできる「コンテンポラリーダンス」と阿波人形浄瑠璃の語りや伴奏として用いられる「義太夫」のコラボで人形浄瑠璃の作品の 1 つである『壺坂観音霊験記』をモチーフに新作ダンス作品を創作上演する県民参加型公演における参加者増や「コンテンポラリーダンス」＋「義太夫」という取り組みを知ってもらうという目的から公募ワークショップを実施した。

大人から子どもまでを対象にした公募ワークショップで 2 歳から 60 歳までの 25 名が参加した。

身体を使ったコミュニケーションワークを行った後、通常、ダンスで使用される音楽で踊ることと義太夫三味線で踊ることの比較を行った。ワークショップ最後には講師によるミニミニパフォーマンスと題して、県民参加作品がどのようなものになるのかが垣間見えるような「ダンス」＋「浄瑠璃」の短いパフォーマンスを披露した。

クリエーションの様子

●オリエンテーション

2 歳から 60 歳までかなり幅広い年齢層が集まった。自己紹介ダンスやペアワークなどを中心に身体をほぐす。セレノさんのワークはこうしたワークの中から参加者に気付かせない内にダンスの動きができている。

● 2 日目

「昼の部」と「夜の部」に分かれてクリエーション

参加者を「昼の部」と「夜の部」に分けて進行。参加者 18 名の内、昼の部は意図せず女性のみで 4 人。夜の部と比べて、パート比重はやや高まる。

夜の部は年齢層も幅広く、全体のパートに加え、いくつかの小グループでのクリエーションも進められた。

● 3 日目

パートごとの練習、衣装選びなど

20 代の若い男女からなる「かっぱつ 6」、大人子どもの混じった「ファミリー」など細かく小パートに分かれてのクリエーションが続く。

衣装は地元の協力者から貸出があった舞台衣装と本人達の私物、新たに購入したものを組み合わせてアレンジ。チラシデザインに合わせた赤・黒を基調に。

● 4 日目

練習場所を大ホールへ移動

本番の舞台に慣れるために、いつもの稽古場から大ホールへ移動。この日の子ども達は興奮のあまり走り回っていて練習にならなかった。

● 6日目

ゲネプロ

昼本番なので、午前中のゲネプロで最後の確認。衣装や髪形のチェックなども地元協力者と宮久保さん岩藤さんが協力してあたってくれた。

2歳の出演者は、ゲネプロは参加せず早めのお昼寝をして昼からの本番に照準を合わせる。出演者は最後まで舞台の袖で動きの確認。

公演

『コンテンポ太夫』

セレノグラフィカさんと武井琴さん、地元の義太夫演奏家・鶴澤友輔さんに県民参加者 18 名による“コンテンポ太夫新作「枯れたる木にも花が咲く」”を上演。盲目の夫・沢市とそれを支える妻・お里との夫婦愛を描いた作品「壺坂観音霊験記」をモチーフにした新作作品を上演した。作品は①プロローグ「沢市とお里の前世」、②本編「枯れたる木にも花が咲く」、③エピローグ「沢市とお里のその後」からなる構成。壺坂のいくつかの節をピックアップし三味線と語りとともに踊る。この作品を創作するにあたってセレノグラフィカさんは、昨年度のコラボ通じて、浄瑠璃を知ってくれていたし、事前に大阪の文楽で壺坂を観劇するなどをして十分に準備をして臨んでくれた。

この作品は壺坂を知っている人には、また違った解釈にも取れただろうし、コンテンポラリーダンスを初めて観る人には、色んな疑問や独特な世界感が持つ不思議な魅力を体感できるものであった。逆にもっと説明が欲しいなどの意見もあり、アンケートの内容は賛否両論であった。

徳島では観客に想像の余地があるダンス作品を目にする機会は少なく最初の足がかりとなった機会であった。次は県民参加ではないアーティストだけの公演を観たいという声もあり、次回の C プロの公演に繋げたい。

●来場者アンケートより（感想）

- 初めて見たから、三味線が打楽器のように感じた。ダンスの動きとピタリと重なるとき、放たれた感じ、お里、沢市が年を重ね幸せに暮らしたであろう姿が見えた。
- 舞台上の皆さんの呼吸の感じが、とても心地良かったです。
- 面白かったです。不思議な独特の世界観が好きです。もう少しお話しが分かり易かったらなと思いました。
- 不思議な世界だった。
- コンテンポラリーダンスを見るのは初めてなので、題材が難しかった。
- 徳島にコンテンポラリーダンスはまだ早い。
- 予備知識が無くても、最後の方でどういうことだったか、やや分からせてくれる、構成力、演技力は凄いなと思いました。
- コンテンポラリーダンスというものを、初めて見ましたので、観賞の仕方に自身がないのですが…これは、一つ一つの動きに意味があるのだろうと、思いますので、できればその意味も、少し説明があると、より理解が深まると思いました。

担当者の報告・評価

徳島県郷土文化会館　あわぎんホール　宇野榮展

●この事業への応募動機

現在の当館では、特定の関心のある方の利用が大半であり、公立文化施設としての役割を十分に活かしきれていない現状があった。そのような現状を打開するべく、コンテンポラリーダンスを含む実演芸術の派遣を、補助金等を活用しながら質・量ともに充実を図っているが、今劇場に求められている役割のひとつである「社会包摂機能」を活かしているとは言いがたい。そこで、当該事業に申し込むことにより、ダンス事業の企画・制作のノウハウを学ぶことは当然のことながら、ワークショップ・アウトリーチ活動におけるノウハウを活かし、様々な障がいの有無に関わらず集まれるような劇場作りを行うべく応募した。

●事業のねらいと企画のポイント

事業のねらいとして、ダンス事業を通して障がいや年齢、性別の有無に関わらず集まれる場所を作ることと、徳島の「あわ文化」を活用することで、この取り組みが一過性のもので終わらないように企画を進めていきたい。

企画のポイントとなるのは、3ヶ年同じアーティストであわ文化を使った企画をすることにより、1年目のAプログラムから2年目のBプログラム、3年目のCプログラムまで、3ヶ年通しての企画となっており、長期的なビジョンで企画することで上記事業のねらいを実現させたい。

●企画実施にあたり苦労した点

①集客

広報不足であったことと、クリエーションを公演直前でまとめて行ったこともあり、参加者からの集客という面も大きく遅れてしまったこともあり、当初の目標を下回る結果となった。徳島の独自色を出した公演といっても集客がなければ定着するのは難しいと思う。

②参加者の確保

昨年度の公募ワークショップに参加してくれた高校のダンス部やアウトリーチに行った児童養護施設などからも参加を募ったが中々参加はしてくれなかった。（日程などの問題もあったが）事業を実施して得た成果や興味関心を持続していく取り組みも重要だと思った。

●事業の成果と課題

クリエーションの日程が過密であったことと、若い層からは受け入れられにくい古典をモチーフとした義太夫とのコラボということなどから難しい内容であったと思うが、参加者の脱落が1名もなかったことは驚きであった。セレノグラフィカさんは作品を県民主軸のものにしてくれたので、全員がモチベーション高くいて、次回以降も意欲を持ってくれた。次回はアーティスト同士のクリエーションに時間をかけられるようなスケジュール管理が必要だと思った。

●今後の事業展開や展望

今回の取り組みである「コンテンポラリーダンス＋義太夫」においては、作品をシリーズ化したり、同種の取り組みを違う形で上演したりするなど、まだまだ可能性を秘めていると思う。現状、徳島ではコンテンポラリーダンスの公演を観る機会が本当に少ないので、公演機会を増やすことができればと思っている。

コーディネーターレポート

宮久保真紀

●この地域のダン活の特徴

アーティスト：セレノグラフィカ（前年度：A プロ ／次年度：C プロ）
協働アーティスト：鶴澤友輔
市民参加者：18 名（2 歳～ 70 代。内、6 名が事前 WS 参加者）

今年度のダン活参加団体で唯一の県民ホールであるあわぎんホール。3 年間継続して、徳島の伝統芸能とコンテンポラリーダンスを融合させるプロジェクト「コンテンポ太夫」は、他のダン活とは群を抜いて計画性が高い取り組みである。徳島出身のアーティストと協働することも目的の一つで、セレノグラフィカ（隅地茉歩氏が徳島県出身）が前年度の A プログラムから携わっている。また、地元で活躍する義太夫の鶴澤友輔氏も前年度から引き続き関わり、今回の市民参加プログラムでは浄瑠璃の名作「壺坂観音霊験記」を用いた。数ある浄瑠璃の話から、隅地氏がこの作品を選択した理由は浄瑠璃では珍しく「ハッピーエンドだから」ということ。盲人の夫と美しく信心深い妻の物語である。

参加者の中心は演劇を学ぶ大学生 6 名、2 歳と 4 歳のこどもとそのお母さんという 1 家族、そこにダンス経験者やヨガインストラクター、演劇経験者など男女比のバランスも良い幅広い層が参加。たった 5 日間過ごしただけとは思えない、血族のような一体感が生まれたことが、公演が成功した理由の一つといえる。

どの地域の B プログラムでも一番の課題となっている「数日とはいえ本番に向けて毎日稽古に参加することが難しい」ことを解消する為、募集時に参加しやすい時間帯を伺い、それを元に稽古スケジュールや出番を決めることを試してみることにした。ちょうどよい具合に昼組・夜組にグループを作ることができ、今までの B プロに比べるとかなりの出席率の稽古だったように思う。（もちろん、どうしても参加できない日がある人や、遅刻・途中抜けがあるという人もあった）そのおかげもあり、市民参加者によるシーンがたっぷりあり、また細かな部分まで行き届いた、どの出演者も見せ場のある作品に仕上がり、参加者からも「こんなにたくさん出演させてもらえると思わなかった」という感嘆の声があがった。一方で、市民参加シーンに時間を割いたことがメインのアーティストのクリエーションに響いてしまい、セレノグラフィカ、アシスタントの武井琴氏、義太夫の鶴澤友輔氏の軸となるシーンづくりにかける時間がかなり減ってしまったことが今回の反省点といえる。音楽、特に和の演奏者は、本番にかける時間の使い方がダンス分野とは大きく異なる為、その点を事前に把握し、コーディネーターの立場からも調整ができれば、と悔やまれる。ただしこのことが来年度のレパートリー作品公演に向けて、新たなにスタートを切れるともいえ、3 年かけてのプロジェクトだからこそ、ひとつずつ課題や反省点をクリアし進めていくことができるだろう。

●課題とこれからに向けて

来年度の C プロは、アーティストのレパートリーを上演することが目的で、3 年間の集大成といえる。何よりの課題は集客だ。劇場席数は 800 席あり、今回の B プロでは中央の通路から前方のみ開放し約 100 名の観客だったが、次回の目標としてできる限りの席を埋める努力が必要である。あわぎんホールであれば、この少し高めの目標も実現できるのではと期待している。

今回のダン活の最大の特徴は、劇場外の方がきめ細やかなサポーターとしてこのプログラムを支えてくれていることにもある。2 代に渡り、徳島県をベースにダンス・舞踊を拡める活動をされている「あすなろスタジオ」の檜千尋氏がいなければ、ここまでの内容に昇華できなかったといっても過言ではない。どの地域でも同様なサポートは簡単なことではないが、一事業に関わるスタッフ・仲間を少しでも増やすことは、事業を周知する近道だ。これは公共ホールに限ることではなく、自身の事業推進の為にも自戒を込めたいと思う。

川根本町文化会館　実施データ

実施団体	川根本町
実施ホール	川根本町文化会館
実施期間	平成 31 年 2 月 1 日（金）～ 2 月 3 日（日） 平成 31 年 3 月 6 日（水）～ 3 月 11 日（月）
アーティスト等	アーティスト：中村蓉 クリエーションのためのアシスタント（共演者）：仁科幸、緒方彩乃 テクニカルスタッフ等：山田裕子
コーディネーター	大澤苑美

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 2 月 3 日（日）14:00 ～ 15:30、小学 3 年生以上、無料、19 名、ホール舞台上

■公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■ 映像ダンス公演『川根本町の人々。』
■ 3 月 10 日（日）15:00 開演（14:30 開場）
■ 中村蓉、仁科幸、緒方彩乃、川根高校カヌー部、川根高校郷土芸能部、カテキン娘（ウーマンボラ・女性部ディーアダンスクラブ）、障がい福祉サービスセンターみどりの丘、みどりの丘えまつ
■ 大人 1000 円、小中高生 500 円
■ 川根本町文化会館ホール
■ 63 名

スケジュール

	下見	
	9/25（火）	9/26（水）
9:00	打合せ	動画撮影 （たこ杉）
10:00	動画撮影 （地名駅）	↓
11:00	動画撮影 （地名水田）	打合せ
12:00	動画撮影 （茶茗館）	昼食
13:00	昼食	打合せ
14:00	視察・ﾋｱﾘﾝｸﾞ （ウーマンボラ）	↓
15:00	動画撮影 （ウーマンボラ）	帰途
16:00	ヒアリング (みどりの丘)	
17:00	動画撮影 (カヌー部)	
18:00	動画撮影 （郷土芸能部）	
19:00	打合せ	
20:00	交流会	
21:00		
22:00		

実施期間①		
2/1（金）	2/2（土）	2/3（日）
	クリエーション （川根高校②）	打合せ
	↓	↓
移動	↓	↓
昼食	昼食	帰途
打合せ・移動	準備	
クリエーション （みどりの丘①）	公募 WS	
移動	↓	
クリエーション （川根高校①）	打合せ	
↓	↓	
移動・夕食	夕食	
クリエーション （カテキン娘①）	クリエーション （カテキン娘②）	
↓	↓	
打合せ	片付け	

	実施期間②					
	3/6（水）	3/7（木）	3/8（金）	3/9（土）	3/10（日）	3/11（月)
9:00		打合せ	打合せ	打合せ	出演者顔合せ	帰途
10:00		アーティスト 稽古	照明音響 仕込み	クリエーション （川根高校③）	リハーサル	
11:00	移動	↓	↓	↓	通し稽古	
12:00	昼食・打合せ	昼食	昼食	昼食	昼食	
13:00	準備	アーティスト 稽古	準備	休憩	ゲネプロ	
14:00	クリエーション （みどりの丘②）	↓	クリエーション （みどりの丘③）	照明音響打合せ	準備、開場	
15:00	片付け・打合せ	↓	衣装合わせ	↓	公演	
16:00	舞台設営 リノニウム敷き	↓	アーティスト 稽古	アーティスト 稽古	客送り 振返り	
17:00	↓	↓	↓	通し稽古 ランスルー	解散会 バラシ	
18:00	アーティスト 稽古	夕食	夕食	夕食	↓	
19:00	↓	クリエーション （カテキン娘③）	クリエーション （カテキン娘④）	クリエーション （カテキン娘⑤）	移動	
20:00	交流会	↓	↓	↓	打上げ	
21:00		打合せ	打合せ	打合せ		
22:00						

公募型ワークショップ

公募型ワークショップ『歌謡曲スイッチ』

本館は過去にも公募型ダンスワークショップを実施しているが、町民の参加が少ない。川根本町は高齢化率が 48%を超える。中村蓉さんのワークショッププログラム「歌謡曲スイッチ」が町民に受けるのではないかと思ったことが、派遣アーティストに希望した理由の一つである。いかに興味を持ってもらえるかを考え、公募ワークショップ参加者募集チラシに「昭和歌謡で踊りましょう！スターの歌声にのせて体を動かせば、心も体も活き活きスイッチオン！」のコピーを打った。結果的に、例年より多くの町民から問合せをいただいたがすべての背中を押すには至らず、直前の体調不良によるキャンセルもあり 19 人の参加にとどまった。過去のWSと同様で町内より町外参加者のほうが多かったが、これまでより町民の参加数は増え、本館ワークショップ初参加者が多く見られた。

ワークショップでは、はじめに参加者が車座になり一人一人思い出の歌謡曲を発表し、人となりを知った。その後、徐々に参加者同士のコンタクトの度合いを増やしながらも終始温和な雰囲気を作り出し進行していった。ユニークだったのは、二人一組となって様々な彫像の真似をして身体表現の楽しさを分かち合ううちに、暗闇になるといつの間にか夜の美術館の彫像が踊る「ナイトミュージアム・ダンス」となったことだ。

クライマックスは 1973 年小坂明子の名曲「あなた」で踊る歌謡曲スイッチ！歌の持つ世界にどっぷり浸かる中村蓉の振付を、参加者一人一人が踊り切り、昇天した。

クリエーションの様子

●みどりの丘・みどりの丘えまつ①
（2 月 1 日 14:00-15:00）

参加者それぞれにダンサーネームを決めてもらい、名前の確認と「本名」「好きな食物」を参加者全員に発言してもらった。輪になって一緒に歩いたり、アクションを回したりして、実施時間の半分をウォームアップに費やした。良い動きをした参加者に次々にスポットをあてながら、2 種類のダンスの振付を伝えた。振りの意味を確認しながら時間をかけて行い、参加者は講師の動きを見て合わせようとしていた。ついていけずに動けない人もいたが、講師は終始明るく全体をフォローしながら進行した。

●川根高校カヌー部・郷土芸能部①
（2 月 1 日 16:30-18:00）

参加者それぞれにダンサーネームを決めてもらい、ウォームアップを入念に行ったあと、輪になって一緒に動き、イメージ動画を観る、ポーズの参考写真をみるなど全員で共有しながらテンポよく進行した。ダンスの振付も早い段階から伝え、高校生も講師を見ながらとはいえ順応して動ける人が多かった。寸劇の仕込みもスムーズに進み、カヌー部、郷土芸能部に分かれてのパート練習も行った。

●カテキン娘①
（2 月 1 日 19:30-21:00）

参加者それぞれにダンサーネームを決めてもらい、ウォームアップを入念に行った。輪になって一緒に動いたりする流れで、そのまま振付の練習に入った。切り替えテンポの速いパートでは「むずかしい」との声も出ていたが、参加者は指示のもと努力していた。講師は良い部分をほめながら、前向きな気持ちで取り組めるように進めていた。

●川根高校郷土芸能部②
（2月2日 9:00-11:00）
ウォームアップののち、昨日とはまた違う振付の練習に入った。男子は比較的順応していたが、女子は振付についていけない様子がやや目立った。実際の公演中の出はけも含め、全体のイメージを伝えようとしていた。ソロパートの練習では、女子も含めて全体的に創作を楽しむ様子がみられた。誘導のもと段取りを確認するので精一杯だった。

●カテキン娘②
（2月2日 19:30-21:00）
ウォームアップ、昨日の振り返り後、新しい振付を開始。参加者から「忘れ物」しがちなものを提案してもらい、それぞれのイメージでポーズを考えてもらった。幾つかのアクションをつなげてダンスを創作していった。テンポのゆったりした動きのためか参加者はすぐに順応できていた。カテキン娘はこの段階で自主練習への意識も高かった。

●みどりの丘・みどりの丘えまつ②
（3月6日　14:00-15:00）
ウォームアップを長めに行ない、前回振付をした「海の声」ダンスを通した。完璧に踊れる人はいなかったが、踊りには前向きの様子だった。この日は「浦島太郎」ダンスのクリエーションを入念に行なった。班長を決め、パート毎に確認、稽古を行なった。パート毎に発表も行い、最後にアクション回しを行い上手に回せたところで終了した。

●カテキン娘③
（3月7日 19:00-21:00）
持参した衣装を見せ合う。ウーマンボラ関係で沢山の衣装があり、公演でも使うこととなった。先月振付けたダンスはほぼ全て踊れるようになっていた。講師はテンポの速い創作ダンスの振付を新たに提案し、参加者からは「無理」と率直な悲鳴があがった。それでも丁寧に振りを一つずつ伝え、参加者も覚えようと必死に取り組んだ。「これは無理」と一様に難色を示しながらこの日は解散した。

●みどりの丘・みどりの丘えまつ③
（3月8日 14:00-15:00）
「海の声」の振付練習をすませて浦島太郎の振付練習に入った。この日も主に浦島太郎のパートに重点を置いていた。パート毎に分かれてからの参加者の集中力は高く、各ダンサーの主導でそれぞれ統率も取れて、多くの方の動きにも勢いが出てきた。最後に用意した衣装を配付し、衣装合わせをし、衣装は公演日まで会館側で管理することとなった。

●カテキン娘④
（3月8日 19:00-21:00）
昨日に引き続き新しい振付の練習が中心となった。テンポの速い振付で何度確認してもついていくことが難しく、やはり「無理」「もうおりる」などの声があがっていた。講師も曲のテンポをやや遅く編集してもらうなど対応した。参加者は休憩も少なめに集中して取組み続け、流れを少しずつ理解していった。先月覚えた振付の振り返りも行なった。

●川根高校カヌー部・郷土芸能部③
（3月9日 9:30-12:00）
前日になって参加者が数名減ったことが判明し、演出面で深刻な変更を余儀なくされたが、講師は迅速に対応し臨んだ。高校生は先月の宿題の振付をほぼマスターしており、公演にむけた細かな演出、立ち位置、出はけなどを確認しながら、振付の練習も行った。他団体の動き、全体の流れ、自分たちの実際の動きなどをリハーサルした。確認を重ねるにつれ全体の動きやダンスの質も向上していった。

●カテキン娘⑤
（3月9日 19:00-21:00）
公演の全体の動きや出はけなどを確認しながら、出演する全パートの練習を入念に行なった。心配のあった新しい振付に関しては速いテンポに遅れをとること以外はほぼ完璧に仕上がってきた。稽古に時間をかけてきたことへの自信もみられた。見せ場が多いことに闘志を燃やす参加者が多かった。大変な稽古の中、終始明るい雰囲気で進んだ。

●全体リハーサル（3 月 10 日 9:30-11:30）

参加団体が多かったこともあり、全体の顔合わせとリハーサルが、公演当日の午前中にしか用意できなかったが、それぞれのクリエーションの時間内に舞台の出はけや待機場所などについて打合せがすんでいたため、大きな混乱もなくスムーズに全体リハーサルへの進めることが出来た。出演者がこの日初めて他団体のダンスや全体の構成を目にしたため、舞台袖から見守りながらそれぞれがそれぞれの取組みを確認した。本館ホールは下手袖のスペースが広くないが、事前に待機場所などを調整し袖待機中のトラブルを回避することができた。照明や音響への返しも少なく、タイトなスケジュールの中で午後のゲネプロに向けて休憩時間を十分確保することができた。

●ゲネプロ（3 月 10 日 12:40-13:40）

全体リハーサルで確認したことをそれぞれ実行することができ、参加者同士でのトラブルや修正などはなかった。参加者も「がんばろう」という言葉やそれぞれの動き・きっかけの確認などを自主的に行なっており、集中力も高いと感じた。

公演

中村蓉　映像ダンス公演『川根本町の人々。』

本公演はアーティスト中村蓉が滞在した川根本町からアイデアを得て作ったオリジナル作品。中村蓉の言葉に「私が川根本町に滞在したのは約 10 日間。驚きの出会いがあまりにも多くて充実していて、東京に帰ったら”実は 1 年経ってた”なんてこともあるんじゃないか…と浦島太郎みたいな空想は尽きません」と当日パンフレットのメッセージにあるように、舞台には浦島太郎の玉手箱が何度も登場し、浦島太郎の童謡（替え歌）を唄いながら踊り、クライマックスは「海の声」の楽曲に合わせて参加者全員が舞う。知らない人は「海がない山だらけの町で『海の声』？」と思うかもしれないが、下見時に障がい福祉施設みどりの丘通所者が「海の声」を手話で表現することに取り組んでいると聞いたことが元となっている。

みどりの丘通所者 19 人の一生懸命な歌と踊り、高校生 18 人の若さ溢れるパワーと青春の甘酸っぱさを感じるダンスとお芝居、そしてスペシャルユニット高齢芸達者集団「カテキン娘。」5 人の妖艶なダンスとユーモラスなお芝居。これらを中村蓉、仁科幸、緒方綾乃のプロダンサー 3 人による華麗なダンスと、本町の雄大な風景映像でつむぐ構成。クライマックスは総勢 46 人の「海の声ダンス」！そして締めは優美な中村蓉ソロダンス。観る人に、川根本町の景色、風、匂い、住む人の温かさを感じさせる（思い出させる）素晴らしい公演となった。

稽古時間不足を補うため参加者は DVD 映像で自主練習に励んだ。アーティストは出演者一人一人の個性を把握し限られた時間で効率的なクリエーションを展開し、見事にパズルのピースを組み合わせた。

出演 3 団体が初めて顔を合わせたのが公演当日とは観客は誰も信じまい。

●来場者アンケートより（感想）

- 地元の人とプロの方が共演する趣向が面白いと思った。
- 後期高齢者の方々がキレのいい踊りをしている姿に、長生きの秘訣ってここにあるんだなということを感じました。ステージ降りてのダンスは予想外でした。
- バックの風景とマッチして楽しく演じる姿が大変良かった。一流の技をもっていなくても堂々と踊っている姿に感心しました。
- 楽しかったです。川根本町の住民でありませんが、家族、親戚のような気持ちで見ていました。特に高校生のダンスには感動して涙が出ました。疲れたからだと心がほっこりして、心身ともにリフレッシュさせて頂きました。
- 竜宮城に来て本当に楽しいダンスと映像が見れました。家に帰って玉手箱を開けても想い出が浮かんできそうです。
- いろいろな要素がひとつになった、素晴らしい公演でした。
- いつまでも元気に、夢をもって！自由に、楽しく！
- とても楽しかったです。また川根本町が好きになりました。高校生の素直さが表れていました。
- 素晴らしかったです。千頭でこんないいものをみれたことに感動しました。とても。
- 川根の人達が輝くことのできる公演、とても素晴らしかった。生徒の新しい笑顔をみれて嬉しかったです。
- とても楽しくて良かったです。高校生が背中と背中を合わせる所、とても何かよかったです。
- 地域資源とダンサーの組み合わせ、素晴らしい。みなさんプロ並で上手でした。

担当者の報告・評価

川根本町文化会館　服部了士・餘目哲

●この事業への応募動機

本館は平成 23 年度からダン活→ダン活支援を実施し、その後もダンス、音楽、演劇のワークショップを実施しているが、”根付いた”とは言い切れず、今一度ダン活の力を借り、継続的で効果のある事業展開をし、ダンスが地域文化となっていくことを目指したいと考えた。

●事業のねらいと企画のポイント

①オリジナル作品の創作と発信。中山間地域にあって上質なオリジナル作品を鑑賞できることは町民にとっては本町に住むことへの誇りにつながる。

②地域資源の魅力について、地元の美しい風景映像とダンスを絡めた公演プログラムを通じて本町本来の魅力の発見や再認識を促し、一過性に留まらない話題の輪を広げる。

③豊かな人材（町民）の育成。作品を鑑賞することやダンス公演に参加し、ワークショップを受ける町民はより強くアーティストの感性に触れ、豊かな人材が育成される。

④興味のある町民が舞台出演することをきっかけとしてそれまで興味のなかった人でもコンテンポラリーダンスの公演を鑑賞する機会を創出し、興味を喚起していく。

●企画実施にあたり苦労した点

市民参加型のダンス公演は初めてではない。「様々な年代の町民、複数の団体を出演させる」、「本町の美しい風景を映像にしダンスと融合させる」。本公演の企画方針を決めた段階で、大変なことは分かっていた・・はずだった。

まず初めに町民出演交渉が難航する。当初計画では高齢者グループ、高校生、障がい者施設、キッズダンスクラブを候補に挙げていたが、ダンスの下地があるキッズダンスクラブに真っ先に断られた。また、出演を快諾してくれたはずのグループがクリエーション初日に一人も現れないという出来事もあった。

次に日程調整が難航する。出演 3 団体は活動時間帯が合わず初顔合わせが公演当日となった。高校生は公演日直前が高校入試と重なったため、カヌー部に至ってはたった 2 回のクリエーションで本番当日を迎えた。

しかし、こうした担当の苦労は、出演者とアーティストへの負担に比べたらたいしたことではなかった。出演者は稽古時間不足を補うため、DVD映像で自主練習に励んでくれた。アーティストは妥協することなく、出演者一人一人の個性を把握。全体練習が本番当日しかできないなか限られた時間で効率的なクリエーションを展開し、見事にパズルのピースを組み合わせた。結果として出来上がった作品は感動的で素晴らしいものとなった。

反省点はいくつもある。出演を断られたキッズダンスクラブも、クリエーション初日に一人も現れなかったグループも、人づてに連絡していた。交渉事は直接しなければならないのを怠った結果だ。

参加人数の把握も逐一しなければならなかった。正直言って出演はこちらからお願いしたのであって出演者自ら望んだものではなく、体調不良や何らかの事情で出演できなくなる人が数名出た。総勢 50 名弱いるなかでこれは致し方ないと考えていたが、アーティストとしては作品を構成するうえで人数の減は大変重要であった。都度の人数確認と報告を怠った結果、中村蓉さんに多大な迷惑をかけてしまった。

そして、コーディネーター、地域創造のスタッフに大変助けられた。担当としてやるべきこと判断しなければならないことを、様々な場面で気づかせてくれた。よく言えば「チーム川根本町」だが、頼ってしまった。申し訳ない。感謝しかない。

●事業の成果と課題

出演団体の障がい福祉施設みどりの丘と川根高校生は、過去に何度かアウトリーチをしたことがある団体であり、これまでの取り組みが生かされた。特に、今回初めて参加した川根高校カヌー部は、昨年度Aプロで郷土芸能部にアウトリーチをした際に、それを見ていたカヌー部顧問から「服部さん、面白そうじゃん。今度はカヌー部でもやってよ」と言われたのがきっかけであり、Aプロ→Bプロの実施順番選択は間違いではなかった。また、老人会や町内イベントで

リクリエーションをして活躍している、元気すぎる高齢芸達者軍団ウーマンボラの皆さんと関われたのも大きな成果だった。いずれの団体も今後の事業展開において必ず鍵となる存在である。

様々な年代・立場の団体とともに公演をつくり上げたことで、これまで積み重ねてきたダンス事業とはまた違ったかたちでダンスへの理解と広がりをもつことができた。プロのダンサーとともに舞台に立ち公演を成功させたことは出演した町民にとっては大きな財産であり、またアンケートの結果からは観客にとっても町民ダンサーたちの躍動は大きな刺激になったと感じる。障がいの有無や年齢に限られることなく、またプロの技術が備わっていなくても、アーティストの導き手があれば輝くことのできる舞台を創り出せることを示すことができたことは今後の事業展開に向けても自信となる。

一方で、これまで様々なダンス事業などで関わってきた町民が多いことや、今回は町民ダンサーが 42 人出演しているのにも関わらず、観客が 63 人であった。出演者の頑張りと素晴らしい公演を前にして担当としてさすがに相当へこんだ。申し訳ない情けない気持ちでいっぱいである。冷静に分析をすると、普段とは異なる午後 3 時からの開演であったこと、同日に町マラソン大会とSLフェスタという大きなイベントがあったことなどあるかもしれないが、特に町内からの集客が思うように伸びなかったことに課題が残る。周知の方法を一から再考しなければならないこと、デザイン重視より町民出演を前面に出す分かりやすいチラシの作成など関心が向くような様々な工夫を施していく必要がある。

●今後の事業展開や展望

ダンスを身近に感じる試みを本事業とは独立した形でできないか、例えばサークル活動など検討の余地がないか探りたい。今回の町民参加者たちも、最初は慣れないダンスに戸惑っていたが講師陣の熱量や親しみの中で稽古を重ね、最終的には「達成感」や「やってて楽しい」「来年も」といった声も聞かれたことから、いかに町民の力で、何らかの形で継続していくかが、今後のダンス事業の発展や成功、関心、集客に繋がっていくものと考える。

コーディネーターレポート

大澤苑美

●この地域のダン活の特徴

市民参加型は、公募した出演者とつくることが多い中、川根本町では、町内の団体にホール側から声をかけて出演依頼をする方法をとった。結果、カヌー部と郷土芸能部の高校生、障がい福祉施設の通所者の皆さん、60 ～ 70 代の女性たちというバラエティに富んだ市民の方が参加、アーティストも含め総勢 47 人が出演した大勢の作品となった。それぞれの団体ごとに別々に稽古をして作ったシーンと、アーティストによるクオリティあるダンスシーンを重ねながら全体を構成していった。

また、下見時には川根本町の情報収集や、出演する団体との顔合わせも兼ね、町内のあちこちでダンス映像を撮影。さらには、ホール職員が撮影した風景動画も加わり、オープニングや舞台背景、場面転換など、作品内の要所で、効率的かつ魅力的に用いられていた。

出演者が踊るシーンでは「We will Rock You」や「Eat you up（ダンシングヒーローの原曲）」などの話題曲が選曲されたことも好評で、川根本町の人・風景を新たな視点で見せることを軸に、ダンスだけでなく、映像や音楽でも観客をつかむ作品となった。

中村蓉さんの「振りのおもしろさ」は特徴的で、見ていると、つい踊ってみたくなる。一般ワークショップでも「歌謡曲を踊る」と題し、音楽で踊る楽しさを味わえる内容だった。作品でもその特徴はよく出ており、さらには、短時間のクリエイションではあったが、その振付を覚える・踊ることを超えて、出演者それぞれの身体のありようが発露するところまでもっていけたことは素晴らしく、それに至るまでのアーティストの創作の姿勢や覚悟を出演者も垣間見たことは貴重な経験だったと思う。出演者それぞれに達成感があり、公演後の振り返り会では、感極まる出演者やスタッフもいたほどだった。

●課題とこれからに向けて

短時間の中で、舞台出演に慣れない市民の方と作品をつくることは、かなりハードである。アーティストも手一杯になる中で、効率的に作品作りを進め、また、出演者のモチベーションを維持するサポートが必要となる。川根本町でも、ホール職員が振付の練習動画を撮影・編集して出演者に渡したり、弱気になる出演者を励ましたりと、日ごろの関係や蓄積スキルを活かしたサポートが活きた場面があった。また出演者にスムーズに指示が出せるよう、スタッフ総出で場当たりやリハーサルを行った。

それでも、今回はホール側から依頼をして出演してもらったこともあり、参加者の希望にあわせた創作進行になり、直前の出演者数の変更や、全員での通し稽古は公演当日のみとなるなど、アーティスト側にとってはよりハードだった。

こうした中では、より高度な制作能力が求められる。具体的には、進行表をホール側できちんと作ることや、情報共有や打ち合わせ時間を良いタイミングで設定することなど、チーム全体での密な情報共有とホールのリーダーシップをどう持つのかを次に活かしてもらえたらと思う。川根本町文化会館は常駐職員が少なく大変だったが、その分、よく見知ったスタッフで、あらたまった打ち合わせや書類を用意しなくても進められるメリットはあるが、市民参加型公演では、それでは立ち行かないことが多々ある。

場を仕切り、稽古の進行や準備をリードして指示を出し、アーティストと併走しながら全体を把握するのは、制作なのか舞台監督なのか。その役割の人は、アーティストと寄り添える日程の滞在となっているのか。座組みや、役割分担も含めて、あらためて、ホールの創作体制を考える機会になったのではないだろうか。

Cプログラム

（公演プログラム）

入間市産業文化センター　実施データ

実施団体	公益財団法人入間市振興公社
実施ホール	入間市産業文化センター
実施期間	平成 30 年 12 月 13 日（木）～ 12 月 16 日（日）
アーティスト等	アーティスト：北尾亘 共演者：米田沙織、目澤芙裕子 テクニカルスタッフ等：-
コーディネーター	中冨勝裕

■公募型ワークショップ（実施日時、対象、参加料、参加人数、会場）

① 12 月 16 日（日）13:00 ～ 14:30、小学生以上、無料、7 名、ホール舞台上

《ダン活枠外》 12 月 16 日（日）16:00 ～ 17:30、中学生以上、無料、13 名、ホール舞台上

■公演（演目、公演日、開演時間、出演者、入場料金、会場、入場者数）

■『2020』『笑う額縁』
■ 12 月 15 日（土）15:00 開演（14:30 開場）
■ 北尾亘、米田沙織、目澤芙裕子、岡本優
■ 大人 1,500 円、高校生以下 1,000 円、ペア 2,000 円
■ 入間市産業文化センター　ホール
■ 92 名

スケジュール

	下見	
	7/17（火）	
9:00		
10:00	集合・会場下見	
11:00	打合せ	
12:00	市民会館下見	
13:00		
14:00	打合せ	
15:00	↓	
16:00	↓	
17:00	↓	
18:00	交流会	
19:00		
20:00		
21:00		
22:00		

実施期間			
12/13（木）	12/14（金）	12/15（土）	12/16（日）
集合			
舞台仕込み	照明チェック	舞台稽古	WS 準備
打合せ	↓	↓	↓
	↓	↓	↓
打合せ	↓		WS ①
↓	↓	開場	↓
照明仕込み	↓	公演	
↓	↓		WS ② ダン活枠外
場当たり	照明修正	終演	↓
↓		WS・打合せ	フィードバック
↓	ゲネプロ		交流会
↓	↓		
	↓		

公募型ワークショップ

感覚の自由を意識し、身体から発する表現の自由から、新たにダンスが生まれる楽しさを経験していただくワークショップを目的に実施しました。参加条件は、ダンスの経験を問わず、1回目は小学生以上、2回目は中学生以上からを参加可とし、年齢差によるダンスの伝わり方、理解度などの体験のバラつきを可能な限り解消するようアーティストらと協議し、年齢構成を区分けし実施しました。

募集については、市広報紙、公演チラシなどを活用し、情報発信したほか、前回のAプログラム・参加団体や、市内中学校、近隣高等学校の創作ダンス部や、演劇部など日ごろ表現活動に取り組んでいる団体へも情報提供しました。

中学生以上の回は募集開始時から半数以上の参加応募があり、比較的容易に参加者が募れましたが、小学生以上の回は結果的に小学生2名の参加であり、最後まで粘り強く情報発信したが反応が乏しかった。Aプログラムで培ったノウハウや構築した人脈を活用仕切れなかった反省があります。

ワークショップでは、北尾さんの丁寧かつ熱心な指導、時折挟むユーモアある説明から、小学生以上の回では、ストレッチや体を動かすことが主軸ではありましたが、楽しみながら取り組んでおり、笑顔が見える場面もありました。中学生以上の回では、結果的に高校生以上の参加者で構成されたため、密度の濃いワークショップとなりました。本公演での振付を取り入れた内容で、短時間でのワークショップの中で振付を形にできたのは、見事でした。

アンケートから「コンテンポラリーダンスをもっと知りたいと思った」、「このようなジャンルの踊りを踊ったことがなかったので新しく楽しかった」などの回答から、参加者にとって新しい出会い、新たな発見を得る機会になったと考えています。

ワークショップ①（小学生以上）

ワークショップ①（小学生以上）

ワークショップ②（中学生以上）

ワークショップ②（中学生以上）

公演

入間市産業文化センター　コンテンポラリーダンス公演　北尾亘『２０２０』・『笑う額縁』

北尾さんのソロ作品『2020』と、ダンサー４名からの集団作品『笑う額縁』の２作品を上演しました。前後半の２部構成とし、前半では『2020』と、出演者らと協議し実施を決めた、作品を紐解き、ダンスへの向き合い方を伝えるトークコーナーを実施。後半はトークでの解説を踏まえた上で鑑賞する『笑う額縁』を上演しました。トークコーナーを取り入れたことで、観客の作品に対する理解度を深めた上で、鑑賞いただけたと感じました。

当初の予想どおり、集客には苦戦しました。入間においてダンスの鑑賞公演は初めてのチャレンジであり、認知度に対する懸念が払しょく仕切れなった。普段からダンスに親しんでいる方々へも積極的にアプローチしましたが、反応が乏しかった。広報について、今後はより具体的な言葉や表現で、公演やダンスのイメージづくりが必要だと考えます。

●来場者アンケートより（感想）

・初めて見る構成になっていて、おもしろかったです。
・技術が素晴らしかった。
・トークでお話しが聞けてよかったです。
・『笑う額縁』は一人ひとりが独特な動きをしていて、とても面白かった。
・額縁の使い方も何パターンもあって面白かった。
・『2020』は想像してつくられたと聞き、すごいと感じた。
・また見たいです。

担当者の報告・評価

入間市産業文化センター　岸篤也

●この事業への応募動機

地域活性化を目的としたアウトリーチ事業、ワークショップ事業の市民への提供は、センターとしてはまだまだ十分とは言えず、現代ダンスで地域の活性化を図る、公共ホール現代ダンス活性化事業Ｃプログラムを活用し、コンテンポラリーダンスなど、市民に多様な文化にふれる“きっかけ”を29年度Ａプログラムに続き、創出したいと考えました。入間において、事業展開の可能な分野であるダンス事業を継続実施することは、事業計画を策定する上で、事業企画の幅を拡大できると考えました。

●事業のねらいと企画のポイント

公共ホール現代ダンス活性化事業の実施により、入間でのダンス文化の活性、子どもたちがダンスにふれる機会の提供、市民がダンスを通じて“つながる場所”の創出、現代ダンスが特別なものではなく、誰でも楽しめる、参加できる環境を充実させることを狙いとしました。

公募型ワークショップの企画ポイントとしましては、前回に引き続き、子どもたちを対象に考えました。コンテンポラリーダンスを自己表現の一つとして感じられる経験を子どもたちに提供することで、入間におけるダンス文化を拡げていきたいと考えました。鑑賞公演の企画ポイントとしましては、広く市民を対象とし、ホールを中心に地域の人々がダンスを通じて、つながる場として展開できればと考えました。

●企画実施にあたり苦労した点

ワークショップ参加者の募集及び鑑賞公演の集客、それらに係る広報については、かなり苦心しました。チラシを当初の予定枚数の1.5倍に増刷し、従来の配布先以外への配布を実施し、さらに毎年10月に入間市を挙げて開催する「いるま万燈まつり」にて、産業文化センターが会場となる「ダンスバラエティー」への参加団体90団体以上へのアプローチも予想外に反応が鈍く、広報計画を修正しなくてはならなくなりました。

●事業の成果と課題

今回のＣプログラム実施を通じて、今後、ダンス事業を展開するにあたり、連携先になり得る団体と結び付きができ、新たなネットワークを構築できました。

小規模な企画でも良いので、ダンス事業を継続して実施し、情報を発信し続けること。そのためにも、今回、結び付きを得られた団体とは関係性を築いていき、人脈を構築していきたい。

●今後の事業展開や展望

ダンス事業を単発の事業で終わらせず、広く市民に魅力を伝え、地域にダンス文化を浸透させるため、継続して実施したいと考えています。展開としては、ダンス・ワークショップ事業を主催事業にて取り組む予定であります。

コーディネーターレポート

中冨勝裕

●この地域のダン活の特徴

平成 29 年度ダン活 A プログラム（アーティスト：赤丸急上昇）を、入間市産業文化センターの初のダンス事業として実施。ダンスを通して、ホールと市民が新たな出会いを生む機会を創出した。昨年度の出会いを礎に、市民が新しい表現に出会うこと目的に平成 30 年度は、北尾亘とともに C プログラムを実施。

北尾亘のソロ作品『2020』、そして北尾亘が主宰するカンパニー Baobab の代表作『笑う額縁』のダブルビルとして公演と、小学生以上を対象に踊ること、自ら表現することを楽しむことを目的にした回と、中学生以上を対象に振付や作品の構成を体験することを目的に公募ワークショップを開催した。今回の C プログラムでは公演来場者やワークショップ参加者が、「ダンス」、アーティストが作り出す「表現」を知る・触れるということを意識した。

観客の作品への理解度を上げるためにポスト・パフォーマンス・トークを実施することはあるが、今回、公演終了後にダンスの見方を知るのではなく、初めてダンスを観る人にとってより身近に「ダンス」を感じてほしいという北尾亘の提案によりダブルビルの作品間でアーティスト・トークを実施した。ソロ作品『2020』の上演後、ダンスアーティストとしての活動、振付、ダンスや作品の見方などを中心にアーティスト・トークを展開。休憩を挟んで上演した『笑う額縁』では、観客がより舞台に近づくような雰囲気となり、観客が作品・表現を観るポイントを見つけ、公演を楽しんだ瞬間だったのではないかと感じた。

通常、C プログラムでは公演を開催する前に、ワークショップを実施することが通例となっているが、作品を観てワークショップに参加することで「ダンス」や「振付」に対して理解度があげることできると考え、C プログラムの日程をフルに活用して、公演翌日にワークショップを実施した。小学生以上を対象にした回では、残念ながら一般の参加は少なく、職員に参加してもらうなどインリーチのような展開となったが、参加した職員のダンスへの理解度が上がった。中学生以上の回では、毎年、神戸で開催されている「全日本高校・大学ダンスフェスティバル」で受賞する実力校の西武文理高校ダンス部を始め、地元バレエ教室に通う生徒が新しい表現に触れたということから参加。西武文理高校ダンス部のメンバーは、ワークショップ終了後、振付や作品の構成、また選曲など積極的に相談するなど有意義な時間となった。こういったアーティストとの出会いは、ホールの観客やサポーターに成りうる存在であるということを今後の事業展開に活かしてほしい。

●課題とこれからに向けて

これまで自主事業ではいわゆる「買い公演」がメインだったということもあり、公演制作で重要な業務であるアーティストとの協働、観客や事業参加者へのケアなど初めてのことばかりだったではないだろうか。今後を自主事業としてダンス事業を取り組んでいくことと思うが、あらためて、昨年度、今年度の経験を踏まえ、「制作業務」を学び、また地域性の再認識と再発見、そして首都圏からのアクセスの良さも活かした事業展開を期待したい。事業を一過性のものとして捉えるのではなく、常に積み重ねであることを意識して欲しい。

事　業　資　料

公募ワークショップチラシ

ながす未来館

A4　両面（4 色）

サントミューゼ　上田市交流文化芸術センター

A4　両面（表 2 色、裏 1 色）

酒田市民会館希望ホール

A4　片面（4 色）

西宮市民会館アミティホール

A4　片面（1 色）

一般財団法人こまき市民文化財団

A4　片面（4 色）

穂の国とよはし芸術劇場

A4　片面（4 色）／60 歳以上向け・子ども向け

くにたち市民芸術小ホール

A4　両面（4 色）

宗像ユリックス

A4　両面（4 色）

半田市福祉文化会館　雁宿ホール

A4　片面（4 色）／親子向け・一般向け

豊岡市民プラザ

A4　片面（4 色）

浦添市てだこホール

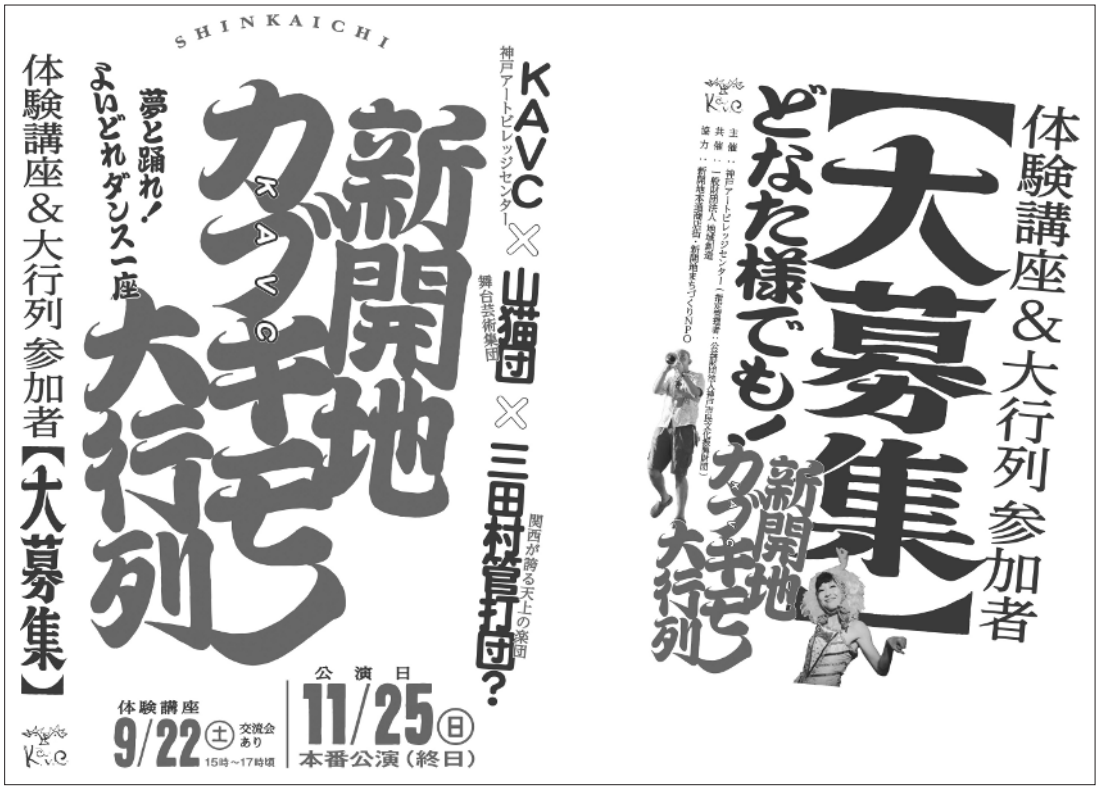
A4　片面（4 色）

川根本町文化会館

A4　片面（4 色）

神戸アートビレッジセンター

A3　二つ折り　両面（2 色）（公募ワークショップ募集・出演者募集）



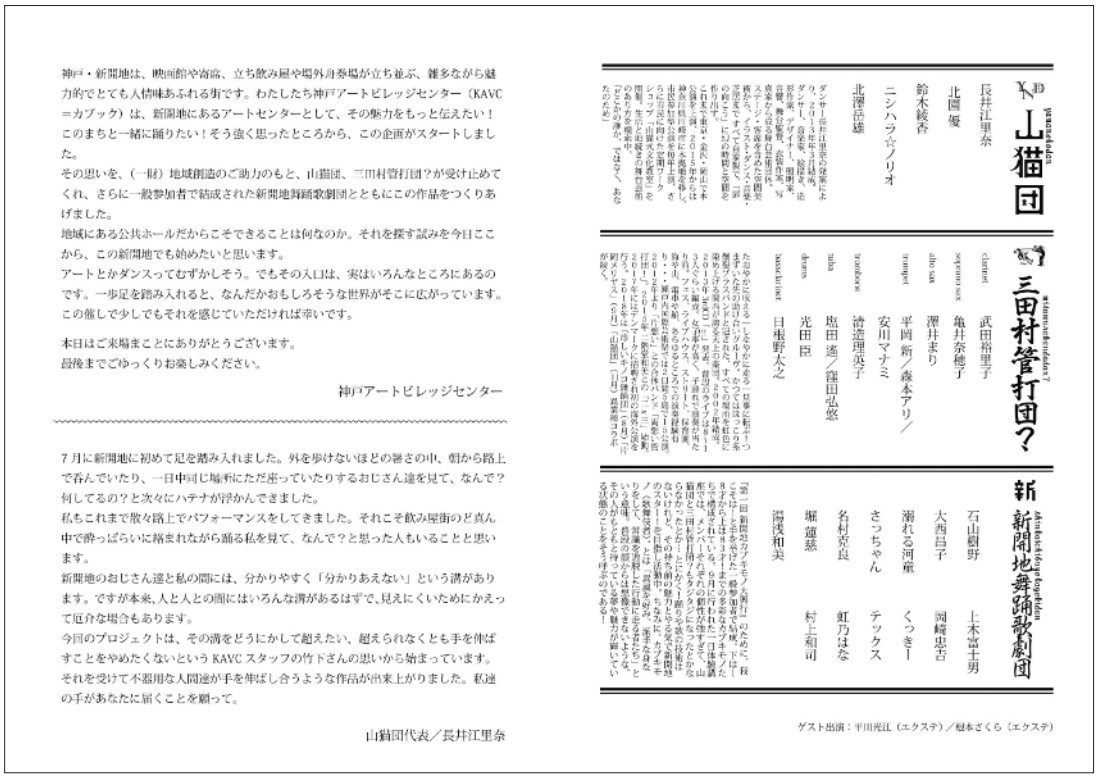
徳島県郷土文化会館　あわぎんホール

A3　二つ折り　両面（4 色）（公募ワークショップ募集・出演者募集）

当日パンフレット（B プログラム）

神戸アートビレッジセンター

A3　二つ折り　両面（1 色）



神戸・新開地は、映画館や寄席、立ち飲み屋や場外舟券場が立ち並ぶ、雑多ながら魅力的でとても人情味あふれる街です。わたしたち神戸アートビレッジセンター（KAVC＝カブック）は、新開地にあるアートセンターとして、その魅力をもっと伝えたい！このまちと一緒に踊りたい！そう強く思ったところから、この企画がスタートしました。

その思いを、（一財）地域創造のご助力のもと、山猫団、三田村管打団？が受け止めてくれ、さらに一般参加者で結成された新開地舞踊歌劇団とともにこの作品をつくりあげました。

地域にある公共ホールだからこそできることは何なのか。それを探す試みを今日ここから、この新開地でも始めたいと思います。

アートとかダンスってむずかしそう。でもその入口は、実はいろんなところにあるのです。一歩足を踏み入れると、なんだかおもしろそうな世界がそこに広がっています。この催しで少しでもそれを感じていただければ幸いです。

本日はご来場まことにありがとうございます。
最後までごゆっくりお楽しみください。

神戸アートビレッジセンター

7月に新開地に初めて足を踏み入れました。外を歩けないほどの暑さの中、朝から路上で呑んでいたり、一日中同じ場所にただ座っていたりするおじさん達を見て、なんで？何してるの？と次々にハテナが浮かんできました。

私もこれまで散々路上でパフォーマンスをしてきました。それこそ飲み屋街のど真ん中で酔っぱらいに絡まれながら踊る私を見て、なんで？と思った人もいることと思います。

新開地のおじさん達と私の間には、分かりやすく「分かりあえない」という溝があります。ですが本来、人と人との間にはいろんな溝があるはずで、見えにくいためにかえって厄介な場合もあります。

今回のプロジェクトは、その溝をどうにかして超えたい、超えられなくとも手を伸ばすことをやめたくないという KAVC スタッフの竹下さんの思いから始まっています。

それを受けて不器用な人間達が手を伸ばし合うような作品が出来上がりました。私達の手があなたに届くことを願って。

山猫団代表／長井江里奈

yamanekodan

山猫団

長井江里奈
北園 優
鈴木綾香
ニシハラ立ノリオ
北澤岳雄

ダンサー出演：長井江里奈の発案により、2013年年3月結成。ダンサー、音楽家、絵描き、語り、ものづくり、ヴィジュアル、音響、舞台監督、企画等、様々な分野の表現者が集まり、ステージ・実践を含めた空間実験から、イマストクダンス・詩集・作品を作り出す。

東京から来る舞台美術ニシハラ立ノリオ、北澤岳雄と、地元神戸の表現者、鈴木綾香、北園優、長井江里奈の4人で、「山猫」と命名。

公演は、東京・金沢・姫山・三本神戸・新開地・ほか。

市民参加型の公演を毎年開催。さらに芸術祭参加を毎年開催。さらに市民参加型の舞台作品を毎年開催。

神戸・新開地・ほか。

三田村管打団？

mitamurakandada?

clarinet　武田裕里子
saxophone　亀井奈穂子
alto sax　澤井まり
trumpet　平岡 新／森本アリ／安川マナミ
trombone　清造理英子
tuba　塩田 遙／窪田弘悠
drums　光田 臣
electric bass　目根野太之

たのやかに、ハジけるー、とるやかに、変る一、仕事に転がっていまスクルバンドに出会った。すべての始まりは紅色と染めあげる場所が神戸の天上の楽河。2007年結成。公演は、2011年、阪神・淡路大震災の年、「音楽の力」を信じて、「音楽の力」を信じて、「音楽の力」を信じて

徳島県郷土文化会館　あわぎんホール

B4 特殊サイズ（232mm × 364mm）　二つ折り　両面（4 色）

川根本町文化会館

A3　二つ折り　両面（4 色）

制作の様子

≪ウーマンボラ・女性部ディーアダンス≫

≪川根本町障がい福祉サービスセンター みどりの丘 / みどりの丘えまつ≫

≪川根高校 カヌー部 / 郷土芸能部≫

浦島太郎歌詞

≪オリジナル≫

昔昔(むかしむかし) 浦島(うらしま)は
助けた亀(かめ)に連れられて
龍宮城(りゅうぐうじょう)へ来て見れば
絵にもかけない美しさ

≪替え歌≫

①昔昔(むかしむかし) あの人は
助けたカヌーに 連れられて
川根本町へ 来て見れば
絵にもかけない面白さ

②昔昔のこと以外
パッパとすぐに 忘れちゃう
玉手箱(たまてばこ)は 怖(こわ)くない
開けても そんなに 変わらない

③いつも すぐに 忘れちゃう
傘(かさ)や 昨日会った人
電子レンジに 箱ティッシュ
でも 自慢(じまん)のダンスは 忘れない

④空と 山と 川と 風
茶畑みどり 陽(ひ)の光
変わらずあるよ 僕(なつ)かしさ
シワが 増えても 忘れない…
気づけば 僕(ぼく)は お爺(じい)さん…
だんだん 僕は お爺さん…
そのうち 僕は お爺さん…

映像ダンス公演

川根本町の人々。

2019.3.10(日)15:00 開演（14:30 開場）

会場：川根本町文化会館

平成30年度公共ホール現代ダンス活性化事業
Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

主催　川根本町教育委員会
共催　一般財団法人地域創造

アーティストメッセージ

「あぁ～おどけたっけ！（あぁ～驚いた！）」と思わず唸るモノに、川根本町でたくさん出会いました。 汽笛を鳴らすSL、姫すぎるトンネル、絶景だけどスリリングな吊り橋 神秘的なタコ杉、出汁のように旨いお茶。 物だけではありません。
キレよく踊る後期高齢者、センター争いが激しいみどりの丘（福祉施設）の人々、太鼓も踊りもガツンと決める郷土芸能部の高校生、大船に乗ったかのように信頼感あるカヌー部…　私が川根本町に滞在したのは約 10 日間。驚きの出会いがあまりにも多くて充実していて、東京に帰ったら“ 実は 1 年経ってた“ なんてこともあるんじゃないか…と浦島太郎みたいな空想は尽きません。玉手箱を開けなくたって日々年をとって沢山のことを忘れていきます。 でも、もしかしたら「おどけたっけ！」な川根本町の景色は、風は、匂いは、帰ってきた浦島太郎みたいに何にも分からなくなっても「懐かしい」と感じるかもしれない。この公演の踊りは全て、川根本町からアイデアを得て出来上がりました。いつかフッと、川根本町のことを思い出せるように、今日も身体に染み込ませて踊ります。観てくださる皆さま、踊ってくれる＆支えてくれる川根本町の人々にとって、今日の公演が、そうなりますように。
本日はお越しくださいまして誠にありがとうございます。　中村碧

中村　碧（なかむら　よう）　出演・演出・振付・構成

早稲田大学在学時コンテンポラリーダンスを始める。
ルーマニア・シビウ国際演劇祭、東アジア文化都市式典（韓国光州・横浜）など国内外で作品を上演。
二期会オペラ『ジューリオ・チェーザレ』
ロックバンドsumika「MAGIC_」などMVの振付も担当。
嵐ひろみ「笑顔にカンパイ！」
アブリル・ラヴィーン「HelloKitty」MVにも出演。
《歌謡曲スイッチ》と題し、八代亜紀「雨の酒場」など名曲の歌詞に登場する人物になり切って踊るダンスワークショップを各地で展開中。
第1回セッションベスト賞（2012）
横浜ダンスコレクションEX審査員賞（2013）
シビウ国際演劇祭賞（2013）
第5回エルスール財団
コンテンポラリーダンス部門新人賞（2016）など受賞。

仁科　幸（にしな　みゆき）　共演ダンサー

1991年 東京都生まれ。幼少よりクラシックバレエをはじめる。
2014年 お茶の水女子大学
芸術・表現行動学科舞踊教育学コース卒業。
2018年 お茶の水女子大学大学院修士前期課程修了。
2013～2014年 珍しいキノコ舞踊団に所属。
カンパニーデラシネラ『梅雨』(2016,2018年)
『不思議の国のアリス』(2017年)
モモンガ・コンプレックス『ウォールフラワーズ』(2018)等に出演。
2014年より中村碧のアシスタントを務め、振付作品に出演する。
元水泳部。身長173cm。

緒方　彩乃（おがた　あやの）　共演ダンサー

1991年 大阪府生まれ。東京育ち。
幼少よりクラシックバレエをはじめる。
2014年 日本大学 理工学部建築学科卒業。
2016年 日本大学 大学院理工学研究科 建築学修了。
2017年 空間やグラフィックのデザイナーとして働きながらダンサー活動を続ける。2018年 東京・北千住にて、古民家を家として劇場としてつかうプロジェクト「家劇場」を始める。日々暮らしながら改修工事・パフォーマンス・イベント・駄菓子屋など自ら行っている。
2018年より中村碧のアシスタントを務め、振付作品に参加する。
身長153cm。

特別出演者

● ウーマンボラ　● 女性部ディーアダンスクラブ　● 川根本町障がい福祉サービスセンター みどりの丘 / みどりの丘 えまつ
● 川根高校 カヌー部 / 郷土芸能部　● 佐藤 康平　● あまる

スタッフ

● 映像：ナカノ ヤスヒロ　服部 了士　● 照明：上林 宏至　● 音響：山田 裕子　● 舞台監督：菅沼 新太　● 制作：八木 洋一郎　泉谷 有美　● 制作補助：大澤 英美　川口 千明
● 仕掛け人：甲賀 雅章

当日パンフレット（Cプログラム）

入間市産業文化センター

A3　二つ折り　両面（1 色）

今後の予定

======Baobab======
TPAM2019 国際舞台芸術ミーティング in 横浜
フリンジプログラム
「Dance Showcase of Young Choreographers」
『笑う額縁』上演
2019 年 2 月 12 日（火）～15 日（金）
YCC ヨコハマ創造都市センター

======北尾 亘======
【振付】
ロームシアター京都 レパートリーの創造
木ノ下歌舞伎『糸井版 摂州合邦辻』
監修・補綴・上演台本：木ノ下裕一
上演台本・演出・音楽：糸井 幸之介（FUKAIPRODUCE 羽衣）
2019 年 2 月 10 日（日）～3 月 17 日（日）
［京都］2 月 10 日（日）～11 日（月・祝）
ロームシアター京都 サウスホール
［豊橋］2 月 15 日（金）～16 日（土）
穂の国とよはし芸術劇場 PLAT 主ホール
［横浜］3 月 14 日（木）～17 日（日）
KAAT 神奈川芸術劇場 大スタジオ

【出演・振付】
『岩井寺ダンス LAB.』
北尾 亘（Baobab）×ASA-CHANG(ASA-CHANG& 巡礼)
2019 年 3 月 16 日（土）・17 日（日）
青梅市シアター

======米田 沙織======
【出演・企画協力】
「ダンス黒龍一代フェスティバル vol.1」
2018 年 12 月 30 日（日）
・浅草木馬亭商店街アイアンシアター

【出演】
田畑 真希ダンス公演
『ランウェイ』
2019 年 1 月 27 日（日）
山梨県民会館中ホール

======岡本 優======
【出演】
笠井叡送別ダンス公演
『海辺戦士訪問記』
原作 澁澤 龍彦
演出・振付・台本：笠井 叡
舞台美術・衣装デザイン：磯谷 了吾
［京都］2019 年 1 月 11 日（金）・12 日（土）
ロームシアター京都 サウスホール
［東京］2019 年 1 月 24 日（木）～27 日（日）
世田谷パブリックシアター

【出演・振付】
福岡フリンジダンスフェスティバル vol.12
TABATHA『マニュアル』
振付・構成・演出：岡本 優
2019 年 2 月 2 日（土）
ぽんプラザ

【出演・振付】
横浜ダンスコレクション 2019
TABATHA『マニュアル』
振付・構成・演出：岡本 優
2019 年 2 月 10 日（日）
横浜赤レンガ倉庫 1 号館 3F ホール

【主　催】 公益財団法人入間市振興公社
【共　催】 一般財団法人地域創造
【協　力】 有限会社中央舞台サービス
舞台：野田 憲人　照明：五十嵐 好竜　音響：篠田 敦

入間市産業文化センター
コンテンポラリーダンス公演

Baobab 主宰 **北尾 亘**〈振付・構成・演出〉

2018年 12月15日（土）

『2020』 15：00～15：20
トーク 15：20～15：50
休　憩
『笑う額縁』 16：00～16：30

入間市産業文化センター ホール

ごあいさつ

入間の皆さん、こんにちは！お元にお目にかかります。

2018 年も終わろうとしている年の頃に、足をお運びいただき嬉しく思います。

きっと初めてご覧になられる "コンテンポラリーダンス" の世界！

巷で流行の「LCA」や「三代目～」を想像されている方には、色々と驚きだらけだと思います。

ですが、ご安心を。映像で見るだけでは得られないちょっとヘンテコなダンスの魅力が満載だと思います。

【ご鑑賞いただくコツは、アタマをカラっぽにして楽しむ！】

観て感じていただいた全てが正解の、イマジネーションに溢れた世界です。

皆さんにとって新鮮な出会いになることを祈りながら、真心込めてカラダを解き放ちます。

Baobab 主宰　北尾 亘

『2020』

出演：北尾 亘

迫る東京五輪に着想を得たソロ作品。架空の身体競技に挑む一選手の心情から、オリンピック招致決定から現在に至る "光と影" を描き出す。
［横浜ダンスコレクション 2018 コンペティション I］ベストダンサー賞 受賞作品。

『笑う額縁』

出演：北尾 亘、米田 沙織（Baobab）、目澤 芙裕子（Baobab）、岡本 優（TABATHA）

"絵画をダンサー" に、"額縁をダンスの枠組み" に置き換え、ジャンルを超境しようと勇むダンサーの姿を描いた集団作品。
Baobab を象徴する代表作として、［SAN FRANCISCO International Arts Festival 2018］招聘ほか、2 カ国 7 都市で上演。

北尾 亘（振付家・ダンサー・俳優・〈Baobab〉主宰）

© bozzo

1987 年 兵庫県生まれ。
幼少より舞台芸術に関わり、クラシックバレエからストリートダンスまで多様なジャンルを経験。2009 年ダンスカンパニー〈Baobab〉を旗揚げ、全作品の振付・構成・演出を担う。これまで単独公演 11 回のほか全国のフェスティバルに参加。ダンサー・俳優として近藤良平、中屋敷法仁作品など多数出演。4 カ国 20 都市以上で舞台に立つ。
振付家として多数の演劇作品、TVCM、映画、ドラマに振付。WS 講師やアウトリーチ活動にも積極的に取り組み、ダンスを広めることも大切にしている。

目澤 芙裕子（Baobab）

© bozzo

13 歳までヨーロッパで育ち、ダンスを軸に成長する。
桜美林大学卒業。俳優や演出家のマネジメント、舞台制作の傍ら、演劇とダンス双方の経験を糧に、〈Baobab〉においてプロデューサーとダンサーの両立を目指す。

米田 沙織（Baobab）

© bozzo

クラシックバレエを習いミュージカルに憧れる幼少時代を過ごし、大学にてコンテンポラリーダンスと出会い衝撃する。卒業後はダンサー・俳優として活動。2009 年より〈Baobab〉に参加。ソロ作品の創作も行なっている。

岡本 優（TABATHA）

© bozzo

ダンサー、振付家。ダンス集団〈TABATHA〉主宰。
圧倒的身体で観客を巻き込むパフォーマンスを得意とし、空間を選ぼず国内外で活動。トヨタコレオグラフィーアワード 2012 ファイナリスト。

平成 30 年度公共ホール現代ダンス活性化事業実施要綱

1　趣旨

一般財団法人地域創造（以下「地域創造」という。）は、公共ホールの活性化とコンテンポ ラリーダンスによる創造的で文化的な芸術活動のための環境づくりに寄与し、あわせて公共ホールスタッフ等の企画・制作能力の向上と創造性豊かな地域づくりに資することを目的として、地方公共団体等との共催により、公共ホールを拠点としてコンテンポラリーダンスの公演事業又は地域交流プログラムを実施する。

2　対象団体

(1) 地方公共団体

(2) 地方自治法第244条の2第3項の規定に基づき指定管理者として指定を受け、公の施設の管理を行う法人その他の団体

(3) 地域における文化・芸術活動の振興に資することを目的として設置された、公益財団法人等（(2) を除く）のうち、地方公共団体が資本金、基本金その他これに準ずるものを出資している法人で地域創造が特に認めるもの。

3　実施団体の決定

地域創造は、上記団体から提出された事業申込書等をもとに審査し、実施団体を決定の上、当該団体に対して速やかに通知する。

決定に当たっては、下記4の各プログラムを継続して実施する団体及び当該事業を実施したことがない団体を優先するが、過去に当該事業を実施した団体であっても、市町村合併の有無、公共ホールの管理者の変更、当該事業についてのスタッフの習熟度等の事情を考慮して、予算の範囲内で決定する。

4　事業内容

実施団体は、以下のいずれかのプログラムを実施する。

なお、実施するプログラムは、今後のダンス事業を実施するためのビジョン（※）に基づいて選択することとし、事業実施の翌年度以降に他のプログラムを継続して実施することができるものとする。

※ビジョンとは、別記様式1－2の「事業実施後の事業展開・ビジョン等」のことをいう。

(1) Aプログラム（地域交流プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程で、学校や福祉施設等でのアウトリーチと公募型のワークショップを4～5回実施する。 ただし、アウトリーチは3回、公募型ワークショップは1回実施する。

なお、原則として、事業の実施に向けて、コーディネーター等による現地における個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、地域創造が決定する。

(2) Bプログラム（市民参加作品創作プログラム）

原則として、連続する4日間×1回及び連続する5日間×1回の事業日程で市民参加作品を創作し上演（1回）する。公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

(3) Cプログラム（公演プログラム）

原則として、連続する4日間の事業日程でコンテンポラリーダンスの公演（レパートリー作品）を1回上演する。

公演は有料とし、入場料収入は実施団体に帰属するものとする。

また、公募型ワークショップを1回実施する。

なお、事業の実施に向けて、登録アーティスト、コーディネーター等による個別研修（現地下見）を1泊2日以内で1回実施する。

派遣するアーティストは、別紙1の登録アーティストの中から、実施団体の希望を勘案の上、地域創造が決定する。

5 経費負担

事業実施に伴う下記の経費については、地域創造が負担する。下記以外の経費及び実施団体が前項に定める内容を超えて事業を行った場合に発生した経費については、実施団体の負担とする。

(1) 登録アーティスト等派遣経費

① Aプログラム

登録アーティスト及びアシスタント（ソロの場合は1名まで）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

② Bプログラム

登録アーティスト及びクリエーションのためのアシスタント（共演者）（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

③ Cプログラム

登録アーティスト及び共演者（ソロの場合2名まで、デュオの場合1名まで）の出演料等、テクニカルスタッフ等（※）の謝金、交通費（現地移動費を除く。）、宿泊費、日当、派遣対象者に係る損害保険料

※テクニカルスタッフ等は、公演準備のサポート役として必要と判断されるテクニカルスタッフ、演出助手、制作者及びその他地域創造が認めた者で、個別研修（現地下見）及び実施時に派遣する。

(2) 公演負担金

Bプログラム及びCプログラムについては、実施団体が支出した事業実施に係る経費のうち、別紙2対象経費の2／3以内で、50 万円を上限に実施団体に対して負担する。

6 事業実施に対する支援

(1) 全体研修会の開催

地域創造は、事業実施前に実施団体を対象として、事業の実施に必要な実践的ノウハウ等についての研修会を開催する。

なお、参加に係る旅費等は実施団体の負担とする。

(2) コーディネーターの派遣

地域創造は、実施団体に実践的なノウハウを習得する機会を提供するとともに、事業の円滑な運営を図るために、企画制作の経験が豊富なコーディネーターを派遣する。

コーディネーターの派遣は、原則として、個別研修（現地下見）及び実施時に行う。

7 提出書類等

(1) 事業申込書 …別記様式1－1、1－2、1－3（1－3はBプログラム及びCプログラムのみ）

平成 30 年度に本事業の実施を希望する対象団体は、「事業申込みにあたっての留意事項」を参照のうえ、必要書類を添えて、平成 29 年6月2日（金）までに当該書類を提出すること（地域創造必着）。

なお、2(2) 及び (3) に該当する団体が申請をする場合には、施設設置者または出資者である地方公共団体の長の副申を受けること（別記様式1－４）。

(2) 事業実施計画案 …別記様式2－１、2－２
全体研修会の終了後、地域創造の指定する日までに当該書類を提出すること。

(3) 事業実施計画書 …別記様式3－１、3－２、3－３（3－３はBプログラム及びCプログラムのみ）
事業実施2か月前までに企画内容を決定し、当該書類を提出すること。

(4) 事業実績報告書 …別記様式4－１、4－２、4－３（4－３はBプログラム及びCプログラムのみ）
事業終了後 30 日以内に、事業実施にあたり制作したチラシ、パンフレット等を添えて当該書類を提出すること。
ただし、平成 31 年3月 16 日（土）以降に事業が終了する場合にあっては、平成31 年4月 16 日（火）までに提出すること。

(5) 公演負担金請求書 …別記様式4－４（Bプログラム及びCプログラムのみ）
該当する経費がある場合は、事業終了後 30 日以内に、別途指定する関係書類を添えて当該書類を提出すること。
ただし、平成 31 年3月 16 日（土）以降に事業が終了する場合にあっては、平成31 年4月 16 日（火）までに提出すること。

(6) 変更承認申請書 …別記様式5－１、5－２
実施団体の決定通知を受けた後に申請内容に重大な変更が生じた場合は、ただちに当該書類を提出すること。
なお、変更内容によっては事業の要件を満たさなくなり、共催できない場合がある。

8 その他

(1) 共催に関する表示
実施団体は、事業実施に際して作成される印刷物に、地域創造が共催している旨を表示すること。
【表示例】共催：一般財団法人地域創造、共催：(一財) 地域創造

(2) 損害賠償の免責
事業実施に伴い発生した損害賠償等の責任について、地域創造は責めを負わないものとする。

(3) 関係書類の提出
地域創造は、この要綱に定めのある書類のほか、実施団体の決定等の審査に当たって必要な書類の提出を求めることができる。

(4) 情報提供
地域創造が、全国の地方公共団体に対して行う事業に関する情報提供等のため、資料提供を求めた場合や現地調査を行う場合は、実施団体は協力するものとする。

(5) その他
事務手続き及びスケジュール等その他細目について必要がある場合は別途定める。
また、その他事業の実施に関し、疑義が生じたときには、地域創造と実施団体が協議して決定する。

別紙１

登録アーティスト

平成 30 年度　登録アーティスト（計8組）

北尾亘、鈴木ユキオ、田畑真希、田村一行、長井江里奈、中村蓉、東野祥子、
セレノグラフィカ（隅地茉歩＋阿比留修一）

参考

事業の流れ・手続き等

●平成 29 年度（事業実施前年度）

時期（予定）	内　容	提出書類
4 月～ 6 月上旬	申込み受付 申込書締切：6月2日（金）	事業申込書
7 月上旬	事業内定通知	
7 月 31 日 ～ 8 月 2 日	全体研修会（ｱｰﾃｨｽﾄﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ）の開催 開催場所：東京芸術劇場	
8 月中旬	事業実施計画案の提出	事業実施計画案
9 月下旬	派遣アーティスト、担当コーディネーターの決定・通知	

●平成 30 年度（事業実施年度）

時期（予定）	内　容	提出書類
4 月上旬	事業決定通知	
4 月～	個別研修（現地下見）の実施	
事業実施 2 か月前	・事業内容の確定、事業実施計画書の提出 ・主催団体、派遣アーティスト、地域創造の三者で契約の締結	事業実施計画書
事業終了後 30 日以内	・実績報告 ・負担金の請求	事業実績報告書 公演負担金請求書 （Bプログラム及びCプログラムのみ）

別紙２

公演負担金対象経費（対象経費の 2/3 以内で上限 50 万円）
※Ｂプログラム及びＣプログラムのみ対象

１　対象経費

文芸費	現地舞台監督料、現地における照明・音響プラン料、調律料、著作権使用料など
設営・舞台費	現地舞台仕込等人件費、現地照明・音響等オペレーター人件費、照明・音響等機材費、舞台設営費、リノリウム借上料、市民参加作品に関わる経費（衣裳費、舞台美術費、メイク費、小道具費、運搬費など）など
会場費	会場借上料
謝金・旅費・通信費	地元出演者等謝金、会場整理等賃金、地元出演者等交通費・宿泊費・日当費、通信費など
宣伝・印刷費	広告宣伝費、チラシ・ポスター・プログラム・チケット製作費、チケット販売手数料など
記録費	録画費、写真費、記録映像作成費ほか
消耗品費	事業に係る消耗品費
保険料	ワークショップ参加者等保険料ほか

※対象経費としての判断が困難な項目等は、関係者間で協議し決定する。

２　対象外経費

① 事業実施団体以外の者が支出した経費
② 事業実施団体及び申請者が請求者となっている経費（例：利用料金（地方自治法第 244 条の 2 第 8 項の規定によるもの）を収受する指定管理者が自ら当該施設を使用して事業を実施した場合に、自身に支払う形となる利用料金等）
③ 地域創造負担を超えるアシスタント・共演者等に係る経費
④ 打ち上げ費、その他飲食関係費（ケータリングを含む）
⑤ 手土産代、記念品代、出演者等への花束代等物品による謝礼費用
⑥ 事務局経常費（事務所維持費、職員給与等）
⑦ その他、対象経費として適当でないと地域創造が判断したもの

コーディネータープロフィール

●大澤苑美（八戸市まちづくり文化推進室　主事兼学芸員）

1983 年名古屋市生まれ。東京藝術大学大学院修了。2004 ～ 2006 年取手アートプロジェクト（茨城県取手市）運営スタッフ。2008 年から（一財）地域創造に勤務し「公共ホール現代ダンス活性化事業（ダン活）」を担当。2011 年 4 月より現職。コンテンポラリーダンスを軸に、地域の資源や人を巻き込んで行う「南郷アートプロジェクト」、八戸の工場とアートを組み合わせて魅力の発信をする「八戸工場大学」などのアートプロジェクトの企画運営を担当するほか、八戸市新美術館準備など八戸市の文化行政に携わる。

●小岩秀太郎（東京鹿踊代表／縦糸横糸合同会社代表）

1977 年岩手県一関市生まれ。小学校から郷土芸能「鹿（シシ）踊」を始める。関東の大学で外国語文化を学び、台湾での留学を経て、自らとそれを形作る文化について考えるようになる。帰国後、郷土芸能のネットワーク組織（公社）全日本郷土芸能協会に入職、芸能の魅力発信や支援、コーディネートに携わる。また、東京鹿踊ならびに縦糸横糸合同会社を組織し、風土とそのくらしの中で受け継がれてきた地域文化（芸能、祭り、技、食など）の継承と発展、関わり方の入口をデザインする企画提案を行っている。（公社）全日本郷土芸能協会理事（東京都）、縦糸横糸合同会社代表（宮城県仙台市）、東京鹿踊代表、行山流舞川鹿子躍保存会員（岩手県一関市）。

●神前沙織（NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク (JCDN)　チーフ・コーディネーター、プランナー）

2005 年より JCDN にて「踊りに行くぜ！！」等のプロダクション・マネージャーを担当。2009 年以降は、子供から大人まであらゆる人を対象とした「コミュニティダンス」の普及に携わり、多数の市民参加公演をコーディネートする。他に、教育機関や高齢者 / 児童福祉施設、地域のお祭りなどでのダンスプログラムの企画・コーディネートなど。現在の主なプロジェクトは「こちかぜキッズダンス」「コミュニティダンス・ファシリテーター養成スクール」「創造的なダンスを用いた、児童青少年の自己肯定感向上プロジェクト」「コンテンポラリーダンス・プラットフォームを活用した振付家育成事業」「三陸国際芸術祭」など。

●坂田雄平（NPO 法人いわてアートサポートセンター / 株式会社 reto プロデューサー）

宮古市民文化会館プロデューサー・岩手県文化芸術コーディネーター。その他、地域とアートを繋げるプロジェクトデザインナーとして活動。三陸国際芸術祭総合ディレクターなども務める。2003 年より桜美林大学舞台芸術研究所チーフとして付属劇場を立ち上げ。2007 年より財団法人地域創造にて演劇事業や調査研究事業に携わる。2012 年より北九州芸術劇場にて演劇・ダンス事業のほか、フェスティバル事業や領域横断型プロジェクトを担当し、現職。

●中冨勝裕（(公財) 横浜市芸術文化振興財団　横浜赤レンガ倉庫 1 号館 プロデューサー）

2006 年より横浜赤レンガ倉庫 1 号館にて、国際的なダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」を始め、海外との共同制作や数々のダンス公演を担当。アーティストの育成、発信や活動場所拡充のため、国内外の劇場やフェスティバル等のネットワーク構築、連携に力を入れている。また舞台芸術の新たな観客創造を目指し、地域・企業と劇場をつなぐ事業を手がけている。Seoul Choreography Contest 審査員（2010 年韓国）、WIFI Body Festival New Choreographers Competition 審査員（2014 年フィリピン）も務めた。

●中西麻友（NPO 法人芸術家と子どもたち　事務局長）

1980 年大阪生まれ。成安造形大学デザイン科写真クラス卒業。2006 ～ 2008 年大阪市内の小学校に教諭として勤務。その後 1 年半のイギリス留学を経て、2011 年 3 月より「NPO 法人芸術家と子どもたち」に勤務。ワークショップ・コーディネーターとして、学校 (特別支援学級含む) や幼稚園、保育園、児童養護施設、障害児入所施設等での事業を担当。

●宮久保真紀（Dance New Air チーフプロデューサー）

1997 年～ 2015 年、スパイラル /（株）ワコールアートセンターに勤務。パフォーミングアーツを担当する他、スパイラル内外の展覧会やイベント企画に携わる。2 年に一度、東京・青山を中心に開催している国際ダンスフェスティバル「Dance New Air」には前身のダンスビエンナーレトーキョー 2004 から参加。劇場空間だけではなく、屋外スペースや映画館、ブックセンターなど様々な場所を舞台にダンスを通して新たな可能性を提案している。2015 年 8 月より（一社）ダンス・ニッポン・アソシエイツ代表理事。

平成 30 年度公共ホール現代ダンス活性化事業報告書

発行／一般財団法人地域創造
〒 107-0052　東京都港区赤坂 2-9-11 オリックス赤坂 2 丁目ビル 9 階
Tel.03-5573-4055、4077　Fax.03-5573-4060
発行日／令和元（2019）年 6 月